

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4020	授業科目	発達心理学特論 A		
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	認知・自己意識・社会性・言語・遊びの多領域にわたる発達の様相を，論文・専門書講読を通して理解する。また，生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に対する実際的な支援例を学びながら，そうした子どもたちに向けた支援の可能性について，適宜，検討・議論する。				
到達目標	多領域にわたる発達の様相を，乳幼児期・児童期・青年期・成人期にわたり縦断的に学ぶとともに，そこに見られる個人差について理解する。また，それらの知見を踏まえ，生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に向けた援助計画の立案・評価ができる。				
成績評価基準	レポートに関しては，論理性やオリジナリティを考慮して評価する。				
留意事項					
教材					
授業予定	第1回：自己意識の発達Ⅰ 第2回：自己意識の発達Ⅱ 第3回：自己意識の発達Ⅲ 第4回：遊びの原理 第5回：遊びの発達Ⅰ 第6回：遊びの発達Ⅱ 第7回：社会性の発達Ⅰ 第8回：社会性の発達Ⅱ 第9回：言語の発達Ⅰ 第10回：言語の発達Ⅱ 第11回：認知・思考の発達Ⅰ 第12回：認知・思考の発達Ⅱ 第13回：発達障害 第14回：発達障害と生活支援 第15回：発達障害と学習支援 定期試験				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4030	授業科目	発達心理学特論B		
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義		
期間	第2期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	認知・思考の発達を支える認知機能として、ワーキングメモリを取り上げる。ワーキングメモリについて最新の知見を概観した後に、発達障害とワーキングメモリの関連について解説する。さらに、ワーキングメモリに着目した支援の在り方について議論を深める。				
到達目標	認知・思考の発達を支えるワーキングメモリについて理解を深めるとともに、ワーキングメモリが小さいために生活・学習場面で躓きを示す幼児・生徒に向けた援助計画の立案・評価ができる。				
成績評価基準	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する。				
留意事項					
教材	『ワーキングメモリと特別な支援：一人ひとりの学習のニーズに応える』				
授業予定	第1回：ワーキングメモリとは 第2回：LDとワーキングメモリとの関連 第3回：ADHDとワーキングメモリとの関連 第4回：ワーキングメモリの発達差 第5回：ワーキングメモリの個人差Ⅰ 第6回：ワーキングメモリの個人差Ⅱ 第7回：ワーキングメモリと教育 第8回：ワーキングメモリが小さい子どもの行動特徴 第9回：ワーキングメモリの測定方法Ⅰ 第10回：ワーキングメモリの測定方法Ⅱ 第11回：ワーキングメモリの測定方法Ⅲ 第12回：幼児に対する教育的取り組み 第13回：児童に対する教育的取り組み 第14回：青年に対する教育的取り組み 第15回：ワーキングメモリの視点にもとづいた援助計画の立案				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4040	授業科目	生理心理学特論 A		
担当者	石原 金由	授業形態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>本授業では、生理心理学の基礎知識である「脳と神経系」について解説した後に、「睡眠」に焦点を当て、アメリカ睡眠学会の編集した「Basic of Sleep Guide」を適宜解説を加えながら講読する。ガイドブック講読によって、睡眠研究に関する基本的知識を習得する。課題として、受講者は研究論文を1本選択し、それをまとめてもらう。</p>				
到 達 目 標	「脳と神経系」及び「睡眠」に関する基礎知識を習得し、				
成 績 評 価 基 準	講読の準備状況と各自が選択した研究論文(1本)のレジメを評価する。				
留 意 事 項	特になし				
教 材	Sleep Research Society: Basic of Sleep Guide				
授 業 予 定	<p>第1回：脳と神経系Ⅰ 第2回：脳と神経系Ⅱ 第3回：脳と神経系Ⅲ 第4回：睡眠の測定法 第5回：睡眠と発達Ⅰ（講読と解説） 第6回：睡眠と発達Ⅱ（講読と解説） 第7回：睡眠のメカニズムⅠ（講読と解説） 第8回：睡眠のメカニズムⅡ（講読と解説） 第9回：断眠と睡眠制限Ⅰ（講読と解説） 第10回：断眠と睡眠制限Ⅱ（講読と解説） 第11回：概日リズムからみた睡眠Ⅰ（講読と解説） 第12回：概日リズムからみた睡眠Ⅱ（講読と解説） 第13回：概日リズムからみた睡眠Ⅲ（講読と解説） 第14回：睡眠と内分泌系（講読と解説） 第15回：睡眠と自律神経系（講読と解説）</p>				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4050	授業科目	生理心理学特論B		
担当者	石原 金由	授業形態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	「睡眠」と「健康」をキーワードとして、現代の睡眠問題、とくに発達期にある子どもを中心として扱う。Oskar & Carskadon(Eds.)の「Sleep in Children and Adolescents」の一部を講読し、思春期までの子どもを対象とした睡眠に関する文献の講読を通して理解を深めていく。				
到 達 目 標	子どもの睡眠問題について、様々な視点から理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	講読の準備状況を評価する。また、受講者は研究論文を1本選択し、発表してもらう。				
留 意 事 項	特になし				
教 材	Oskar & Carskadon(Eds.) 2007 Sleep in Children and Adolescents Saunders.				
授 業 予 定	第1回：乳幼児から思春期までの睡眠発達Ⅰ（講読） 第2回：乳幼児から思春期までの睡眠発達Ⅱ（講読） 第3回：乳幼児から思春期までの睡眠発達Ⅲ（講読） 第4回：概日リズムの発達Ⅰ（講読） 第5回：概日リズムの発達Ⅱ（講読） 第6回：子どもの睡眠問題に関する分類と疫学Ⅰ（講読） 第7回：子どもの睡眠問題に関する分類と疫学Ⅱ（講読） 第8回：子どもの就床時刻と中途覚醒Ⅰ（講読） 第9回：子どもの就床時刻と中途覚醒Ⅱ（講読） 第10回：睡眠不足の影響（講読） 第11回：朝型－夜型Ⅰ 第12回：朝型－夜型Ⅱ 第13回：研究論文講読Ⅰ 第14回：研究論文講読Ⅱ 第15回：研究論文講読Ⅲ				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論																																
授業コード	M4060	授業科目	生理心理学演習																																
担当者	石原 金由	授業形態	演習																																
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II																														
授業概要	現代人の抱えている様々な問題のうち、睡眠と健康を取り上げ、これらを取り巻く心理・社会的環境との関連性を追究し、議論していく。授業は、受講生の研究テーマに基づいて、文献発表を中心に展開される。定期的に、研究計画や方法についても発表してもらい、議論してゆく。																																		
到達目標	修士論文を念頭に置いて、資料の収集・発表を行い、研究計画・方法についての議論を行う。この授業を通して、より専門的知識・技能を習得する。																																		
成績評価基準	自己の選択した研究テーマについて、いかに熱心かつ深く追究したかを評価する。																																		
留意事項	特になし																																		
教材	なし																																		
授業予定	<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：研究テーマ及び研究計画の構想</td> <td>第16回：文献発表13</td> </tr> <tr> <td>第2回：文献発表1</td> <td>第17回：文献発表14</td> </tr> <tr> <td>第3回：文献発表2</td> <td>第18回：文献発表15</td> </tr> <tr> <td>第4回：文献発表3</td> <td>第19回：文献発表16</td> </tr> <tr> <td>第5回：文献発表4</td> <td>第20回：文献発表17</td> </tr> <tr> <td>第6回：文献発表5</td> <td>第21回：研究計画の発表1</td> </tr> <tr> <td>第7回：文献発表6</td> <td>第22回：研究計画の発表2</td> </tr> <tr> <td>第8回：文献発表7</td> <td>第23回：文献発表18</td> </tr> <tr> <td>第9回：文献発表8</td> <td>第24回：文献発表19</td> </tr> <tr> <td>第10回：文献発表9</td> <td>第25回：文献発表20</td> </tr> <tr> <td>第11回：文献発表10</td> <td>第26回：文献発表21</td> </tr> <tr> <td>第12回：文献発表11</td> <td>第27回：文献発表22</td> </tr> <tr> <td>第13回：文献発表12</td> <td>第28回：文献発表23</td> </tr> <tr> <td>第14回：中間報告1</td> <td>第29回：研究計画の発表3</td> </tr> <tr> <td>第15回：中間報告2</td> <td>第30回：研究計画の発表4</td> </tr> </table>					第1回：研究テーマ及び研究計画の構想	第16回：文献発表13	第2回：文献発表1	第17回：文献発表14	第3回：文献発表2	第18回：文献発表15	第4回：文献発表3	第19回：文献発表16	第5回：文献発表4	第20回：文献発表17	第6回：文献発表5	第21回：研究計画の発表1	第7回：文献発表6	第22回：研究計画の発表2	第8回：文献発表7	第23回：文献発表18	第9回：文献発表8	第24回：文献発表19	第10回：文献発表9	第25回：文献発表20	第11回：文献発表10	第26回：文献発表21	第12回：文献発表11	第27回：文献発表22	第13回：文献発表12	第28回：文献発表23	第14回：中間報告1	第29回：研究計画の発表3	第15回：中間報告2	第30回：研究計画の発表4
第1回：研究テーマ及び研究計画の構想	第16回：文献発表13																																		
第2回：文献発表1	第17回：文献発表14																																		
第3回：文献発表2	第18回：文献発表15																																		
第4回：文献発表3	第19回：文献発表16																																		
第5回：文献発表4	第20回：文献発表17																																		
第6回：文献発表5	第21回：研究計画の発表1																																		
第7回：文献発表6	第22回：研究計画の発表2																																		
第8回：文献発表7	第23回：文献発表18																																		
第9回：文献発表8	第24回：文献発表19																																		
第10回：文献発表9	第25回：文献発表20																																		
第11回：文献発表10	第26回：文献発表21																																		
第12回：文献発表11	第27回：文献発表22																																		
第13回：文献発表12	第28回：文献発表23																																		
第14回：中間報告1	第29回：研究計画の発表3																																		
第15回：中間報告2	第30回：研究計画の発表4																																		

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4090	授業科目	大脳発達学特論		
担当者	林 泰資	授業形態	講義		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	運動機能、感覚機能、連合機能など、人間存在の源泉としての脳のもつ機能とその特徴に関する理解を深める。また、脳の発達や可塑性、脳とストレスあるいは心との関係について学び、人間理解に向けての脳科学の果たす役割と可能性について考察する。				
到達目標	種々の脳機能の基礎過程、さらには知・情・意といった人間のもつ卓越した脳機能について脳科学の知見を駆使し考察することができる能力を養う。				
成績評価基準	課題レポート、質疑応答、受講状況などから総合的に評価する。				
留意事項	脳科学と周辺領域の書籍、学術雑誌などに目を通し、文献検索を行うなど、関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。				
教材	参考資料、文献などを必要に応じて配付または紹介する。				
授業予定	脳と運動制御、脳の感覚情報処理、脳の連合機能、脳の発達、脳の可塑性、脳と学習・記憶、脳とストレス、脳と精神科学、脳と心、脳科学と人間理解といった事項について最新の知見に基づき解説する。				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4100	授業科目	言語発達学特論		
担当者	永田 博	授業形態	講義		
期 間	1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>1. 「音声による読み」と「音声によらない視覚的読み」の原理とそれに基づいた読みの指導法を提示する。</p> <p>2. この指導法によって学齢前の健聴児・聴覚障害児が読み能力を獲得できることを明らかにする。</p> <p>3. 指導法の手順については2つの研究論文を読んでその具体像を得る。</p>				
到 達 目 標	読みの原理と指導法について理解し、それを幼稚園・小学校の教育現場に具体的に展開できる知識を習得する。				
成 績 評 価 基 準	<p>1. 授業への取り組み（40%）</p> <p>2. 試験（60%）：読みの原理と指導法を幼児・児童教育への適用可能性の観点から自由に論評してもらおう（大学指定の試験用紙B4罫あり：2枚）</p>				
留 意 事 項	英文テキストは毎回事前に読んでおくこと。英文はクリアである。内容も難しくはない。				
教 材	Steinberg, D. D., Nagata, H., & Aline, D. P. (2001). <i>Psycholinguistics: Language, mind and world</i> . 2nd ed. Pearson Educationの3章と2章の一部。その他, 雑誌論文。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：1歳児の読み能力 2. Writing systems and speech 3. The whole-word vs. phonics/decoding controversy 4. The whole-word approach 5. The phonics/decoding approach 6. More on the whole-word approach 7. A universal four-phase reading program 8. Results of the reading program in the pre-school and in the home 9. The fallacious notion of reading readiness 10. The advantages of early reading for pre-school age children 11. The written language bilingual approach for complete communication 12. A program for teaching written language: Guiding principles 13. A four-phase program for teaching written language 14. スタインバーク・迫田（1982）保育園2歳児の読みの指導. 読書科学, 26, 115-130. 15. スタインバーク他（1982）後天性聴覚障害3歳男児へ口話, 手話によらない読みの指導. ろう教育科学, 24, 111-142. 16. 試験 				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4140	授 業 科 目	発達心理学演習		
担 当 者	湯澤 美紀	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	授業は、生涯発達心理学に関する理解を軸としながら、現代社会における人間の発達を取り巻く諸課題を、文献収集・講読・分析を通して明らかにする。それらの学びを踏まえた上で、学生自らがリサーチクエッションを導出し、研究を計画・実行し、発達心理学における新たな知見を提出する。				
到 達 目 標	学生が、主体的な学びを通して、人間の発達を巨視的・微視的観点から分析・考察する能力を身につけるとともに、自らが導出したリサーチクエッションの問題解決に向け、心理学的手法を適用できる。研究を遂行し、情報を収集・整理・分析し、発達心理学における新たな知見を提出する。また、論文執筆を通して、自ら得た知見とその意義を論理的に表現できる能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	学生の自ら学ぶ意欲・態度と、毎回の報告、研究成果をもとに総合的に評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	特に使用しない。				
授 業 予 定	第 1 回：乳児期から幼児期：心理的基盤と現代の社会環境における諸問題（1） 文献収集 第 2 回：乳児期から幼児期：心理的基盤と現代の社会環境における諸問題（2） 文献講読 第 3 回：乳児期から幼児期：心理的基盤と現代の社会環境における諸問題（3） 資料分析 第 4 回：乳児期から幼児期：心理的基盤と現代の社会環境における諸問題（4） 発表 第 5 回：学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（1） 文献収集 第 6 回：学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（2） 文献講読 第 7 回：学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（3） 資料分析 第 8 回：学童期から青年期：社会的自立に向けた課題（4） 発表 第 9 回：成人期から老年期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（1） 文献収集 第 10 回：成人期から老年期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（2） 文献講読 第 11 回：成人期から老年期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（3） 資料分析 第 12 回：成人期から老年期：現代社会をよりよく生きるための諸課題（4） 発表 第 13 回：リサーチクエッションの導出（1） 文献整理 第 14 回：リサーチクエッションの導出（2） 資料分析 第 15 回：研究の計画発表 第 16 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに先行研究の整理 第 17 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに論文構成の提出 第 18 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析方法の精査 第 19 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに問題点の修正 第 20 回：研究成果の中間報告 第 21 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに分析 第 22 回：研究・フィールドワークの実施報告ならびに考察 第 23 回：論文目的部分提出ならびに助言・指導 第 24 回：論文方法部分提出ならびに助言・指導 第 25 回：論文結果部分提出ならびに助言・指導 第 26 回：論文考察部分提出ならびに助言・指導 第 27 回：論文要旨作成ならびに校閲 第 28 回：完成論文の校閲 第 29 回：口頭発表準備 第 30 回：口頭発表ならびに講評				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達基礎論		
授業コード	M4170	授業科目	研究法特論		
担当者	石原 金由	授業形態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	心理学の研究成果は実証的研究に基づいて蓄積されたものであり、それは工夫され、研究計画によって左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究及び調査研究に関する研究法について講義する。				
到 達 目 標	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力を養う。				
成 績 評 価 基 準	出席状況（減点法）と論文批評のレポート。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	南風原ら 2001 心理学研究法入門 東大出版				
授 業 予 定	<p>実験計画法について講義した後に、調査研究（相関研究）の長所・短所を解説する。また、種々の研究例を取り上げ、実際に研究批判を行ってもらう。</p> <p>第1回 研究法の必要性 第2回 量的調査1 第3回 量的調査2 第4回 量的調査3 第5回 実験研究1 第6回 実験研究2 第7回 実験研究3 第8回 研究批判1 第9回 研究批判2 第10回 準実験 第11回 単一事例研究1 第12回 単一事例研究2 第13回 研究批判3 第14回 研究批判4 第15回 研究計画の発表 第16回 レポート</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4210	授 業 科 目	教育実践特論 I A		
担 当 者	小田 久美子	授 業 形 態	講義（演習）を含む		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	子どもの描画発達に関する文献を精読する。				
到 達 目 標	子どもの発達と描画活動の関係について学び、理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	課題、口頭発表、レポート等の総合評定とする。				
留 意 事 項	必要に応じ適宜指示をする。				
教 材	<p>グリーン・V.トーマス/アンジェル・M.J.シルク『子どもの描画心理学』りぶらりあ選書/法政大学出版局 『小学校学習指導要領』 『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、必要に応じ適宜指示する。</p>				
授 業 予 定	<p>授業計画 第1回：はじめに 第2回：『子どもの描画心理学』第1章 描画研究史の分類 第3回：『子どもの描画心理学』第2章 描画の特徴と発達段階 第4回：『子どもの描画心理学』第3章 定義 第5回：『子どもの描画心理学』第4章 アプローチの方法 第6回：『子どもの描画心理学』第5章 構成要素 第7回：『子どもの描画心理学』第6章 読み取る情報 第8回：『子どもの描画心理学』第7章 感情の伝達と芸術療法 第9回：『子どもの描画心理学』第8章 描画発達と才能 第10回：『子どもの描画心理学』第9章 芸術的特性 第11回：『子どもの描画心理学』第10章 議論と研究課題 第12回：美術教育の目的 第13回：日本の美術教育理論 第14回：世界の美術教育理論 第15回：まとめ 定期試験</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4220	授 業 科 目	教育実践特論 I B		
担 当 者	小田 久美子	授 業 形 態	講義（演習）を含む		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	子どもの描画発達に関する先行研究を概観するため、様々な文献を講読して理解を深める。				
到 達 目 標	子どもの発達と描画活動の関係について学びながら、問題の所在を明らかにしていく。				
成 績 評 価 基 準	課題、口頭発表、レポート等の総合評定とする。				
留 意 事 項	必要に応じ適宜指示をする。				
教 材	『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、必要に応じ適宜指示する。				
授 業 予 定	授業計画 第1回：はじめに 第2回：描画研究史の分類について 第3回：描画の特徴と発達段階について 第4回：定義について 第5回：アプローチの方法について 第6回：構成要素について 第7回：読み取る情報について 第8回：感情の伝達と芸術療法について 第9回：描画発達と才能について 第10回：芸術的特性について 第11回：議論と研究課題について 第12回：先行研究の総括 第13回：課題の発掘 第14回：課題の発掘 第15回：まとめ 定期試験				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4260	授業科目	教育実践特論ⅡA		
担当者	片山裕之・赤木雅宣	授業形態	講義（演習を含む）		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	<p>全国学力・学習状況調査、OECD加盟国による生徒の学習状況調査（PISA）、国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）などの結果をもとに、我が国の子どもの抱えている学力を多面的に分析する。そのうえで、小学校の国語（読解力、表現力）、図画工作（表現力、鑑賞力）に関して、より高度な総合的な指導技術を身に付けるため、カリキュラム開発、教材開発、形成的評価に基づく個別指導などの方策について、理論的な背景を検討するとともに、実際に構築し、現場での検証を行う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導に関する理論的研究、調査的研究、開発的研究、実践的研究のあり方を理解する。 ・専修免許取得に必要な高度な専門的知識と指導力を育成する。 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成、レポート発表（プレゼンテーション）、討論の様子、作品、他 				
留意事項					
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 総則 国語編 図画工作編』 ・PISA調査、全国学力・学習状況調査の結果他 				
授業予定	<p>第1回：PISA調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について（内容理解）（片山）</p> <p>第2回：PISA調査、全国学力・学習状況調査から見る今日的課題について（課題の解決を探る）（片山）</p> <p>第3回：図画工作科教育の現状と今日的課題（片山）</p> <p>第4回：図画工作科「絵や立体で表す」領域の指導と造形力の育成（片山）</p> <p>第5回：図画工作科「鑑賞」領域の指導と鑑賞力の育成（片山）</p> <p>第6回：造形力育成に向けた教材開発のあり方（片山）</p> <p>第7回：鑑賞力育成に向けた教材開発のあり方（片山）</p> <p>第8回：国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成（読解力とは何か）（赤木）</p> <p>第9回：国語科「読むこと」領域の指導と読解力の育成（読解力育成の方策）（赤木）</p> <p>第10回：国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成（表現力とは何か）（赤木）</p> <p>第11回：国語科「書くこと」領域の指導と表現力の育成（表現力育成の方策）（赤木）</p> <p>第12回：国語科「話すこと・聞くこと」領域の指導と対話力の育成（赤木）</p> <p>第13回：国語科「伝統的な言語文化」の指導と言語感覚の育成（赤木）</p> <p>第14回：読解力育成に向けた教材開発と評価のあり方（赤木）</p> <p>第15回：表現力育成に向けた教材開発と評価のあり方（赤木）</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4290	授業科目	教育実践特論ⅡB		
担当者	片山裕之・赤木雅宣	授業形態	講義（演習を含む）		
期間	第2期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	<p>国語科・図画工作科で培うべき学力を明らかにし、表現力、読解力、言語力、創造力、造形力、鑑賞力などの育成を目指した小学校低学年から高学年にかけての教育カリキュラムを構想する。</p> <p>その際、scopeとsequenceの両側面から考察し、試案の作成を行う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力や読解力、言語力などの育成のためのカリキュラム試案を作成する。 ・教育実践に必要な高度な専門的資質と能力を育成する。 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成、レポート発表（プレゼンテーション）、討論の様子、作品、他 				
留意事項					
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 総則 国語編 図画工作編』 ・PISA調査、全国学力・学習状況調査の結果他 				
授業予定	<p>第1回：体験的な学習と問題解決的な学習について（それぞれの意義） (片山)</p> <p>第2回：体験的な学習と問題解決的な学習について（学習の展開） (片山)</p> <p>第3回：社会教育の中で培う図画工作について (片山)</p> <p>第4回：生活科・総合的な学習の中で培う創造力について (片山)</p> <p>第5回：創造力育成カリキュラム作成 (片山)</p> <p>第6回：造形力育成カリキュラム作成 (片山)</p> <p>第7回：鑑賞力育成カリキュラム作成 (片山)</p> <p>第8回：生活科・総合的な学習の中で培う言語力について（生活科を中心に） (赤木)</p> <p>第9回：生活科・総合的な学習の中で培う言語力について（総合的な学習を中心に） (赤木)</p> <p>第10回：社会教育の中で培う言語力について（地域との連携を中心に） (赤木)</p> <p>第11回：社会教育の中で培う言語力について（公民館活動などを中心に） (赤木)</p> <p>第12回：家庭教育の中で培う言語力について (赤木)</p> <p>第13回：言語力育成カリキュラム作成Ⅰ（幼稚園～小学校入門期） (赤木)</p> <p>第14回：言語力育成カリキュラム作成Ⅱ（小学校低学年～小学校中学年） (赤木)</p> <p>第15回：言語力育成カリキュラム作成Ⅲ（小学校高学年～中学校） (赤木)</p>				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4320	授 業 科 目	教育実践特論ⅢA		
担 当 者	本保 恭子	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育（学）の中で、「特別支援教育」と「母子保健」の領域のシステムや取り組みの実際について解説する。治療教育（学）では、単に「治療」を障害や疾病の除去や改善、欠陥や障害の除去・軽減というように狭く捉えるのではなく、「治療教育を受ける人々の生活、人生、生命を豊かなものにしていく営み」として実施されているが、主にその観点から発達支援の教育を中心としたこの領域の諸問題とあり方について論考する。</p>				
到 達 目 標	<p>治療教育の場と実施の内容を理解し、受講者自らが主体的に「人が生活を豊かなものにしていくための営み」に参加できるようになることを目的とする。</p>				
成 績 評 価 基 準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の小テスト 40% ・ レポート 60% 				
留 意 事 項					
教 材	適宜紹介、テキストは適宜指示				
授 業 予 定	<p>第1回：治療教育の礎を築いた人々（1） 第2回：治療教育の礎を築いた人々（2） 第3回：治療教育の礎を築いた人々（3） 第4回：障害児と家族の暮らし（1） 第5回：障害児と家族の暮らし（2） 第6回：障害児と家族の暮らし（3） 第7回：発達支援としての早期対応（母子保健の立場から 1） 第8回：発達支援としての早期対応（母子保健の立場から 2） 第9回：発達支援と児童福祉 1 第10回：発達支援と児童福祉 2 第11回：発達支援と特別支援教育 1 第12回：発達支援と特別支援教育 2 第13回：発達支援と特別支援教育 3 第14回：障害児の就労支援（18歳以降の生活） 第15回：発達支援に求められる基本姿勢 試験</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4330	授業科目	教育実践特論ⅢB		
担当者	本保 恭子	授業形態	講義（演習を含む）		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>障害児・者やその家族が希望を持って生活するための「治療」と「教育」に関する研究・実践を行う治療教育（学）の中で、障害児を取り巻く望ましい社会環境の一端を担う「健常児への障害理解教育」と「特別支援教育」の実際について解説し、この領域の諸問題とあり方について論考する。また、効果的な療育環境、文化としての福祉についても考えていきたい。</p>				
到 達 目 標	<p>障害児・者を取り巻く社会・環境について関心を持ち、「すべての人が社会で当たり前で生活をしていくことができる教育環境や地域づくり」について実践的な行為ができる人になることを目的とする。</p>				
成 績 評 価 基 準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の小テスト 40% ・ レポート 60% 				
留 意 事 項					
教 材	適宜紹介、テキストは適宜指示				
授 業 予 定	<p>第1回：幼児期の障害理解教育 1 第2回：幼児期の障害理解教育 2 第3回：学童期と障害理解 1 第4回：学童期と障害理解 2 第5回：青年期以降の障害理解啓発活動 1 第6回：青年期以降の障害理解啓発活動 2 第7回：発達支援を担う人々と関係専門機関 1 第8回：発達支援を担う人々と関係専門機関 2 第9回：発達支援を担う人々と関係専門機関 3 第10回：発達支援を担う専門職の養成 第11回：特別支援教育 1 第12回：特別支援教育 2 第13回：特別支援教育 3 第14回：障害児・者のいる家族への支援に求められる基本姿勢 第15回：新しい社会づくり 試験</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論				
授業コード	M4340	授 業 科 目	発達支援論演習 I				
担 当 者	小田 久美子	授 業 形 態	演習				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II		
授 業 概 要	幼児の描画発達とその周辺領域にあるカレントな課題を発掘し、美術的・教育的視点により解明していく。						
到 達 目 標	○広い視野に立って問題の所在を明らかにし、研究課題を設定することができる。 ○研究計画を立案し、それにしたがって分析・考察を進めることができる。 ○成果をまとめ、論文を執筆する研究能力を身につける。						
成 績 評 価 基 準	研究課題に対する情熱、姿勢、研究成果等の総合評定とする。						
留 意 事 項	必要に応じ適宜指示する。						
教 材	『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、必要に応じ適宜指示する。						
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 授業計画 第1回：論文の構成 第2回：文献・資料の調査方法 第3回：参考文献・資料の引用 第4回：論理の構築と日本語表現 第5回：主題の選定 第6回：美術教育に関する先行研究（国内） 第7回：美術教育に関する先行研究（海外） 第8回：先行研究の概観 第9回：研究計画の作成①（背景と目的） 第10回：研究計画の作成②（方法と内容構成） 第11回：文献の整理①美術教育関連図書 第12回：文献の整理②描画心理学関連図書 第13回：文献の分析①幼年造形教育 第14回：文献の分析②図画工作科教育 第15回：文献の考察①幼年造形教育 </td> <td style="vertical-align: top;"> 第16回：文献の考察②図画工作科教育 第17回：資料の整理 第18回：資料の分析と考察 第19回：文献および資料の分析と考察 第20回：論究と執筆①問題の所在 第21回：論究と執筆②先行研究 第22回：論究と執筆③内容構成 第23回：論究と執筆④分析方法 第24回：論究と執筆⑤分析と考察 第25回：論究と執筆⑥検証と解明 第26回：論究と執筆⑦総括的考察 第27回：論究と執筆⑧全体の校閲 第28回：註・参考資料・文献の確認 第29回：アブストラクト作成 第30回：総括と講評 定期試験 </td> </tr> </table>					授業計画 第1回：論文の構成 第2回：文献・資料の調査方法 第3回：参考文献・資料の引用 第4回：論理の構築と日本語表現 第5回：主題の選定 第6回：美術教育に関する先行研究（国内） 第7回：美術教育に関する先行研究（海外） 第8回：先行研究の概観 第9回：研究計画の作成①（背景と目的） 第10回：研究計画の作成②（方法と内容構成） 第11回：文献の整理①美術教育関連図書 第12回：文献の整理②描画心理学関連図書 第13回：文献の分析①幼年造形教育 第14回：文献の分析②図画工作科教育 第15回：文献の考察①幼年造形教育	第16回：文献の考察②図画工作科教育 第17回：資料の整理 第18回：資料の分析と考察 第19回：文献および資料の分析と考察 第20回：論究と執筆①問題の所在 第21回：論究と執筆②先行研究 第22回：論究と執筆③内容構成 第23回：論究と執筆④分析方法 第24回：論究と執筆⑤分析と考察 第25回：論究と執筆⑥検証と解明 第26回：論究と執筆⑦総括的考察 第27回：論究と執筆⑧全体の校閲 第28回：註・参考資料・文献の確認 第29回：アブストラクト作成 第30回：総括と講評 定期試験
授業計画 第1回：論文の構成 第2回：文献・資料の調査方法 第3回：参考文献・資料の引用 第4回：論理の構築と日本語表現 第5回：主題の選定 第6回：美術教育に関する先行研究（国内） 第7回：美術教育に関する先行研究（海外） 第8回：先行研究の概観 第9回：研究計画の作成①（背景と目的） 第10回：研究計画の作成②（方法と内容構成） 第11回：文献の整理①美術教育関連図書 第12回：文献の整理②描画心理学関連図書 第13回：文献の分析①幼年造形教育 第14回：文献の分析②図画工作科教育 第15回：文献の考察①幼年造形教育	第16回：文献の考察②図画工作科教育 第17回：資料の整理 第18回：資料の分析と考察 第19回：文献および資料の分析と考察 第20回：論究と執筆①問題の所在 第21回：論究と執筆②先行研究 第22回：論究と執筆③内容構成 第23回：論究と執筆④分析方法 第24回：論究と執筆⑤分析と考察 第25回：論究と執筆⑥検証と解明 第26回：論究と執筆⑦総括的考察 第27回：論究と執筆⑧全体の校閲 第28回：註・参考資料・文献の確認 第29回：アブストラクト作成 第30回：総括と講評 定期試験						

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達支援論																																																		
授業コード	M4350	授業科目	発達支援論演習Ⅱ																																																		
担当者	本保 恭子	授業形態	演習																																																		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II																																																
授業概要	発達支援に関する今日の問題を著した内外の文献を精読するとともに、特別支援教育あるいは療育現場における直接的な実践を通して、効果的な発達支援について討議する。																																																				
到達目標	発達支援に関する学術論文を作成するための研究・執筆能力を身につける。																																																				
成績評価基準	口頭発表と研究論文の作成																																																				
留意事項																																																					
教材	適宜指示，テキストは特に定めない。																																																				
授業予定	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">第1回：}</td> <td style="width:33%;">研究テーマの選定</td> <td style="width:33%;">第16回：</td> </tr> <tr> <td>第2回：</td> <td></td> <td>第17回：</td> </tr> <tr> <td>第3回：</td> <td></td> <td>第18回：</td> </tr> <tr> <td>第4回：</td> <td></td> <td>第19回：</td> </tr> <tr> <td>第5回：</td> <td>文献収集</td> <td>第20回：</td> </tr> <tr> <td>第6回：</td> <td></td> <td>第21回：</td> </tr> <tr> <td>第7回：</td> <td></td> <td>第22回：</td> </tr> <tr> <td>第8回：</td> <td></td> <td>第23回：</td> </tr> <tr> <td>第9回：</td> <td>文献収集と購読</td> <td>第24回：</td> </tr> <tr> <td>第10回：</td> <td></td> <td>第25回：</td> </tr> <tr> <td>第11回：</td> <td></td> <td>第26回：</td> </tr> <tr> <td>第12回：</td> <td></td> <td>第27回：</td> </tr> <tr> <td>第13回：</td> <td>文献購読</td> <td>第28回：</td> </tr> <tr> <td>第14回：</td> <td></td> <td>第29回：</td> </tr> <tr> <td>第15回：</td> <td></td> <td>第30回：</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					第1回：}	研究テーマの選定	第16回：	第2回：		第17回：	第3回：		第18回：	第4回：		第19回：	第5回：	文献収集	第20回：	第6回：		第21回：	第7回：		第22回：	第8回：		第23回：	第9回：	文献収集と購読	第24回：	第10回：		第25回：	第11回：		第26回：	第12回：		第27回：	第13回：	文献購読	第28回：	第14回：		第29回：	第15回：		第30回：	定期試験		
第1回：}	研究テーマの選定	第16回：																																																			
第2回：		第17回：																																																			
第3回：		第18回：																																																			
第4回：		第19回：																																																			
第5回：	文献収集	第20回：																																																			
第6回：		第21回：																																																			
第7回：		第22回：																																																			
第8回：		第23回：																																																			
第9回：	文献収集と購読	第24回：																																																			
第10回：		第25回：																																																			
第11回：		第26回：																																																			
第12回：		第27回：																																																			
第13回：	文献購読	第28回：																																																			
第14回：		第29回：																																																			
第15回：		第30回：																																																			
定期試験																																																					

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程	研究分野／領域	発達支援論			
授業コード	M4370	授 業 科 目	児童文学特論		
担 当 者	村中 李衣	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>日本の児童文学史上、重要な意味をもつ月刊物語絵本「こどものとも」を1956年創刊時から60年を経た2013年まで読み通し、時代背景や児童観の変遷と絡めて考察を進めていく。</p> <p>敗戦後の自由と創造を希求する空気がどのように反映されたか、当時の編集者の証言や、同時代の外国の絵本事情との比較検討なども織り交ぜながら、論じていく。併せて、多様な研究の手法も学ぶ。</p>				
到 達 目 標	<p>数々のロングセラー絵本の出発点となった、福音館書店の月刊物語絵本が、戦後日本の児童文学界に果たした役割を理解するとともに、松居直という一編集者の試行錯誤の軌跡と実際に手がけた作品ごとの編集過程を照らしあわせることで、絵本とはいかなるものであるのか、受講生自らが検証し、新しい時代の新しい絵本について展望をもつ。</p>				
成 績 評 価 基 準	授業内で出される課題への取り組みの姿勢と、授業でのディスカッションを経た後の数回のレポートによって評価を行う。				
留 意 事 項					
教 材	松居直著「松居直と『こどものとも』」(ミネルヴァ書房)				
授 業 予 定	<p>第一回：月刊物語絵本の役割</p> <p>第二回：編集者と絵本</p> <p>第三回：「こどものとも」以前の月刊絵本</p> <p>第四回：創刊号誕生前後</p> <p>第五回：試行錯誤の時代</p> <p>第六回：新しい絵本表現の挑戦</p> <p>第七回：絵本作家の成長</p> <p>第八回：絵本の常識を超える</p> <p>第九回：子どもの発達に合わせて</p> <p>第九回：個性的な絵本の登場</p> <p>第十回：社会の変動を捉えて</p> <p>第十一回：編集体制の変化と作品の変化</p> <p>第十二回：新しい絵本作家の台頭</p> <p>第十三回：月刊絵本のこれから</p> <p>第十四回：月刊絵本の研究（データベース作り）</p> <p>第十五回：月刊絵本の研究（データベース作りのまとめ）</p> <p>定期試験</p>				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4380	授業科目	音楽特論		
担当者	熊澤 住子	授業形態	講義（演習を含む）		
期間	第2期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	なぜ音楽を聴いて感動するのか、作品を分析することによって探っていく。そしてその分析をとおして学んだことをもとに、作曲家の意図を汲み取った表現について考えるとともに、乳幼児期・児童期の音楽教材についても理解を深める。				
到達目標	1 楽譜から音楽を読み取ることによって、自然な表現ができるようになる。 2 乳幼児・児童にとってふさわしい音楽教材を選択できるようになる。				
成績評価基準	授業中の意欲・態度 50%，レポート課題 50%				
留意事項					
教材	適宜配付または指示する。				
授業予定	第1回：オリエンテーション・読譜についての確認 第2回：小学校の鑑賞教材 チャイコフスキー作曲 組曲「くるみ割り人形」（直感的分析） 第3回：小学校の鑑賞教材 チャイコフスキー作曲 組曲「くるみ割り人形」（楽譜を用いた客観的分析） 第4回：小学校の鑑賞教材 グリーグ作曲「ペールギュント」第1組曲（直感的分析） 第5回：小学校の鑑賞教材 グリーグ作曲「ペールギュント」第1組曲（楽譜を用いた客観的分析） 第6回：小学校の鑑賞教材 ホルスト作曲 管弦楽組曲「惑星」（直感的分析） 第7回：小学校の鑑賞教材 ホルスト作曲 管弦楽組曲「惑星」（楽譜を用いた客観的分析） 第8回：保育所・幼稚園・小学校の歌唱教材 大中恩の作品（分析・表現の可能性を探る） 第9回：保育所・幼稚園・小学校の歌唱教材 湯山 昭の作品（分析・表現の可能性を探る） 第10回：保育所・幼稚園・小学校の歌唱教材 中田喜直の作品（分析・表現の可能性を探る） 第11回：保育所・幼稚園・小学校の歌唱教材 團 伊玖磨の作品（分析・表現の可能性を探る） 第12回：小学校の共通教材（分析・表現の可能性を探る） 第13回：教材の選択Ⅰ（保育所・幼稚園） 第14回：教材の選択Ⅱ（小学校） 第15回：まとめ 定期試験				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4400	授業科目	美術特論		
担当者	片山 裕之	授業形態	講義（演習を含む）		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	美術概論， 絵画表現， 鑑賞の三分野を必要に応じて演習を交えながら授業を進める。				
到 達 目 標	美術を探究する基本的姿勢を学ばせる。また， 人間と美術との関係を考え， 美しさとは何かを探るとともに各自の感性を養うことにより， 美術教育に関する高度な資質と能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	授業態度 40 点， 制作作品・レポート 60 点				
留 意 事 項	制作作品、レポートを平均点で評価 出席も大切に扱う				
教 材	適宜配布する				
授 業 予 定	第1回：美術概論Ⅰ 第2回：美術概論Ⅱ 第3回：絵画表現Ⅰ（素描） 第4回：絵画表現Ⅱ（素描） 第5回：絵画表現Ⅲ（素描） 第6回：絵画表現Ⅳ（素描） 第7回：絵画表現Ⅴ（素描） 第8回：鑑賞Ⅰ（西洋美術史） 第9回：鑑賞Ⅱ（西洋美術史） 第10回：鑑賞Ⅲ（西洋美術史） 第11回：鑑賞Ⅳ（日本美術史） 第12回：鑑賞Ⅴ（日本美術史） 第13回：鑑賞Ⅵ（日本美術史） 第14回：美術館見学Ⅰ 第15回：美術館見学Ⅱ 定期試験				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4410	授業科目	特別支援教育特論		
担当者	東 俊一	授業形態	講義（演習を含む）		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	特別支援教育の概要を理解したうえで、その対象、実践方法、役割と連携のありかたについて学ぶ。				
到 達 目 標	障害理解だけでなく、具体的な支援方法の理解・支援計画作成、および生涯にわたる支援について理解する。				
成 績 評 価 基 準	授業内での発表およびレポート				
留 意 事 項					
教 材	適宜、指示・紹介する				
授 業 予 定	第1回：特別支援教育の意義と理念 第2回：特別支援教育の制度概要と支援体制 第3回：障害概念と特別な教育ニーズ 第4回：知的障害の実態把握とアプローチ 第5回：学習障害の実態把握とアプローチ 第6回：ADHDの実態把握とアプローチ 第7回：ASDの実態把握とアプローチ 第8回：個別の指導計画の理解と作成 第9回：個別の教育支援計画の理解と作成 第10回：校内支援体制の重要性と構築 第11回：地域支援ネットワーク 第12回：就学前期における課題と個別支援 第13回：学齢期における課題と個別支援（生活支援、学習支援） 第14回：学齢期における課題と個別支援（行動支援、対人関係の支援） 第15回：就労に関する課題と個別支援				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4420	授 業 科 目	社会教育特論		
担 当 者	西井 麻美	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I・II
授 業 概 要	今日の社会教育の在り方に関して、国際社会及び我が国の政策や実践の動向を踏まえた検討を行い、社会教育・生涯学習の領域での人材育成の観点を明らかにしていく。				
到 達 目 標	社会教育・生涯学習に関する実践と理論について把握し、これからの社会に求められる人材育成の在り方について、自分なりの見解を見いだす。				
成 績 評 価 基 準	提出課題（レポート）60%、授業への参加態度・発表40%により評価する。				
留 意 事 項	地域の社会教育活動について、視察や参加をするなどして、実際に即した検討を行ってほしい。				
教 材	参考文献 西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著『持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践』 ミネルヴァ書房 2012年				
授 業 予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 今日の社会教育・生涯学習の課題 第3回 社会教育の理論（1）学習論 第4回 社会教育の理論（2）組織論 第5回 生涯学習の理論（1）ラングランによる生涯教育の提唱 第6回 生涯学習の理論（2）ジェルピによる生涯教育論 第7回 社会教育・生涯学習の基盤（1）法規 第8回 社会教育・生涯学習の基盤（2）社会教育・生涯学習関連施設と実践 第9回 ESDとは 第10回 国連ESD政策 第11回 岡山におけるESDプロジェクト 第12回 地域のESD活動 第13回 これからESDを展開していくために：グループ討議・発表 第14回 これからの社会に求められる人材育成：グループ討議・発表 第15回 まとめ				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	発達支援論		
授業コード	M4430	授 業 科 目	生徒指導特論		
担 当 者	中内 みさ	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>学校教育における生徒指導・教育相談・キャリア教育の基礎的理論・意義と課題、歴史や現状等について理解を深める。また、それぞれの観点から、子どもの問題を理解し、支援計画を立て、支援のポイントを明確にしながら学校内外と連携して、具体的な支援をどう進めていくかを学ぶ。</p>				
到 達 目 標	<p>今日の学校教育における児童生徒支援サービス（生徒指導・教育相談・キャリア教育）の意義と課題を概説できる、また、教育現場における子どもの問題に関して、それぞれの観点から具体的にどう対応していくかに関して計画し実践できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校心理学の立場から生徒指導を理解し、子どもの問題に対して学校内外と連携をとりながら支援の計画をたて、実際に展開することができる。 ・学校教育相談の意義と特質、限界、具体的な展開の仕方等を説明できる。 ・キャリア教育の意義と内容を理解し、実際に計画をたてた支援をすることができる。 				
成 績 評 価 基 準	積極的な授業態度（30%）、レポート2回（70%）				
留 意 事 項	自分の意見、批判的態度をもつこと。授業では意見発表や討論を行う。				
教 材	テーマごとにプリント、資料を配布する。				
授 業 予 定	<p>第1回：オリエンテーションー生徒指導の意義 第2回：学校心理学の基礎 第3回：子どもを取り巻く社会の問題 第4回：子どものしょうがいと不適応について 第5回：生徒指導のねらいと課題 第6回：生徒指導の歴史ーアメリカと日本を中心に 第7回：学校教育相談の意義と基礎的理論 第8回：学校教育相談の実際 第9回：キャリア教育の意義 第10回：キャリア教育の歴史と基礎的理論 第11回：キャリア教育の実際 第12回：学校内外における連携 第13回：小学校における児童支援 第14回：中学校における生徒支援 第15回：高等学校における生徒支援 第16回：特別支援学校における児童生徒支援</p>				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4500	授 業 科 目	学校カウンセリング特論		
担 当 者	青山 新吾	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	1	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	学校カウンセリング、コンサルテーションの歴史を踏まえてその基礎理論を学ぶ。その上で、現在の学校における課題の整理とそれへの援助の在り方について取り上げる。そして、実際の学校現場での実践場面への参加機会を設けて学びを深める。				
到 達 目 標	学校カウンセリング、コンサルテーションの基礎理論及び学校現場における具体的な場面の実践的知見について理解する。				
成 績 評 価 基 準	授業での発表内容とレポート内容で総合的に評価する。				
留 意 事 項	自身の体験や参与観察等での実感と重ねながら討論を進めていきたい。				
教 材	滝口俊子・高石浩一「学校臨床心理学特論」財団法人放送大学教育振興会 その他、授業中に適宜配布する。				
授 業 予 定	第1回：学校カウンセリング・コンサルテーションとは 第2回：学校カウンセリング・コンサルテーションの実践史 第3回：心理的教育的援助サービスの技法（1）カウンセリング 第4回：心理的教育的援助サービスの技法（2）コンサルテーション 第5回：学校生活における子どもの課題 第6回：学校における子どもへの援助（1）チーム援助 第7回：学校における子どもへの援助（2）校内委員会 第8回：学校における子どもへの援助（3）外部機関との連携 第9回：学校における子どもへの援助（4）介入困難ケースのメカニズム 第10回：学校における子どもへの援助（5）子どもへの直接援助 第11回：学校における子どもへの援助・その実際（1）授業参観 第12回：学校における子どもへの援助・その実際（2）ケースカンファレンスへの参加 第13回：学校における子どもへの援助・その実際（3）保幼小中連携 第14回：学校における子どもへの援助・その実際（4）保護者への支援 第15回：まとめと振り返り				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4510	授 業 科 目	学校カウンセリング実習		
担 当 者	青山 新吾	授 業 形 態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	1	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	学校カウンセリング、コンサルテーションの基礎技法として、相手との関係形成と傾聴の基本を取り扱う。また、実際の学校現場の課題を把握するための実態把握についての基礎技法を概観する。これらを踏まえて、実際の園・学校現場でのカウンセリングやコンサルテーションへ参加し、総合的な演習を実施する。				
到 達 目 標	相手との関係形成、傾聴の技法及び学校現場における課題把握のための実態把握の基礎的事項を理解する。その上で、実際の学校現場での演習を通して、実際に学校カウンセリング、コンサルテーションで活用できる知識と技能を身に付ける。				
成 績 評 価 基 準	授業での発表内容とレポート内容で総合的に評価する。				
留 意 事 項	自身の体験や臨床実感と重ねながら討論を進められることを望む。				
教 材	滝口俊子・高石浩一「学校臨床心理学特論」財団法人放送大学教育振興会 その他、授業中に適宜配布する。				
授 業 予 定	第1回：実習のねらいと計画 第2回：関係形成の技法（1）言語的技法 第3回：関係形成の技法（2）非言語的技法 第4回：関係形成の技法（3）発達課題を有する子どもへの技法 第5回：傾聴の技法（1）子どもへの技法 第6回：傾聴の技法（2）教職員への技法 第7回：学校現場における実態把握（1）学級集団の把握 第8回：学校現場における実態把握（2）学習課題の把握 第9回：学校現場における実態把握（3）行動上の課題の把握 第10回：総合演習（1）コーディネーションのための情報整理 第11回：総合演習（2）コンサルテーションの実際 第12回：総合演習（3）教職員へのカウンセリングの実際 第13回：総合演習（4）保護者へのカウンセリングの実際 第14回：総合演習（5）保幼小連携のためのコンサルテーションの実際 第15回：まとめと振り返り				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4520	授 業 科 目	学校心理学特論		
担 当 者	多田 志麻子	授 業 形 態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	学校心理学の理論や学校教育において一人ひとりの児童生徒が会う不登校、非行、障害などの問題状況を学ぶ。また、問題状況の解決を援助し、児童生徒が成長することを促進する心理教育的援助サービスについて理論と実践の両側面から考える。				
到 達 目 標	児童生徒の問題を解決するために行う教師・保護者・カウンセラーの連携、児童生徒への援助、学校や社会の資源の活用などの心理教育的援助サービスについて理解し、実践できるようになること。				
成 績 評 価 基 準	講義での発表・討論およびレポートから総合的に評価する。				
留 意 事 項	積極的に討論や実践に取り組み、学校心理学の専門家としての役割を体得して欲しい。				
教 材	参考文献：石隈利紀 学校心理学 誠信書房 適宜資料を配付する。				
授 業 予 定	第1回：学校心理学とは 第2回：学校心理学における3段階の心理教育的援助サービス 第3回：学校心理学と近辺領域との異同 第4回：児童・生徒のアセスメント 第5回：学校のアセスメント 第6回：不登校の理解 第7回：不登校への援助・介入 第8回：発達障害の理解 第9回：発達障害の援助・介入 第10回：問題行動、精神疾患の理解 第11回：問題行動、精神疾患の援助・介入 第12回：学校教育現場へのコンサルテーション 第13回：危機介入と緊急支援 第14回：学校心理士と倫理、守秘義務 第15回：今後の課題 レポート提出				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4530	授 業 科 目	心理検査特論		
担 当 者	中内 みさ	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>福祉・教育分野でよく使用される心理教育アセスメントに関して、特に以下の検査を取り上げ、基礎的な知識や実施法、現場で実施する際の留意点等について理解を深める。 ①知能検査(田中ビネーV等)②発達関係検査(新版K式発達検査等)、③親子関係検査(TK式診断的新親子関係検査)。また、検査結果を分析し、それに基づいていかに支援計画を立てるかを学ぶ。</p> <p>なお、WISC-IV及び遠城寺式乳幼児分析的発達検査は心理検査実習で詳しく学ぶ。</p>				
到 達 目 標	<p>学校心理学における心理教育アセスメントの目的や意義について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理教育アセスメントの意義や目的、各検査等の限界などについて説明することができる。 知能検査、発達検査等の理論、実施する際の留意点や実施法などを説明することができる。 基本的な心理検査・観察法を実施・解釈し、その結果に基づいて支援の方針を提案できる。 				
成 績 評 価 基 準	積極的な授業態度 (20%)、小テスト (30%)、レポート (50%)				
留 意 事 項	検査は、田中ビネー、新版K式発達検査等を予定している。なお、WISC-IVおよび遠城寺式乳幼児分析的発達検査に関しては、心理検査実習で実施法、解釈法を詳しく学ぶ。				
教 材	適時指示する。検査用具等は必要に応じて提供する。 適時、プリントを配布する。				
授 業 予 定	第1回：心理教育アセスメントの意義と目的 第2回：心理教育アセスメントの基礎的知識1（信頼性、妥当性など） 第3回：心理教育アセスメントの基礎的知識2（検査者の条件、バイアスなど） 第4回：観察法と面接法 第5回：知能検査1（知能検査に関して、知能指数、精神年齢など） 第6回：知能検査2（田中ビネーV1） 第7回：知能検査3（田中ビネーV2） 第8回：知能検査4（グッドイナフ人物画知能検査、K-ABC） 第9回：発達関係検査1（発達・成熟・成長、発達指数など） 第10回：発達関係検査2（新版K式発達検査） 第11回：発達関係検査3（津守式乳幼児精神発達質問紙） 第12回：発達関係検査4（CLAC-II、新版S-M社会生活能力検査） 第13回：学校・学級のアセスメント 第14回：テスト・バッテリーの組み方と総括的評価の仕方 第15回：結果の伝え方と支援計画の立て方 第16回：まとめ				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4540	授 業 科 目	心理検査実習		
担 当 者	中内 みさ	授 業 形 態	実習		
期 間	第2期	単 位 数	1	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>心理検査は問題の原因などをみため、個人の可能性を見出し、将来を予測し、個人が少しでも生きやすくなるように援助計画をたてる目的で行うものである。この実習では、心理検査特論で学んだことに基づいて、代表的な知能検査、発達検査から WISC - IV 及び遠城寺式乳幼児分析的発達検査とりあげ、実施法や結果の分析の仕方を体験的に学ぶ。また、その結果をどう保護者に伝えるか、どう支援計画を立て、フォローアップしていくかについても考察していきたい。</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・WISC - IV 及び遠城寺式乳幼児分析的発達検査を実施し、その結果を分析、解釈できる。 ・解釈に基づいて被検査者あるいは保護者にうまく伝え、支援計画を立案することができる。 				
成 績 評 価 基 準	レポート（検査報告書）2回（100%）				
留 意 事 項	検査実施に当たっては、被検者に対する真摯で誠実な態度を求める。				
教 材	<p>適時、指示する。検査用具等は必要に応じて提供する。</p> <p>適時、資料を配布する。</p>				
授 業 予 定	<p>第1回：復習：心理教育アセスメントの基礎知識（心理教育アセスメントの目的、意義等）</p> <p>第2回：WISC - IV の実際 1（理論、実施法）</p> <p>第3回：WISC - IV の実際 2（実施法）</p> <p>第4回：WISC - IV の実際 3（結果の出し方と分析法）</p> <p>第5回：WISC - IV の実際 4（テストバッテリーの組み方、報告書の作成と支援計画の立て方）</p> <p>第6回：WISC - IV の実際 5（ロールプレイング）</p> <p>第7回：WISC - IV の実際 6（ロールプレイング）</p> <p>第8回：WISC - IV の実際 7（実習）</p> <p>第9回：WISC - IV の実際 8（まとめ）</p> <p>第10回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 1（理論、実施法）</p> <p>第11回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 2（結果の出し方と分析法）</p> <p>第12回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 3（テストバッテリーの組み方と結果の伝え方 等）</p> <p>第13回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 4（ロールプレイング）</p> <p>第14回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 5（実習）</p> <p>第15回：遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際 6（まとめ）</p> <p>第16回：まとめ（心理教育アセスメントの今後と課題）</p>				

人間生活学研究科 人間発達学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4550	授 業 科 目	教育心理学特論		
担 当 者	湯澤 正通	授 業 形 態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	教育心理学の様々な理論や研究方法を踏まえ、現代社会の教育を批判的に見るための視点を深め、効果的な教育が成立するための認知的、社会的、文化的環境について議論する。				
到 達 目 標	子どもの考える力と言語力の育成、学習意欲などの現在の教育テーマに焦点をあて、相互作用アプローチを受講生自身が実践することで、教育心理学の視点から考える力を身につけることを目標とする。				
成 績 評 価 基 準	授業（話し合い）への積極的な参加の程度、およびそれぞれの学習テーマに関して、授業中に述べられた意見・出席状況等を勘案して評価する。				
留 意 事 項					
教 材	適宜配布する				
授 業 予 定	第1回：イントロダクション：教育心理学とは 第2回：現在の教育の課題（言語力）について考え、話し合う 第3回：社会の変化に対応する能力・資質：教育目標 第4回：社会の変化に対応する能力・資質：ニュージーランドを事例として 第5回：考える力（活用力）、言語力、自己教育力をどのように育てるのか：認知的アプローチ、記憶と理解 第6回：考える力をどのように育てるのか：相互作用アプローチ、動機づけ 第7回：グループ間の交流と意見の多様化を促進する学級経営：ジグソー法の理論と実践 第8回：考える力についての視点1—自己制御学習、科学的リテラシー、教えて考える授業、活用力 第9回：考える力についての視点2—自己制御学習、科学的リテラシー、教えて考える授業、活用力 第10回：21世紀スキルを育む視点1：アン・ブラウン、ブランスフォード、スカーダマリア 第11回：21世紀スキルを育む視点2：アン・ブラウン、ブランスフォード、スカーダマリア 第12回：21世紀スキルを育む視点3：アン・ブラウン、ブランスフォード、スカーダマリア 第13回：現在の教育の課題（発達障害）について考え、話し合う 第14回：ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援（1） 第15回：ワーキングメモリ理論からの児童生徒の学習支援（2） 定期試験				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 人間発達学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M4560	授業科目	臨床心理学特論		
担当者	平松 清志	授業形態	講義		
期間	第2期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	科学の知（客観性，論理性，普遍性）と臨床の知（コスモロジー，シンボリズム，パフォーマンス）というふたつのとらえ方を対比させながら，現代を生きる子どもの心理的諸問題について考える。また，来談者中心療法，精神分析的心理療法，行動療法など，主な対人援助法の概要を学ぶ。				
到達目標	さまざまな要因によって困難さを増す初等教育の課題に対して，全体的存在として人間を理解する臨床心理学の立場からの幼児・児童理解を学ぶ。学校教育における実践のなかで，教員の立場として実践可能な形として，幼児・児童の心理的諸問題を支援するための高度で専門的な理論と技術を身に付ける。				
成績評価基準	授業の到達目標及びテーマの観点から，期末試験，およびレポートによって評価する。				
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう，積極的な参加を望む。				
教材	テキストは指定せず，その都度必要な資料を配布する。 文部科学省「生徒指導提要」教育図書 平松清志「箱庭療法のプロセス：学校教育臨床と基礎的研究」金剛出版 平松清志（編）「現場に生きるスクールカウンセリング：子ども・教師・保護者への対応」金剛出版				
授業予定	第1回：臨床心理学の意義と歴史 第2回：臨床の知とは 第3回：人間の科学（心と行動）とは 第4回：幼児・児童理解1（カナーの症状論，ユングの人格論，エレンベルガーの創造の病） 第5回：幼児・児童理解2（マーラーの分離個体化過程） 第6回：臨床心理査定法と観察法 第7回：カウンセリングと人間関係（面接構造論） 第8回：学校教育相談の特質（専門機関との連携等） 第9回：臨床心理学的アプローチ1 来談者中心療法 第10回：臨床心理学的アプローチ2 精神分析的心理療法 第11回：臨床心理学的アプローチ3 行動療法，認知行動療法 第12回：臨床心理学的アプローチ4 遊戯療法，表現療法 第13回：事例研究の意義と方法 第14回：事例研究1 不登校 第15回：事例研究2 いじめ，非行等 定期試験				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5000	授業科目	臨床心理学特論 I		
担当者	平松 清志	授業形態	講義		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I
授業概要	臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人としての臨床心理士について、専門家としての成長過程、職業倫理、社会的責任、記録の採り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。				
到達目標	臨床心理学とは何か、その原理と方法論について理解する。また、心理臨床家のひとつのモデルとしての臨床心理士資格について理解する。				
成績評価基準	複数のレポート課題により、総合的に評価する。				
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。				
教材	必要に応じて、指示する。				
授業予定	第1回：臨床心理学とは 第2回：臨床心理学の歴史 第3回：臨床の知と科学の知 第4回：臨床心理行為と医行為 第5回：事例研究とその意義 第6回：事例研究の方法 第7回：事例研究と臨床心理学 第8回：臨床心理専門家としての発達段階 第9回：職業倫理1 基本 第10回：職業倫理2 事例 第11回：守秘義務 第12回：記録 第13回：関連諸機関の機能と役割1 保健医療分野 第14回：関連諸機関の機能と役割2 福祉分野 第15回：他職種との協働 第16回：定期試験（レポート）				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5010	授 業 科 目	臨床心理学特論Ⅱ		
担 当 者	中内 みさ	授 業 形 態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I
授 業 概 要	精神分析、分析心理学、クライアント中心療法の理論に関する本を読み、それを基に討論する。また、心理臨床家のあるべき姿について考える。				
到 達 目 標	フロイト、ユング、ロジャーズの思想と臨床理論の概要を説明することができる。				
成 績 評 価 基 準	レポート（80%）、積極的な授業態度（20%）				
留 意 事 項	授業では意見発表や討論を行います。人の心に携わる者としての自覚と謙虚で誠実な態度を望みます。				
教 材	<p>【参考図書】 霜山徳爾（1989）素足の心理療法 みすず書房</p> <p>【必携テキスト】 藤山直樹（2008）集中講義・精神分析 岩崎学術出版</p> <p>河合隼雄（1977）無意識の構造 中公新書</p> <p>佐治守夫・飯長喜一郎編（2011）ロジャーズ クライアント中心療法 有斐閣</p>				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理臨床家のあるべき姿1 心理療法とは何か 2 心理臨床家のあるべき姿2 心理療法の根本原則 3 心理臨床家のあるべき姿3 「私」の心理療法を考える 4 精神分析1 精神分析とは何か 5 精神分析2 精神分析の営み 6 精神分析3 フロイト～精神分析の成立と性愛理論 7 精神分析4 精神分析の古典理論と理論の発展 8 分析心理学1 無意識へのアプローチ 9 分析心理学2 分析心理学におけるイメージ 10 分析心理学3 無意識の深層 11 分析心理学4 自己実現のプロセス 12 クライアント中心療法1 非指示的療法からクライアント中心療法へ 13 クライアント中心療法2 パーソナリティ理論 14 クライアント中心療法3 エンカウンター・グループ 15 クライアント中心療法4 クライアント中心療法の展開 16 まとめ 				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論																																																																						
授業コード	M5040	授業科目	臨床心理学演習																																																																						
担当者	中内 みさ	授業形態	演習																																																																						
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II																																																																				
授業概要	臨床心理学の研究手法や倫理、事例報告書・論文の執筆の仕方について理解する。先行研究や心理実践の体験に基づいて、心理理解の方法など臨床心理学研究の基礎を身につける。																																																																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究における責務と倫理を説明できる。 事例に応じた報告書や研究論文を書くことができる。 事例研究を通して、様々な発達段階や技法に応じた心理臨床の概要が説明できる。 																																																																								
成績評価基準	レポートや事例報告書の作成（50%）、発表（30%）、討論への積極的な参加（20%）																																																																								
留意事項	実際の臨床活動も事例研究も文献研究も、常に人と相対していることを忘れないようにしてほしい。人の心に携わる者としての自覚と謙虚で誠実な態度を望みます。																																																																								
教材	森岡正芳・大山泰宏編（2014）臨床心理職のための「研究論文の教室」臨床心理学増刊第6号 金剛出版 その他、随時指示する。																																																																								
授業予定	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション1 臨床心理学演習の目的と授業計画</td> <td>19</td> <td>事例研究3 幼児期の子ども支援に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>研究倫理に関して1（研究の責任）</td> <td>20</td> <td>事例研究4 児童期の子ども支援に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>研究倫理に関して2 （個人情報保護および発表の仕方）</td> <td>21</td> <td>事例研究5 思春期の子ども支援に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>事例研究1 子育て支援に関する事例研究（親）</td> <td>22</td> <td>絵画療法の実際</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>事例研究2 子育て支援に関する事例研究（子）</td> <td>23</td> <td>事例研究6 絵画療法に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>事例報告の書き方1（子育て支援）</td> <td>24</td> <td>箱庭療法の実際</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>事例報告の書き方2（カウンセリング）</td> <td>25</td> <td>事例研究7 箱庭療法に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>事例報告の書き方3（プレイセラピー）</td> <td>26</td> <td>ストレスマネジメントの実際</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>事例報告の書き方4（担当事例の報告）</td> <td>27</td> <td>事例研究8 身体動作法の事例研究</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>研究論文の書き方1（研究者から学ぶ）</td> <td>28</td> <td>事例研究9 障害児支援に関する事例研究（親）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>研究論文の書き方2（根拠づけ）</td> <td>29</td> <td>事例研究10 障害児支援に関する事例研究（子）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>研究論文の書き方3（質的データ）</td> <td>30</td> <td>事例研究11 病弱児支援に関する事例研究</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>研究論文の書き方4（事例研究）</td> <td>31</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>研究論文の書き方5（まとめ）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>臨床的視点から見た発達と課題</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>障害と共に生きる子どもと親の 心理と支援</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>病気と共に生きる子どもの心理</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					1	オリエンテーション1 臨床心理学演習の目的と授業計画	19	事例研究3 幼児期の子ども支援に関する事例研究	2	研究倫理に関して1（研究の責任）	20	事例研究4 児童期の子ども支援に関する事例研究	3	研究倫理に関して2 （個人情報保護および発表の仕方）	21	事例研究5 思春期の子ども支援に関する事例研究	5	事例研究1 子育て支援に関する事例研究（親）	22	絵画療法の実際	6	事例研究2 子育て支援に関する事例研究（子）	23	事例研究6 絵画療法に関する事例研究	7	事例報告の書き方1（子育て支援）	24	箱庭療法の実際	8	事例報告の書き方2（カウンセリング）	25	事例研究7 箱庭療法に関する事例研究	9	事例報告の書き方3（プレイセラピー）	26	ストレスマネジメントの実際	10	事例報告の書き方4（担当事例の報告）	27	事例研究8 身体動作法の事例研究	11	研究論文の書き方1（研究者から学ぶ）	28	事例研究9 障害児支援に関する事例研究（親）	12	研究論文の書き方2（根拠づけ）	29	事例研究10 障害児支援に関する事例研究（子）	13	研究論文の書き方3（質的データ）	30	事例研究11 病弱児支援に関する事例研究	14	研究論文の書き方4（事例研究）	31	まとめ	15	研究論文の書き方5（まとめ）			16	臨床的視点から見た発達と課題			17	障害と共に生きる子どもと親の 心理と支援			18	病気と共に生きる子どもの心理		
1	オリエンテーション1 臨床心理学演習の目的と授業計画	19	事例研究3 幼児期の子ども支援に関する事例研究																																																																						
2	研究倫理に関して1（研究の責任）	20	事例研究4 児童期の子ども支援に関する事例研究																																																																						
3	研究倫理に関して2 （個人情報保護および発表の仕方）	21	事例研究5 思春期の子ども支援に関する事例研究																																																																						
5	事例研究1 子育て支援に関する事例研究（親）	22	絵画療法の実際																																																																						
6	事例研究2 子育て支援に関する事例研究（子）	23	事例研究6 絵画療法に関する事例研究																																																																						
7	事例報告の書き方1（子育て支援）	24	箱庭療法の実際																																																																						
8	事例報告の書き方2（カウンセリング）	25	事例研究7 箱庭療法に関する事例研究																																																																						
9	事例報告の書き方3（プレイセラピー）	26	ストレスマネジメントの実際																																																																						
10	事例報告の書き方4（担当事例の報告）	27	事例研究8 身体動作法の事例研究																																																																						
11	研究論文の書き方1（研究者から学ぶ）	28	事例研究9 障害児支援に関する事例研究（親）																																																																						
12	研究論文の書き方2（根拠づけ）	29	事例研究10 障害児支援に関する事例研究（子）																																																																						
13	研究論文の書き方3（質的データ）	30	事例研究11 病弱児支援に関する事例研究																																																																						
14	研究論文の書き方4（事例研究）	31	まとめ																																																																						
15	研究論文の書き方5（まとめ）																																																																								
16	臨床的視点から見た発達と課題																																																																								
17	障害と共に生きる子どもと親の 心理と支援																																																																								
18	病気と共に生きる子どもの心理																																																																								

人間生活学研究科 人間発達学専攻 臨床心理学コース 修士課程		研究分野／領域	臨床心理論																																																																		
授業コード	M5051	授 業 科 目	臨床心理学演習																																																																		
担 当 者	平松 清志	授 業 形 態	演習																																																																		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II																																																																
授 業 概 要	臨床心理学の原理と方法論を、具体的な心理臨床活動と関連づけ、また文献資料に基づいた論考を基にしながら、臨床心理学研究の基礎を学ぶ。																																																																				
到 達 目 標	心理臨床に関する学術論文を作成するための研究能力を身に付ける。																																																																				
成 績 評 価 基 準	演習内容により、総合的に評価する。																																																																				
留 意 事 項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。																																																																				
教 材	必要に応じて、指示する。																																																																				
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td><td>オリエンテーション</td> <td>第16回</td><td>事例研究法（視点）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td><td>基礎文献講読1</td> <td>第17回</td><td>事例研究法（理論）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td><td>基礎文献講読2</td> <td>第18回</td><td>事例研究法（関係）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td><td>基礎文献講読3</td> <td>第19回</td><td>事例研究法（面接過程）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td><td>基礎文献講読4</td> <td>第20回</td><td>事例研究法（考察）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td><td>基礎文献講読5</td> <td>第21回</td><td>研究計画の実際1</td> </tr> <tr> <td>第7回</td><td>基礎文献講読6</td> <td>第22回</td><td>研究計画の実際2</td> </tr> <tr> <td>第8回</td><td>臨床心理学研究の方法</td> <td>第23回</td><td>調査（実験）の準備1</td> </tr> <tr> <td>第9回</td><td>科学の知と臨床の知（中村）</td> <td>第24回</td><td>調査（実験）の準備2</td> </tr> <tr> <td>第10回</td><td>人間の科学（河合）</td> <td>第25回</td><td>調査（実験）の実施1</td> </tr> <tr> <td>第11回</td><td>実験法</td> <td>第26回</td><td>調査（実験）の実施2</td> </tr> <tr> <td>第12回</td><td>調査法</td> <td>第27回</td><td>資料・素材・データの分析1</td> </tr> <tr> <td>第13回</td><td>観察法</td> <td>第28回</td><td>資料・素材・データの分析2</td> </tr> <tr> <td>第14回</td><td>事例研究法</td> <td>第29回</td><td>研究結果と考察1</td> </tr> <tr> <td>第15回</td><td>研究計画</td> <td>第30回</td><td>研究結果と考察2</td> </tr> <tr> <td></td><td></td> <td>第31回</td><td>まとめ</td> </tr> </table>					第1回	オリエンテーション	第16回	事例研究法（視点）	第2回	基礎文献講読1	第17回	事例研究法（理論）	第3回	基礎文献講読2	第18回	事例研究法（関係）	第4回	基礎文献講読3	第19回	事例研究法（面接過程）	第5回	基礎文献講読4	第20回	事例研究法（考察）	第6回	基礎文献講読5	第21回	研究計画の実際1	第7回	基礎文献講読6	第22回	研究計画の実際2	第8回	臨床心理学研究の方法	第23回	調査（実験）の準備1	第9回	科学の知と臨床の知（中村）	第24回	調査（実験）の準備2	第10回	人間の科学（河合）	第25回	調査（実験）の実施1	第11回	実験法	第26回	調査（実験）の実施2	第12回	調査法	第27回	資料・素材・データの分析1	第13回	観察法	第28回	資料・素材・データの分析2	第14回	事例研究法	第29回	研究結果と考察1	第15回	研究計画	第30回	研究結果と考察2			第31回	まとめ
第1回	オリエンテーション	第16回	事例研究法（視点）																																																																		
第2回	基礎文献講読1	第17回	事例研究法（理論）																																																																		
第3回	基礎文献講読2	第18回	事例研究法（関係）																																																																		
第4回	基礎文献講読3	第19回	事例研究法（面接過程）																																																																		
第5回	基礎文献講読4	第20回	事例研究法（考察）																																																																		
第6回	基礎文献講読5	第21回	研究計画の実際1																																																																		
第7回	基礎文献講読6	第22回	研究計画の実際2																																																																		
第8回	臨床心理学研究の方法	第23回	調査（実験）の準備1																																																																		
第9回	科学の知と臨床の知（中村）	第24回	調査（実験）の準備2																																																																		
第10回	人間の科学（河合）	第25回	調査（実験）の実施1																																																																		
第11回	実験法	第26回	調査（実験）の実施2																																																																		
第12回	調査法	第27回	資料・素材・データの分析1																																																																		
第13回	観察法	第28回	資料・素材・データの分析2																																																																		
第14回	事例研究法	第29回	研究結果と考察1																																																																		
第15回	研究計画	第30回	研究結果と考察2																																																																		
		第31回	まとめ																																																																		

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5060	授業科目	臨床心理学演習		
担当者	西 隆太郎	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	臨床心理学における研究方法を学び、自らの研究を進める。とくに、心理臨床にかかわる体験・事例を読み解くこと、先行研究の批判的検討を重視する。				
到達目標	臨床心理学に関する自らのテーマについて、先行研究の批判的検討に基づく展望を行い、心理臨床における事例理解の知を踏まえた上で、修士論文を執筆する能力を身につける。				
成績評価基準	研究論文・発表の内容と、演習への参加によって、総合的に評価する。				
留意事項	自らのテーマについて、文献等を踏まえ、主体的に探究することを奨励する。				
教材	講義中に随時配布、指示する。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の研究方法について 2. 臨床心理学における研究テーマの設定について 3. 院生自身の研究テーマとその研究方法について 4. 臨床心理学における論文・レポートの執筆について 5. 心理臨床に関する研究方法について 6. 研究方法に関する文献講読 7. 関与観察的研究のあり方について 8. 事例研究の方法論について 9. 事例研究に関する文献講読 10. 心理臨床にかかわる体験の理解 11. 院生自身の研究分野に関する文献の検討 12. 院生自身の研究テーマに関する文献の検討 13. 先行文献の展望とその執筆について 14. 心理臨床にかかわるデータの記述について 15. 心理臨床にかかわるデータの分析と考察について <p>上記の内容を半期15回ごとに網羅する形で学び、期を重ねるごとにその内容を深めるとともに、修士論文を執筆する。</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5150	授 業 科 目	臨床心理面接特論I (心理支援に関する理論と実践)		
担 当 者	日下 紀子	授 業 形 態	講義 (演習を含む)		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I
授 業 概 要	<p>心理臨床的面接は、医療、教育、福祉、保健、司法などの領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、これへの心理療法、支援を展開していく活動である。この軸となる方法論としての面接法を的確に学ぶために、上記領域ごとにおける各心理療法の布置や意義の違い、基づく理論を理解する。さらには集団面接法、家族面接法、コンサルテーション面接法などの枠組みを知るとともに、適切な心理支援が行えるための面接の進め方、耳の傾け方、見立てについて学ぶ。</p>				
到 達 目 標	<p>2年次で行う福祉施設、および精神科を中心とする病院実習で行う面接実習の基礎を固める。心理支援、心理療法の理論と方法を学び、心理に関する支援を要するもの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択、調整や、心理に関する相談、助言、指導等へ応用するための素地を作る。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>授業への関与度、および学習態度の積極性、学習内容の理解度を総合的に評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>方法論の理解については、多くの事例に触れることが重要である。事例報告文の詳読や聴取を通じて触れるもの、自らの臨床実習体験として触れるもの、いずれについても「面接の方法論」という枠でとらえてみる態度と耳の傾け方を日頃から意識しておくこと。</p>				
教 材	<p>土居健郎「方法としての面接」医学書院 松木邦裕「耳の傾け方ーこころの臨床家を目指す人たちへ」岩崎学術出版社 松木邦裕「私説対象関係論的心理療法入門」金剛出版 (参考文献)</p>				
授 業 予 定	<p>第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 力動論に基づく心理療法とその理論 第3回 行動論・認知論に基づく心理療法とその理論 第4回 その他の心理療法、心理支援 第5回 各領域 (保健医療) における心理支援 第6回 各領域 (教育) における心理支援 第7回 各領域 (福祉・司法犯罪・産業労働) における心理支援 第8回 どのように面接を始めるのか 第9回 対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方 第10回 どのように面接を進めていくのかー基本的な聴き方と能動的な聴き方 第11回 どのように面接を進めていくのかー心を感じ取る聴き方 第12回 対象者の特性や状況を理解するーストーリーを読む 第13回 対象者の特性や状況を理解するー見立て 第14回 対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択 第15回 対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の調整 試験</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5160	授業科目	臨床心理面接特論Ⅱ		
担当者	東 俊一	授業形態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I
授 業 概 要	学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。				
到 達 目 標	行動論にもとづいたアセスメントや指導技法について理解したうえで、各分野において指導技法・手続きの選択、および計画を作成できることを目的とする。				
成 績 評 価 基 準	授業内での発表およびレポート				
留 意 事 項					
教 材	適宜、指示・紹介する				
授 業 予 定	第 1 回：行動と学習 第 2 回：レスポネント条件付け 第 3 回：オペラント条件付け 第 4 回：介入の倫理 第 5 回：測度と観察法 第 6 回：実験計画法 第 7 回：レスポネント技法 1 第 8 回：レスポネント技法 2 第 9 回：行動アセスメント（機能分析） 第 10 回：行動アセスメント（課題分析） 第 11 回：オペラント技法 1（反応増大） 第 12 回：オペラント技法 2（反応減少） 第 13 回：オペラント技法 3（刺激性制御） 第 14 回：オペラント技法 4（シェイピング） 第 15 回：般化				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5170	授業科目	臨床心理査定演習 I(心理的アセスメントに関する理論と実践)		
担当者	日下 紀子	授業形態	演習		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I
授業概要	<p>まず医療、福祉、保健、司法、教育の各領域における心理査定の意義と位置づけ、その理論について学ぶ。これを受け、臨床現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の施行法、評定評価法を学ぶ。さらにそれをもとに、どのような心理に関する相談、助言、指導等ができるかを考える。</p>				
到達目標	<p>(公認心理師の実践における) 一般的な臨床の場、およびこれに加え2年次実習現場で高頻度に活用される心理的アセスメントの意義ならびに理論と方法を習得すること。それに基づき心理に関する相談、助言、指導等へと応用できるようになること。</p>				
成績評価基準	<p>学生協力者を被検者とする仮の査定対象とし、知能検査、自己評価法、投影法（描画法、PFスタディ、SCT）、その他のテストバッテリーを組み、実施から査定報告文を作成する。各々の課題の成果により評価する。</p>				
留意事項	<p>検査の実施、評定評価など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといってよいので、その点を覚悟すること。</p>				
教材	<p>検査用紙、道具、マニュアルなどは提供する。</p>				
授業予定	<p>第1回 心理査定の意義と位置づけ 第2回 知能検査の意義・背景理論と位置づけ 第3回 知能検査の施行法と実施 第4回 知能検査の評定評価法 第5回 知能検査の所見報告書作成 第6回 自己評価法人格検査の意義・背景理論と位置づけ 第7回 自己評価法人格検査の施行と評定評価 第8回 自己評価法人格検査の所見報告書作成 第9回 投影法の意義・背景理論と位置づけ 第10回 投影法（PFスタディ）の施行と評定評価 第11回 投影法（描画法）の施行と評定評価 第12回 投影法（SCT）とその他の心理検査の施行と評定評価 第13回 投影法の所見報告書作成 第14回 テストバッテリーの組み方と総合的評定評価 第15回 心理的アセスメントからの心理的相談、助言、指導への応用試験</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5180	授 業 科 目	臨床心理査定演習Ⅱ		
担 当 者	日下 紀子	授 業 形 態	演習		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I
授 業 概 要	臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法（片口法）について理論実践の両面から詳細に学び、臨床活用可能なレベルの習得を目指す。				
到 達 目 標	ロールシャッハテストの基礎理論の理解、実施、評価、評価所見作成まで行う。				
成 績 評 価 基 準	まず、理論については基礎事項についての課題提出により、達成度を評価する。その後、協力被検者を設定し、テストの実施を行い、これについてのスコアリング、ベーシックスコアリングテーブル、サマリースコアリングテーブルを完成させる。これをもとに評価所見文を作成する。この成果によって評価する。				
留 意 事 項	検査の実施、評価、評価など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといってよいので、その点を覚悟すること。				
教 材	片口安史監修、藤岡新治・松岡正明著「ロールシャッハテストの学習 片口法スコアリング入門」金子書房 片口安史著「改訂 新・心理診断法」金子書房 検査用紙、道具は提供する。				
授 業 予 定	第1回 ロールシャッハテストの基礎理論の理解、意義と位置づけ 第2回 ロールシャッハテストの実施法 第3回 記号化法 第4回 反応領域の分類 第5回 反応決定因分類1（形態反応と運動反応） 第6回 反応決定因分類2（色彩反応と黒色反応） 第7回 反応決定因分類3（濃淡反応と付加反応） 第8回 反応内容の分類 第9回 分類の実践と基礎事項の確認 第10回 ロールシャッハテスト実施とスコアリング 第11回 分類の集計とスコアリングテーブルの作成 第12回 スコアリングテーブルの解説 第13回 ロールシャッハテストの解釈法 第14回 総合的な解釈－系列分析とテスト中の行動 第15回 評価所見文の作成 試験				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 臨床心理学コース 修士課程		研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5190	授 業 科 目	臨床心理基礎実習		
担 当 者	平松 清志・西 隆太郎	授 業 形 態	演習・実習		
期 間	通年	単 位 数	2	対 象 年 次	I
授 業 概 要	ロールプレイを用いて、コミュニケーション技術の基本、相手を理解する方法、課題を読みとる視点、援助法などを学習するほか、精神科病院、精神保健福祉センター、児童福祉施設などの見学実習を通して、心理臨床の現場について知る。				
到 達 目 標	心理臨床の現場について知るとともに、臨床心理面接の基本技法を身に付ける。				
成 績 評 価 基 準	演習、実習、レポートにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。				
教 材	必要に応じて、指示する。				
授 業 予 定	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：基礎文献講読 1 第 3 回：基礎文献講読 2 第 4 回：基礎文献講読 3 第 5 回：基礎文献講読 4 第 6 回：基礎文献講読 5 第 7 回：ロールプレイ実習：基礎 第 8 回：逐語記録の作成 第 9 回：逐語記録の検討 1 第 10 回：逐語記録の検討 2 第 11 回：ロールプレイ実習：応答 第 12 回：逐語記録の作成 第 13 回：逐語記録の検討 1 第 14 回：逐語記録の検討 2 第 15 回：中間まとめ		第 16 回：精神科病院見学 第 17 回：精神保健福祉センター見学 第 18 回：児童福祉施設見学：児童相談所 第 19 回：児童福祉施設見学：児童心理治療施設 第 20 回：ロールプレイ実習：主訴 第 21 回：逐語記録の作成 第 22 回：逐語記録の検討 1 第 23 回：逐語記録の検討 2 第 24 回：逐語記録の検討 3 第 25 回：ロールプレイ実習：体験過程 第 26 回：逐語記録の作成 第 27 回：逐語記録の検討 1 第 28 回：逐語記録の検討 2 第 29 回：逐語記録の検討 3 第 30 回：ロールプレイ実習のまとめ 第 31 回：定期試験（レポート）		

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論																																																																		
授業コード	M5200	授 業 科 目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）																																																																		
担 当 者	平松 清志・中内 みさ 東 俊一・西 隆太郎	授 業 形 態	実習																																																																		
期 間	通年	単 位 数	6	対 象 年 次	I～II																																																																
授 業 概 要	2年次において、保健医療領域、福祉領域、教育領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身に付けるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。実習総計450時間。																																																																				
到 達 目 標	発達的には児童から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントへの心理的支援の基本と実際を学ぶ。																																																																				
成 績 評 価 基 準	実習先の評価および事前事後指導への参加内容により、総合的に評価する。																																																																				
留 意 事 項	事前事後の指導、実習ともに、心理臨床家としての倫理規定を意識して活動に臨むこと。																																																																				
教 材	必要に応じて、指示する。																																																																				
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td><td>オリエンテーション</td> <td>第16回</td><td>福祉領域の事前指導2</td> </tr> <tr> <td>第2回</td><td>他職種連携および地域連携</td> <td>第17回</td><td>福祉領域での実習1</td> </tr> <tr> <td>第3回</td><td>医療保健領域の事前指導1</td> <td>第18回</td><td>福祉領域での実習2</td> </tr> <tr> <td>第4回</td><td>医療保健領域の事前指導2</td> <td>第19回</td><td>福祉領域での実習3</td> </tr> <tr> <td>第5回</td><td>医療保健領域での実習1</td> <td>第20回</td><td>福祉領域での実習4</td> </tr> <tr> <td>第6回</td><td>医療保健領域での実習2</td> <td>第21回</td><td>実習報告</td> </tr> <tr> <td>第7回</td><td>医療保健領域での実習3</td> <td>第22回</td><td>実習レポート作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td><td>医療保健領域での実習4</td> <td>第23回</td><td>教育領域の事前指導1</td> </tr> <tr> <td>第9回</td><td>医療保健領域での実習5</td> <td>第24回</td><td>教育領域の事前指導2</td> </tr> <tr> <td>第10回</td><td>医療保健領域での実習6</td> <td>第25回</td><td>教育領域での実習1</td> </tr> <tr> <td>第11回</td><td>医療保健領域での実習7</td> <td>第26回</td><td>教育領域での実習2</td> </tr> <tr> <td>第12回</td><td>医療保健領域での実習8</td> <td>第27回</td><td>教育領域での実習3</td> </tr> <tr> <td>第13回</td><td>実習報告</td> <td>第28回</td><td>教育領域での実習4</td> </tr> <tr> <td>第14回</td><td>実習レポート作成</td> <td>第29回</td><td>実習報告</td> </tr> <tr> <td>第15回</td><td>福祉領域の事前指導1</td> <td>第30回</td><td>実習レポート作成</td> </tr> <tr> <td></td><td></td> <td>第31回</td><td>まとめ</td> </tr> </table>					第1回	オリエンテーション	第16回	福祉領域の事前指導2	第2回	他職種連携および地域連携	第17回	福祉領域での実習1	第3回	医療保健領域の事前指導1	第18回	福祉領域での実習2	第4回	医療保健領域の事前指導2	第19回	福祉領域での実習3	第5回	医療保健領域での実習1	第20回	福祉領域での実習4	第6回	医療保健領域での実習2	第21回	実習報告	第7回	医療保健領域での実習3	第22回	実習レポート作成	第8回	医療保健領域での実習4	第23回	教育領域の事前指導1	第9回	医療保健領域での実習5	第24回	教育領域の事前指導2	第10回	医療保健領域での実習6	第25回	教育領域での実習1	第11回	医療保健領域での実習7	第26回	教育領域での実習2	第12回	医療保健領域での実習8	第27回	教育領域での実習3	第13回	実習報告	第28回	教育領域での実習4	第14回	実習レポート作成	第29回	実習報告	第15回	福祉領域の事前指導1	第30回	実習レポート作成			第31回	まとめ
第1回	オリエンテーション	第16回	福祉領域の事前指導2																																																																		
第2回	他職種連携および地域連携	第17回	福祉領域での実習1																																																																		
第3回	医療保健領域の事前指導1	第18回	福祉領域での実習2																																																																		
第4回	医療保健領域の事前指導2	第19回	福祉領域での実習3																																																																		
第5回	医療保健領域での実習1	第20回	福祉領域での実習4																																																																		
第6回	医療保健領域での実習2	第21回	実習報告																																																																		
第7回	医療保健領域での実習3	第22回	実習レポート作成																																																																		
第8回	医療保健領域での実習4	第23回	教育領域の事前指導1																																																																		
第9回	医療保健領域での実習5	第24回	教育領域の事前指導2																																																																		
第10回	医療保健領域での実習6	第25回	教育領域での実習1																																																																		
第11回	医療保健領域での実習7	第26回	教育領域での実習2																																																																		
第12回	医療保健領域での実習8	第27回	教育領域での実習3																																																																		
第13回	実習報告	第28回	教育領域での実習4																																																																		
第14回	実習レポート作成	第29回	実習報告																																																																		
第15回	福祉領域の事前指導1	第30回	実習レポート作成																																																																		
		第31回	まとめ																																																																		

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5210	授 業 科 目	臨床心理実習Ⅱ		
担 当 者	日下紀子・青山新吾	授 業 形 態	学内実習およびカンファレンス		
期 間	通年	単 位 数	2	対 象 年 次	I～II
授 業 概 要	1年次より継続して学内の臨床実習施設(清心こころの相談室)で学内教員のスーパーヴィジョンのもとに学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務(相談室の事務受付・管理運営など含む)の実習を行う。				
到 達 目 標	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解したうえで、神経症、人格障害圏、発達障害、不登校や対人関係などの悩みや不適応問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床経験を積む。病態の理解や対応の基本とともに、心理に関する支援を要する者への多職種連携および地域連携を習得する。				
成 績 評 価 基 準	学内実習の評価と課題の成果を総合する。				
留 意 事 項	臨床経験においては、担当クライアントの個人情報に対する倫理観を常に明解にすること。				
教 材	配布する。				
授 業 予 定	第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務 第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ 第4回 多職種連携および地域連携 第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方 第6回 インテークカンファレンス 第7回 インテークカンファレンスの振り返り 第8回 学内施設での実習1 第9回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第10回 ケースカンファレンス 第11回 ケースカンファレンスの振り返り 第12回 学内施設での実習2 第13回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第14回 ケースカンファレンス 第15回 ケースカンファレンスの振り返り 試験				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	心理支援分野		
授業コード	M5240	授 業 科 目	心理療法特論 I		
担 当 者	平松 清志	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	主として遊戯療法、芸術療法等の非言語的アプローチについて、各種の技法の要点、理論的背景、制限の問題、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点と課題等を、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。				
到 達 目 標	遊戯療法、芸術療法（表現療法）などの非言語的アプローチの実際について理解する。				
成 績 評 価 基 準	複数のレポート課題により、総合的に評価する。				
留 意 事 項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。				
教 材	平松清志「箱庭療法のプロセス」金剛出版、ほか（必要に応じて指示する）。				
授 業 予 定	第1回：カウンセリングと心理療法 第2回：遊戯療法1 原理 第3回：遊戯療法2 事例1 第4回：遊戯療法3 事例2（母子同室面接） 第5回：箱庭療法1 原理 第6回：箱庭療法2 子どもの事例（学級内不適応） 第7回：箱庭療法3 子どもの事例（心身症） 第8回：箱庭療法4 子どもの事例のまとめ 第9回：箱庭療法5 成人男子の事例 第10回：箱庭療法6 成人女子の事例 第11回：箱庭療法7 プロセスモデル 第12回：箱庭療法8 心理療法の促進と停滞（体験過程の観点から） 第13回：箱庭療法9 体験過程スケールを応用した箱庭療法家の訓練 第14回：描画技法1 MSSM（実習とその原理） 第15回：描画技法2 MSSM（解釈と応用） 第16回：定期試験（レポート）				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	心理支援分野		
授業コード	M5250	授 業 科 目	心理療法特論Ⅱ		
担 当 者	西 隆太郎	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、主として精神分析、ユング心理学、来談者中心療法等における基礎文献の検討を行い、セラピーの関係性に基づく治療論の概念について学ぶ。また、臨床実践に基づいた具体例について、ディスカッションを通しての検討を行う。				
到 達 目 標	さまざまな学派における心理療法の治療論についての理解を持ち、関係性の理解を踏まえて自らの治療論を形成していくための考察を深める。				
成 績 評 価 基 準	学期末のレポートと、ディスカッションへの参加などにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	講義中に随時配布、指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法の学派について 2. 精神分析の基本的治療論について 3. 精神分析の実際 4. ユング派心理療法の基本的治療論について 5. ユング派心理療法の実際 6. 来談者中心療法の基本的治療論について 7. 来談者中心療法の実際 8. 各学派における理論の展開 9. セラピーにおける関係性の理解 10. セラピーにおける語りとイメージの理解 11. 転移の理解 12. 逆転移の理解 13. セラピーにおける枠の問題 14. セラピストの介入について 15. 関係性に基づく治療論について 				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	臨床心理論		
授業コード	M5260	授業科目	投影法特論		
担当者	西 隆太郎	授業形態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>投影法について、とくに被検査者との関係性を重視する立場からの検討を行う。ロールシャッハをはじめとする投影法についての理解を持った上で、イメージや語りを通じて多様な情報を得る TAT や描画を用いた投影法など、実際に体験することを通じて分析・解釈の方法を学ぶ。また、心理臨床の実際における投影法理解について考察する。</p>				
到 達 目 標	<p>投影法の解釈について理解を深め、投影法における被検査者からのコミュニケーションを理解するための多様なアプローチについて学ぶ。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>学期末のレポート、および授業への参加などにより、総合的に評価する。</p>				
留 意 事 項					
教 材	<p>授業中に随時配布、指示する。</p>				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投影法を理解する枠組みについて 2. 投影法の治療論的意義について 3. ロールシャッハ・テストの検討 4. ロールシャッハ・テストの解釈 5. TAT の検討 6. TAT の解釈 7. 描画を用いた投影法の検討 8. 描画を用いた投影法の解釈 9. 投影法 (TAT) の体験 10. 投影法 (TAT) の解釈 11. 投影法 (TAT) の実際 12. 検査者と被検査者の関係性について 13. 投影法におけるコミュニケーションの理解について 14. 投影法に関する事例検討 15. 心理臨床の実際における投影法理解について 				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M5270	授 業 科 目	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)		
担 当 者	青山 新吾	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	文部科学省によるスクールカウンセラー事業も、中学校を中心とする時代から、幼稚園、小学校、高等学校とその対象範囲が拡大する時代へと移った。そこで、各世代に特有の問題や、先生方との連携や協働の在り方、不登校やいじめ、発達障害等のトピックについての臨床心理学的知見について取り上げる。				
到 達 目 標	学校臨床心理学の実践的知見について理解する。				
成 績 評 価 基 準	授業での発表内容とレポート内容で総合的に評価する。				
留 意 事 項	自身の体験や臨床実感と重ねながら討論を進められることを望む。				
教 材	滝口俊子・高石浩一「学校臨床心理学特論」財団法人放送大学教育振興会 その他、授業中に適宜配布する。				
授 業 予 定	第1回：我が国の学校臨床心理学 第2回：学校臨床心理学の実践 第3回：不登校をめぐる支援 第4回：いじめ・非行をめぐる支援 第5回：特別支援教育の実践 第6回：発達障害をめぐる支援 第7回：学校教育のシステム、文化 第8回：危機介入と緊急支援 第9回：教師との連携 第10回：保護者への支援 第11回：関係諸機関との連携 第12回：学校臨床のアセスメント 第13回：スクールカウンセラーの役割 第14回：学校臨床心理学における倫理と守秘義務 第15回：まとめと振り返り				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	研究法分野		
授業コード	M5300	授 業 科 目	心理学研究法特論		
担 当 者	石原 金由	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	心理学の研究成果は実証的研究に基づいて蓄積されたものであり、それは工夫され、研究計画によって左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究及び調査研究に関する研究法について講義する。				
到 達 目 標	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力を養う。				
成 績 評 価 基 準	出席状況（減点法）と論文批評（基礎及び臨床研究論文各1本）のレポート。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	南風原ら 2001 心理学研究法入門 東大出版				
授 業 予 定	<p>実験計画法について講義した後に、調査研究（相関研究）の長所・短所を解説する。事例研究に関しては、研究デザインや研究上の留意点について解説する。また、種々の研究例を取り上げ、実際に研究批判を行ってもらう。</p> <p>第1回 研究法の必要性 第2回 量的調査1 第3回 量的調査2 第4回 量的調査3 第5回 実験研究1 第6回 実験研究2 第7回 実験研究3 第8回 研究批判1 第9回 研究批判2 第10回 準実験 第11回 単一事例研究1 第12回 単一事例研究2 第13回 研究批判3 第14回 研究批判4 第15回 研究計画の発表 第16回 レポート</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	研究法分野		
授業コード	M5310	授業科目	心理統計法特論		
担当者	水野 博	授業形態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	収集した心理統計データの解析とその解釈について、統計解析の基礎的事項から実際までを学修する。また、蓄積された大量の各種データをどのように整理し、活用するかというデータベースの利用方法についても述べる。				
到 達 目 標	統計解析の様々な手法の原理を理解し、統計ソフトでどのように実行するかを修得すること。				
成 績 評 価 基 準	毎回の課題で理解状況を見る。				
留 意 事 項	統計ソフトは SPSS を使う。統計解析の原理を理解することが大切である。				
教 材	毎回印刷物を配付する。				
授 業 予 定	原則として、毎回1つの解析法について述べていく予定である。				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	基礎分野		
授業コード	M5320	授業科目	発達心理学特論		
担当者	湯澤 美紀	授業形態	講義（演習を含む）		
期間	第2期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを乳児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する				
到達目標	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを踏まえ、青年に対する進路・職業選択における援助計画の立案・評価を行うことができる。加えて、中年期以降のアイデンティティの知見を生かしながら、教育現場での保護者理解ができる。				
成績評価基準	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する				
留意事項	なし				
教材	なし				
授業予定	第1回 人間発達学領域におけるアイデンティティ研究の意義 第2回 自己意識に関する文献的展望 第3回 乳児期における自己の発見 第4回 1歳児から2歳児の発達と自己意識 第5回 3歳児の発達と自己意識 第6回 4・5歳児の発達と自己意識 第7回 児童期：多面的な自己像の形成 第8回 思春期にみられる心理的課題 第9回 青年期：アイデンティティの形成にかかる諸要因 第10回 青年期：キャリア形成と自己意識 第11回 青年期にみられる心理的課題 第12回 中年期：アイデンティティの危機と再生 第13回 中年期にみられる心理的課題 第14回 教育現場における保護者支援を考える 第15回 一人ひとりのニーズに応じた援助計画				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	基礎分野		
授業コード	M5330	授 業 科 目	学習心理学特論		
担 当 者	堤 幸一	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	まず記憶理論、次に学習理論を体系的に概説する。途中で、学んだ理論的知見を現実生活場面に応用するという視点でデモ実験・体験を取り入れる。				
到 達 目 標	学習理論・記憶理論を体系的に知り、それらの現実生活への応用を考えられる。				
成 績 評 価 基 準	課題レポート 60%、授業時のプレゼン 40%の総合評価				
留 意 事 項	授業時に数回、課題を予習してきたのプレゼンによる報告を行ってもらう。				
教 材	受講生の興味・関心に応じて、適宜指定する。				
授 業 予 定	1 回 導入（記憶・学習・認知の基礎知識の確認） 2 回 デモ実験 1（自由再生） 3 回 記憶理論 1（記憶研究史） 4 回 デモ実験 2（MCQ） ※ デモ実験 1, 2 の合併課題レポート 5 回 記憶理論 2（記憶の諸相と仕組み） 6 回 記憶理論 3（忘却） 7 回 学習理論 1（学習研究史） 8 回 学習理論 2（連合説 1：条件づけ） 9 回 学習理論 3（連合説 2：スケジュールと強化随伴性） 10 回 学習理論 4（認知説） 11 回 学習理論 5（観察学習説） 12 回 デモ実験 3（概念達成） ※ デモ実験 3 の課題レポート 13 回 概念学習 14 回 学習障害（読字障害） 15 回 まとめ（記憶・学習・認知の統合的理解） ※学習についてのまとめの課題レポート				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	基礎分野		
授業コード	M5340	授 業 科 目	生理心理学特論		
担 当 者	石原 金由	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>本授業では、生理心理学の基礎知識である「脳と神経系」について解説した後に、「Hilgard's Introduction to Psychology」や「Biological Psychology」から生理心理学に関わる内容を取り上げて、講読する。課題として、受講者は研究論文を1本選択し、それをまとめてもらう。</p>				
到 達 目 標	<p>「脳と神経系」に関する基礎知識を習得するとともに、「学習・記憶」「ストレス」「睡眠」「精神病」等の領域における生理心理学的なアプローチを理解する。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>講読の準備状況と各自が選択した研究論文(1本)のレジメを評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>特になし</p>				
教 材	<p>Atkinson et al. Hilgard's Introduction to Psychology. Harcourt. Kalat, JW Biological Psychology. Brooks/Cole</p>				
授 業 予 定	<p>第1回：脳と神経系Ⅰ（講読と解説） 第2回：脳と神経系Ⅱ（講読と解説） 第3回：脳と神経系Ⅲ（講読と解説） 第4回：脳と神経系Ⅳ（講読と解説） 第5回：脳と神経系Ⅵ（講読と解説） 第6回：睡眠と夢Ⅰ（講読と解説） 第7回：睡眠と夢Ⅱ（講読と解説） 第8回：睡眠と夢Ⅲ（講読と解説） 第9回：学習・記憶Ⅰ（講読と解説） 第10回：学習・記憶Ⅱ（講読と解説） 第11回：学習・記憶Ⅲ（講読と解説） 第12回：ストレスⅠ（講読と解説） 第13回：ストレスⅡ（講読と解説） 第14回：精神病Ⅰ（講読と解説） 第15回：精神病Ⅱ（講読と解説）</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	精神・身体分野		
授業コード	M5350	授業科目	臨床大脳発達学特論		
担当者	林 泰資	授業形態	講義		
期間	第1期	単位数	2	対象年次	I II
授業概要	運動機能や感覚機能をはじめとするさまざまな脳機能とその特徴について学び、学習・記憶や脳疾患のメカニズム、ストレスと脳機能、脳と心の関係などに関する理解を深める。加えて、脳を守り育むために脳科学が果たす役割について考察する。				
到達目標	脳を中心とする人体機能調節系について、さまざまな内外入力に対するその作動メカニズムを脳科学の知見を駆使し考察することができる能力を養う。				
成績評価基準	課題レポート、質疑応答、受講状況などから総合的に評価する。				
留意事項	脳科学と周辺領域の書籍、学術雑誌などに目を通し、文献検索を行うなど、関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。				
教材	参考資料、文献などを必要に応じて配付または紹介する。				
授業予定	脳と運動・感覚機能、脳の連合機能と言語機能、脳の発達と学習・記憶のメカニズム、脳の疾患と薬物、ストレスと脳機能、脳と心、現代社会と脳科学といった事項について最新の知見に基づき解説する。				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	基礎分野		
授業コード	M5360	授 業 科 目	教育心理学特論		
担 当 者	西 隆太郎	授 業 形 態	演習		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性の中で展開する教育・学習の過程を心理学的に探究する方法につひて学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。				
到 達 目 標	教育の場における教育者と学習者の関係性を理解するための方法論について学ぶとともに、心理学的な観点から、教育・学習とは何かについて考察する。				
成 績 評 価 基 準	学期末のレポートと、ディスカッションへの参加などにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	講義中に随時配布、指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・学習の過程と関係性の問題 2. 発達の過程と学びについて 3. 学びと動機づけについて 4. 学びの意味とアイデンティティについて 5. 個人の学びとコミュニティの関係について 6. 正統的周辺参加論の意義について 7. 正統的周辺参加論から見た学びの意味について 8. 学校における問題の心理学的理解について 9. 教育者と学習者の関係性について 10. 教育の場におけるコミュニケーションの理解 11. 教育の場における事例検討 12. 保育の場における事例検討 13. 教育の場における発達の問題と支援 14. スクール・カウンセリングとその実際について 15. 教育・保育の場における心理学的研究の方法論 				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	社会分野		
授業コード	M5370	授 業 科 目	社会心理学特論		
担 当 者	堀内 孝	授 業 形 態	講義		
期 間	集中	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	対人関係や集団、文化などを社会心理学的に研究するうえで、自己の視点は必要不可欠である。本講義では、自己に関する社会心理学の知見について解説する。				
到 達 目 標	社会心理学における自己研究について学ぶ。				
成 績 評 価 基 準	授業への参加度、レポートの成績などを総合的に評価する。				
留 意 事 項	授業の双方向性とアクティブラーニングを目指します。				
教 材	自己と対人関係の社会心理学:「わたし」を巡るところと行動 (シリーズ 21 世紀の社会心理学, 13) 安藤清志編 北大路書房 ISBN9784762826924				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 自己と対人関係の社会心理学 3. 記憶の中の自己 4. 文化と自己 5. 自尊感情の働き 6. 社会的比較と自己 7. 自己意識的感情と対人関係 8. 親密な関係の光と影 9. 透明性の錯覚と対人関係 10. ネットのなかの自己と対人関係 11. 自己愛性格 12. 幻想の自己 13. 幻想の自己 14. 喪失体験と自己 15. まとめ 				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	精神・身体分野		
授業コード	M5400	授 業 科 目	心身医学特論		
担 当 者	松本 洋輔	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	心身医学、心身相関について概説する。 各種心身疾患、神経疾患の各論について概説する。 心身疾患の治療について概説する。				
到 達 目 標	心身疾患、神経疾患の概要について学び、心身の問題を抱えるクライアントに直接介入する専門家として必要な知識と対処法を習得する。				
成 績 評 価 基 準	出席時のディスカッション、小テスト、論文により総合評価する。				
留 意 事 項	精神医学特論と智に受講することが望ましい。				
教 材	適宜紹介する。				
授 業 予 定	第1回 心身医学概論 第2回 神経心理学と脳科学 第3回 神経学的診察法と神経解剖学 第4回 画像検査・生理検査 第5回 認知症 I 第6回 認知症 II 第7回 心身症 I 第8回 心身症 II 第9回 てんかん I 第10回 てんかん II 第11回 リエゾン精神医学 第12回 緩和ケア 第13回 神経科学と薬物療法 I 第14回 神経科学と薬物療法 II 第15回 睡眠障害 試験				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	精神・身体分野		
授業コード	M5410	授 業 科 目	障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)		
担 当 者	東 俊一	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパートリーを形成する技法や、公認心理師としての支援・実践のありかたについて学ぶ。				
到 達 目 標	子どもの抱える課題を客観的に理解したうえで、適切な技法選択及び指導手続きを作成できることを目的とする。				
成 績 評 価 基 準	授業内での発表およびレポート				
留 意 事 項					
教 材	適宜、指示・紹介する				
授 業 予 定	第1回：知的障害児のことばと認知の課題に関する理解と支援 第2回：知的障害児の運動機能と記憶の課題に関する理解と支援 第3回：発達障害の理解1 第4回：発達障害の理解2 第5回：学習理論（レスポナント条件付け） 第6回：学習理論（オペラント条件付け） 第7回：対人相互作用の形成 第8回：生活スキルの形成 第9回：コミュニケーション行動の形成 第10回：集団参加の促進 第11回：概念形成 第12回：行動問題へのアプローチ 第13回：障害のある子どもの家族支援の実践 第14回：障害児福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践 第15回：障害者福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	精神・身体分野		
授業コード	M5420	授 業 科 目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		
担 当 者	松本 洋輔	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>精神医学総論と精神症候学について概説する。 各精神疾患についての歴史・原因・症状・診断・経過・治療について概説する。 精神科治療法について概説する。 これらを通して、心理専門職が医療現場で協働していく際の基礎的素養の修得を目指す。</p>				
到 達 目 標	<p>精神疾患の概要について学び、クライアントに直接介入する保健・医療分野での専門家として必要な知識と対処法を習得する。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>出席時のディスカッション、小テスト、論文により総合評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>心身医学特論とともに受講することが望ましい。</p>				
教 材	<p>適宜紹介する</p>				
授 業 予 定	<p>第1回 保健医療分野における多職種専門家の協働体制について・精神医学概論 I 第2回 精神医学概論 II・保健医療分野に関わる公認心理師の実践 第3回 精神科症候学 I 第4回 精神科症候学 II 第5回 統合失調症 I 第6回 統合失調症 II 第7回 ストレス関連障害 I 第8回 ストレス関連障害 II 第9回 気分障害 I 第10回 気分障害 II 第11回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 I 第12回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 II 第13回 嗜癖・依存症 I 第14回 嗜癖・依存症 II 第15回 パーソナリティ障害 試験</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M5500	授 業 科 目	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		
担 当 者	関本 憲章	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	1 日本における司法、特に裁判制度の理解 2 犯罪心理学等に基づく矯正・保護制度の理解 3 犯罪を犯した人への支援と社会福祉の理解				
到 達 目 標	犯罪に関係する司法制度と行政的枠組みを理解するとともに、犯罪の原因となる生育・家庭等についての犯罪心理学理論を踏まえた改善・支援の現状について理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	1 質問課題に解答する試験及び課題に対する点数評価 (70点) 2 授業における質疑・レポートによる理解度の評価 (30点) 3 上記1及び2の総計100点評価				
留 意 事 項	1 授業の進捗状況及び施設の協力が得られた場合、授業内容に沿った施設見学(更生保護施設等)を計画する。				
教 材	1 更生保護制度及び心理学理論と心理的支援(社会福祉士シリーズ、第2及び第20、弘文堂) 2 公認心理師エッセンシャルズ(有斐閣)				
授 業 予 定	第1回 日本の司法制度:警察、検察、裁判所についてその役割を理解する。犯罪捜査、裁判、矯正施設の役割 第2回 司法制度に関連する心理学的視点:犯罪司法及び犯罪心理学の視点 第3回 犯罪の原因及び日本における犯罪の概要:犯罪心理学等から犯罪行為・心理を概観する 第4回 法務省矯正局の行政的枠組み、概要 第5回 少年矯正:非行、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院の業務概要 第6回 非行性の軽減を目的とした矯正教育の要点 第7回 成人矯正:犯罪、裁判制度、拘留所、刑務所の業務概要 第8回 非行・犯罪に関する司法制度についての質疑及び今後の課題 第9回 更生保護制度について:日本の社会福祉の観点から概観し、特に岡山県に関連した人物や組織について理解を深める。 第10回 再犯の防止に関連した社会内処遇の概要:法務省保護局の行政的枠組み、概要 第11回 保護観察制度、保護司制度及び更生保護施設の役割 第12回 更生保護制度における関係機関・団体との関係:特に福祉機関、就労支援関連等について 第13回 矯正・更生保護における最近の課題、動向について 第14回 司法・矯正・保護制度に関わる資格及び心理学的業務の概要 第15回 認定心理師の資格と業務について				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M5510	授 業 科 目	産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		
担 当 者	國村 博子	授 業 形 態	講義		
期 間	第2期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	産業・組織心理学は、組織における人間行動を研究する分野です。本授業では、産業・組織心理学の主要な概念について理解するとともに、理論に基づき支援できることを目的とし、産業・労働分野に関わる公認心理師の実践について、講義とワークショップの形式で進めていきたいと考えています。				
到 達 目 標	① 産業・組織心理学の主要な概念を理解すること ② 職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できること ③ 組織における人の行動について概説できること				
成 績 評 価 基 準	受講態度、リアクションペーパー：50% 期末レポート：50%				
留 意 事 項	毎回リアクションペーパーを配布し、課題や感想など記入を求める。				
教 材	プレゼンテーションソフトを用い講義形式や回によってはワークショップ形式を用いて行う。 〈参考書等〉 田中堅一郎編「産業・組織心理学エッセンシャルズ」(ナカニシヤ出版) 馬場昌雄・馬場房子・岡村一成監修「産業・組織心理学 改訂版」(白桃書房) 高橋浩・中嶋励子・渡邊祐子共著「社会人のための産業・組織心理学入門」(産業能率大学出版部) 津村俊充・山口真人編「人間関係トレーニング (第2版)」(ナカニシヤ出版)				
授 業 予 定	第1回 産業・組織心理学とは 第2回 組織と個人 第3回 職場集団と人間関係 第4回 組織コミットメント 第5回 職場のコミュニケーション 第6回 職場におけるリーダーシップ 第7回 ワーク・モチベーション 第8回 人事アセスメント 第9回 キャリア形成 第10回 職務満足度とワーク・ライフ・インテグレーション 第11回 ストレスとメンタルヘルス 第12回 ストレスチェックと職場環境改善 第13回 メンタルヘルス対策における職場復帰支援 第14回 職場のハラスメント対策 第15回 仕事の能率と安全 第16回 まとめ・期末レポート				

人間生活学研究科 人間発達学専攻 臨床心理学コース 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M5520	授 業 科 目	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		
担 当 者	高野 恵代	授 業 形 態	講義		
期 間	集中	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	本講義の目的は、家族が人間の発達にどのような意味をもつのか、ライフサイクルの視点から、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。とくに、個人や家族の抱えるさまざまな心理的・行動的な困難や問題を家族という文脈の中で理解し、解決に向けた援助を行っていくとする対人援助方法論である「家族療法」を中心に概説する。理論だけでなく、医療、教育、福祉、司法領域で行われている実践についても紹介し、家族を取り巻く環境や社会についても取り上げる。また、家族アセスメントで使用される心理検査についても体験し、実践に繋がる知見を学ぶ。				
到 達 目 標	<p>(1) 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。</p> <p>(2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。</p> <p>(3) 心理に関する相談、助言、指導等に対し、上記の(1)及び(2)を応用できる。</p>				
成 績 評 価 基 準	授業内での取り組み姿勢（発表回数、ディスカッションへの参加度）30%、最終レポート70%で評価する。				
留 意 事 項	文献講読や発表資料の作成など、授業外で行う作業がある。				
教 材	テキストは使用しないが、講義時に適宜プリントを配布する。また、参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。				
授 業 予 定	<p>第1回 オリエンテーション：家族と社会</p> <p>第2回 家族システム論：家族をどう捉えるか</p> <p>第3回 家族を理解するための概念：家族をどのように見立てるか</p> <p>第4回 家族の発達 (1)：独身の若い成人期</p> <p>第5回 家族の発達 (2)：結婚による家族の成立期</p> <p>第6回 家族の発達 (3)：乳幼児を育てる段階</p> <p>第7回 家族の発達 (4)：小学生の子どもとその家族</p> <p>第8回 家族の発達 (5)：思春期・青年期の子どもとその家族</p> <p>第9回 家族の発達 (6)：老年期の家族</p> <p>第10回 家族への臨床的アプローチ</p> <p>第11回 夫婦関係の危機と援助</p> <p>第12回 子育てをめぐる問題と援助</p> <p>第13回 家族が経験するストレスと援助</p> <p>第14回 家族の中のコミュニケーション</p> <p>第15回 家族アセスメント：心理検査の実施と分析および解釈の体験</p>				

人間生活学研究科 臨床心理学コース	人間発達学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連分野		
授業コード	M5530	授 業 科 目	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		
担 当 者	多田 志麻子	授 業 形 態	講義		
期 間	第1期	単 位 数	2	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。</p> <p>心の健康の保持増進や病気の予防に関する理論を理解したうえで、グループワークや研究論文の実践事例の発表・討論を取り入れ、心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法を修得する。</p>				
到 達 目 標	<p>心の健康教育に関する理論を説明できる。</p> <p>心の健康教育に関する実践方法を支援に活用できる。</p>				
成 績 評 価 基 準	講義での発表・討論・実践およびレポートから評価する。				
留 意 事 項					
教 材	<p>参考文献：竹中晃二編 健康心理学 北大路書房、大竹恵子編 保健と健康の心理学 ポジティブヘルスの実現 ナカニシヤ出版</p> <p>適宜資料を配付する。</p>				
授 業 予 定	<p>第1回：心の健康教育とは</p> <p>第2回：予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論</p> <p>第3回：セルフケアのための自己理解</p> <p>第4回：健康とパーソナリティ</p> <p>第5回：健康とストレス</p> <p>第6回：健康と生活習慣</p> <p>第7回：児童期・青年期（学校）の心の健康教育</p> <p>第8回：成人期（職場）の心の健康教育</p> <p>第9回：老年期の心の健康教育</p> <p>第10回：災害と心の健康教育</p> <p>第11回：認知行動療法</p> <p>第12回：アサーショントレーニング</p> <p>第13回：ストレスマネジメント</p> <p>第14回：アンガーマネジメント</p> <p>第15回：今後の課題・まとめ</p> <p>レポート提出</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養管理学		
授業コード	M6010	授 業 科 目	栄養生理学特論		
担 当 者	林 泰資	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>様々な食品成分や経口的に摂取される可能性のある化学物質のうち、特に脳の機能に影響を及ぼす成分を紹介し、その作用メカニズムを学ぶことによって、食事と脳機能および脳の発達との関連性を学ぶ。また、日々の食生活が学習活動や社会活動に及ぼす影響について、脳科学の立場から解説する。</p>				
到 達 目 標	<p>脳機能の生理学的理解という基盤に立ち、食育を指導する専門職業人として、一人ひとりの児童・生徒を総合的に理解し、食生活の指導を通じて子供たちの人間形成を支援できる人材を育成する。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>授業態度および課題レポート等を総合して評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>特になし。</p>				
教 材	<p>プリントを配付する。</p>				
授 業 予 定	<p>脳の発達、中枢神経系の構造と機能について解説した後、食事と脳機能について論述する。また、中枢神経系の疾患および遺伝性疾患についても概説する。</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養管理学		
授業コード	M6020	授業科目	栄養管理学特論		
担当者	戸田 雅裕	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	食品の機能には栄養機能や嗜好感覚機能の他に生体調整機能があり、特に生活習慣病の予防・改善に効果があるとされる各種機能性成分が注目を集めている。本講義では生活習慣病についての理解を深めるとともに、食の観点からその予防法を探求する。				
到達目標	生活習慣病について、特に食の観点から理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。				
成績評価基準	出席状況、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。				
留意事項					
教材	資料を適宜配布する。				
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：生活習慣病の歴史 第3回：生活習慣病の発症要因（1）遺伝要因 第4回：生活習慣病の発症要因（2）外部環境要因 第5回：生活習慣病の発症要因（3）生活習慣要因 第6回：生活習慣（1）飲酒 第7回：生活習慣（2）喫煙 第8回：生活習慣（3）運動 第9回：生活習慣（4）食習慣 第10回：生活習慣（5）睡眠 第11回：生活習慣（6）生活リズム 第12回：生活習慣（7）ストレス 第13回：生活習慣の評価指標 第14回：生活習慣病（1）肥満 第15回：生活習慣病（2）高血圧 第16回：生活習慣病（3）糖尿病 第17回：生活習慣病（4）脳血管疾患 第18回：生活習慣病（5）心疾患 第19回：生活習慣病（6）がん 第20回：生活習慣病（7）メタボリックシンドローム 第21回：生活習慣病（8）う蝕 第22回：生活習慣病（9）歯周病 第23回：生活習慣病（10）その他の生活習慣病 第24回：生活習慣病の予防 第25回：食品の機能性成分（1）ポリフェノール 第26回：食品の機能性成分（2）カロテノイド 第27回：食品の機能性成分（3）イソチオシアネート 第28回：テラーメイド食品 第29回：エピジェネティクス 第30回：まとめ				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養管理学		
授業コード	M6030	授業科目	公衆栄養学特論		
担当者	逸見真理子・林宏一	授業形態	講義（演習も含む）		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	人々の健康状態や食生活に影響を与える環境要因としての自然環境・社会環境の種類とそれらの重要性を理解することから始める。その後、環境と栄養問題との関連性を文献講読等で検討し、課題解決の進め方を学習していく。さらに、健康対策のモデルに基づいて、課題解決対策を考案する。				
到達目標	人々の健康状態や食生活に影響を与える環境要因が理解できる。 環境と栄養問題との関連性についての先行研究が理解できる。 健康対策の代表的なモデルについての理解をとおして、課題解決における多面的アプローチの重要性が理解できる。 健康・栄養課題にむけて事業の企画・立案ができる。				
成績評価基準	レポート70%、授業への積極的参加度30%で評価する。				
留意事項	日ごろから報道や論文などに接し、人間生活を取り巻く環境について意識しておくこと。				
教材	テーマに応じたプリントを配布する。スライドによる説明を行う。				
授業予定	<p>第1回 予防栄養学における疫学の役割 (1～15回：林)</p> <p>第2回 科学的根拠に基づく健康栄養施策の展開</p> <p>第3回 集団対象の栄養アセスメント手法①（地域集団）</p> <p>第4回 集団対象の栄養アセスメント手法②（職域集団、その他の集団）</p> <p>第5回 栄養環境探索のためのフィールド調査手法①（自然環境を中心に）</p> <p>第6回 栄養環境探索のためのフィールド調査手法②（社会環境を中心に）</p> <p>第7回 集団における栄養問題の事例検討（地域集団）</p> <p>第8回 集団における栄養問題の事例検討（職域集団）</p> <p>第9回 集団における栄養問題の事例検討（その他の集団）</p> <p>第10回 栄養環境問題と課題解決の手法①（理論）</p> <p>第11回 栄養環境問題と課題解決の手法②（組織的対応）</p> <p>第12回 栄養環境問題と課題解決の社会における事例検討①（地域集団）</p> <p>第13回 栄養環境問題と課題解決の社会における事例検討②（職域集団）</p> <p>第14回 栄養環境問題と課題解決の社会における事例検討③（その他の集団）</p> <p>第15回 中間まとめ－人間と栄養環境を考える－</p> <p>第16回 地域公衆栄養活動の概論 (16～30回：逸見)</p> <p>第17回 地域・社会集団の実態把握①（健康状態の把握と課題の抽出）</p> <p>第18回 地域・社会集団の実態把握②（食生活の状況把握と課題の抽出）</p> <p>第19回 地域における健康栄養関連各種計画書</p> <p>第20回 公衆栄養プログラム計画実施のための社会資源</p> <p>第21回 公衆栄養活動の事例検討①（母子対策）</p> <p>第22回 公衆栄養活動の事例検討②（成人対策）</p> <p>第23回 公衆栄養活動の事例検討③（高齢者対策）</p> <p>第24回 公衆栄養活動の事例検討④（食環境づくり）</p> <p>第25回 公衆栄養活動の事例検討⑤（給食施設指導）</p> <p>第26回 公衆栄養活動の事例検討⑥（地区組織育成）</p> <p>第27回 公衆栄養活動の事例検討⑦（災害時食支援対策）</p> <p>第28回 公衆栄養プログラム計画の評価における事例検討</p> <p>第29回 行政栄養士の各種業務における評価の基本</p> <p>第30回 まとめ－地域における今後の公衆栄養活動を考える－</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養管理学		
授業コード	M6050	授業科目	栄養管理学演習		
担当者	戸田 雅裕	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	体内で発生する活性酸素は生活習慣病の発生に大きな役割を果たしており、そのため予防医学の観点から抗酸化物質の摂取が有効であると考えられている。本講義では活性酸素発生機序ならびに起因疾患についての理解を深めるとともに、各種抗酸化物質の有効性を検討する。				
到達目標	関連文献の検索を中心とした情報収集力を養うとともに、抗酸化物質の食生活への有効活用について提言することを目的とする。				
成績評価基準	出席状況、ディスカッションにおける積極性、ならびに論文抄読の内容等から総合的に評価する。				
留意事項					
教材	資料を適宜配布する。また、自ら論文等の文献を収集する。				
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：活性酸素と酸化ストレス 第3回：活性酸素の生理的役割 第4回：活性酸素の作用機序 第5回：活性酸素の発生原因 第6回：活性酸素と生活習慣（1）喫煙 第7回：活性酸素と生活習慣（2）食生活 第8回：活性酸素と生活習慣（3）飲酒 第9回：活性酸素と生活習慣（4）ストレス 第10回：活性酸素に起因する疾患（1）脳神経疾患 第11回：活性酸素に起因する疾患（2）循環器疾患 第12回：活性酸素に起因する疾患（3）消化器疾患 第13回：活性酸素に起因する疾患（4）呼吸器疾患 第14回：活性酸素に起因する疾患（5）その他の疾患 第15回：生体の抗酸化作用 第16回：抗酸化酵素（1）SOD 第17回：抗酸化酵素（2）グルタチオンペルオキシダーゼ 第18回：抗酸化酵素（3）カタラーゼ 第19回：抗酸化物質（1）カロテノイド 第20回：抗酸化物質（2）ポリフェノール 第21回：抗酸化物質（3）ビタミン 第22回：抗酸化物質（4）その他の抗酸化物質 第23回：抗酸化作用を持つ食品 第24回：抗酸化作用とアンチエイジング 第25回：論文抄読（1）生活習慣 第26回：論文抄読（2）ストレス 第27回：論文抄読（3）活性酸素 第28回：論文抄読（4）抗酸化酵素 第29回：論文抄読（5）抗酸化物質 第30回：まとめ				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養管理学		
授業コード	M6091	授 業 科 目	栄養管理学演習		
担 当 者	林 泰資	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	脳科学に関する基礎的および臨床的な著書，原著論文を読み，食育を指導する立場に立って討論を行う。さらに，組織学的，神経化学的および行動薬理学的手法を用いて実験を行い，脳の発達や機能に及ぼす成育環境や食品成分の影響について追求する。				
到 達 目 標	学術情報の収集方法を身につけることによって，主体的に研究テーマを検索する能力を養う。さらに，実験研究を行い，その結果を分析・考察し，研究レポートを完成させる。これらを通じて，食に関する教育を行うことのできる高い資質・能力を有した人材育成を行う。				
成 績 評 価 基 準	立案された研究テーマの遂行，研究結果の分析と考察，研究レポートの作成状況などから総合的に判断する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	自ら著書，原著論文等の文献を収集する。 自ら参考書，参考資料を収集する。				
授 業 予 定	第 1 回 授業方法の説明（オリエンテーション） 第 2 回 文献検索法の解説および実地指導（1） 第 3 回 文献検索法の解説および実地指導（2） 第 4 回 学術論文・学術書の読解指導（1） 第 5 回 学術論文・学術書の読解指導（2） 第 6 回 学術論文・学術書の読解指導（3） 第 7 回 学術論文購読（1） 第 8 回 学術論文購読（2） 第 9 回 学術論文購読（3） 第 10 回 文献発表（1） 第 11 回 文献発表（2） 第 12 回 文献発表（3） 第 13 回 文献発表（4） 第 14 回 研究課題と研究方法の設定（1） 第 15 回 研究課題と研究方法の設定（2） 第 16 回 研究課題と研究方法の設定（3） 第 17 回 組織学的研究の実験研究指導（1） 第 18 回 組織学的研究の実験研究指導（2） 第 19 回 組織学的研究の実験研究指導（3） 第 20 回 神経化学的研究の実験研究指導（1） 第 21 回 神経化学的研究の実験研究指導（2） 第 22 回 神経化学的研究の実験研究指導（3） 第 23 回 行動薬理学的研究の実験指導（1） 第 24 回 行動薬理学的研究の実験指導（2） 第 25 回 行動薬理学的研究の実験指導（3） 第 26 回 研究結果の解析と考察（1） 第 27 回 研究結果の解析と考察（2） 第 28 回 研究レポート作成（1） 第 29 回 研究レポート作成（2） 第 30 回 研究レポート作成（3）				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学																																												
授業コード	M6200	授 業 科 目	栄養学特論																																												
担 当 者	小林 謙一	授 業 形 態	講義																																												
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II																																										
授 業 概 要	<p>栄養素や食品成分が、生体内の様々な生理機能とどのように関わっているのかについて、最新の知見に基づいて講述する。特に、アミノ酸栄養と他の様々な栄養素との関連に焦点を当てつつ、疾病との関連性にも触れるとともに、疾病を予防・改善する食品（成分）についても考察したい。</p>																																														
到 達 目 標	<p>栄養素および食品成分の生理機能について、基礎的知見から最新の知見まで幅広い知識を統合的に理解できるようになるとともに、「食」と「栄養」に関する高度な専門的職業人としての基盤的能力を身につけることができる。</p>																																														
成 績 評 価 基 準	<p>受講態度、課題発表、課題レポートを総合的に評価する。</p>																																														
留 意 事 項	<p>毎回到授業において、課題文献に関する予習が必須である。</p>																																														
教 材	<p>国内外の学術論文を教材とする。</p>																																														
授 業 予 定	<p>授業予定</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>第22回：機能性食品成分の化学</td> </tr> <tr> <td>第2回：タンパク質・アミノ酸の消化・吸収</td> <td>第23回：アミノ酸代謝を調節する食品成分</td> </tr> <tr> <td>第3回：タンパク質・アミノ酸の体内動態</td> <td>第24回：糖質代謝を調節する食品成分</td> </tr> <tr> <td>第4回：アミノ酸の機能と代謝</td> <td>第25回：脂質代謝を調節する食品成分</td> </tr> <tr> <td>第5回：アミノ酸による遺伝子発現の調節</td> <td>第26回：タンパク質・アミノ酸の研究手法</td> </tr> <tr> <td>第6回：食品タンパク質の栄養評価法</td> <td>第27回：アミノ酸とシグナル伝達</td> </tr> <tr> <td>第7回：タンパク質栄養状態の評価法</td> <td>第28回：アミノ酸とオートファジー</td> </tr> <tr> <td>第8回：アミノ酸と肝機能</td> <td>第29回：アミノ酸とエピジェネティクス</td> </tr> <tr> <td>第9回：アミノ酸と肝疾患</td> <td>第30回：総括</td> </tr> <tr> <td>第10回：アミノ酸と腎機能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回：アミノ酸と慢性腎臓病</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回：アミノ酸と糖代謝</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回：アミノ酸と糖尿病</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回：アミノ酸と骨代謝、</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回：アミノ酸と骨粗鬆症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第16回：タンパク質・アミノ酸と食事摂取基準</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第17回：アミノ酸と脳疾患</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第18回：消化管におけるアミノ酸の代謝</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第19回：アミノ酸と消化器系疾患</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第20回：アミノ酸代謝の調節</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第21回：アミノ酸代謝と薬剤</td> <td></td> </tr> </table>					第1回：オリエンテーション	第22回：機能性食品成分の化学	第2回：タンパク質・アミノ酸の消化・吸収	第23回：アミノ酸代謝を調節する食品成分	第3回：タンパク質・アミノ酸の体内動態	第24回：糖質代謝を調節する食品成分	第4回：アミノ酸の機能と代謝	第25回：脂質代謝を調節する食品成分	第5回：アミノ酸による遺伝子発現の調節	第26回：タンパク質・アミノ酸の研究手法	第6回：食品タンパク質の栄養評価法	第27回：アミノ酸とシグナル伝達	第7回：タンパク質栄養状態の評価法	第28回：アミノ酸とオートファジー	第8回：アミノ酸と肝機能	第29回：アミノ酸とエピジェネティクス	第9回：アミノ酸と肝疾患	第30回：総括	第10回：アミノ酸と腎機能		第11回：アミノ酸と慢性腎臓病		第12回：アミノ酸と糖代謝		第13回：アミノ酸と糖尿病		第14回：アミノ酸と骨代謝、		第15回：アミノ酸と骨粗鬆症		第16回：タンパク質・アミノ酸と食事摂取基準		第17回：アミノ酸と脳疾患		第18回：消化管におけるアミノ酸の代謝		第19回：アミノ酸と消化器系疾患		第20回：アミノ酸代謝の調節		第21回：アミノ酸代謝と薬剤	
第1回：オリエンテーション	第22回：機能性食品成分の化学																																														
第2回：タンパク質・アミノ酸の消化・吸収	第23回：アミノ酸代謝を調節する食品成分																																														
第3回：タンパク質・アミノ酸の体内動態	第24回：糖質代謝を調節する食品成分																																														
第4回：アミノ酸の機能と代謝	第25回：脂質代謝を調節する食品成分																																														
第5回：アミノ酸による遺伝子発現の調節	第26回：タンパク質・アミノ酸の研究手法																																														
第6回：食品タンパク質の栄養評価法	第27回：アミノ酸とシグナル伝達																																														
第7回：タンパク質栄養状態の評価法	第28回：アミノ酸とオートファジー																																														
第8回：アミノ酸と肝機能	第29回：アミノ酸とエピジェネティクス																																														
第9回：アミノ酸と肝疾患	第30回：総括																																														
第10回：アミノ酸と腎機能																																															
第11回：アミノ酸と慢性腎臓病																																															
第12回：アミノ酸と糖代謝																																															
第13回：アミノ酸と糖尿病																																															
第14回：アミノ酸と骨代謝、																																															
第15回：アミノ酸と骨粗鬆症																																															
第16回：タンパク質・アミノ酸と食事摂取基準																																															
第17回：アミノ酸と脳疾患																																															
第18回：消化管におけるアミノ酸の代謝																																															
第19回：アミノ酸と消化器系疾患																																															
第20回：アミノ酸代謝の調節																																															
第21回：アミノ酸代謝と薬剤																																															

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程	研究分野／領域	栄養学			
授業コード	M6230	授 業 科 目	臨床栄養学特論		
担 当 者	今本美幸・白神俊幸	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	本講義では前半部において、各種栄養素の吸収・輸送障害を伴う腸疾患による栄養障害について分子病態栄養学の観点から解説する。さらに後半部において、病院治療食から家庭治療食まで、患者に対する食事療法の具体的な教育法を臨床栄養学の観点から考える。				
到 達 目 標	主要栄養素の吸収機構とそれらが破綻するメカニズムおよび疾患との関わりについて理解する。さらにエビデンスに基づいて各疾患の食事療法について、行動変容が可能な患者教育法を考え、患者の食生活がどのように変化することが望ましいのか、具体的にイメージできる能力を養う。				
成 績 評 価 基 準	授業態度、レポート、発表等を総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	適宜配布あるいは紹介する				
授 業 予 定	1. イントロダクション (1. イントロダクション～ 15. 疾病治療への応用・発展性:白神) 2. 栄養素の消化機構と調節 3. 輸送系について 4. 輸送担体について 5. 膜輸送について 6. 膜輸送の分子機構 7. アミノ酸・ペプチドの吸収障害 8. 糖の吸収障害 9. 脂肪の吸収障害 10. ビタミンの吸収障害 11. ミネラルの吸収障害 12. 輸送担体と疾病との関わり 13. 栄養障害と輸送担体 14. 疾病予防への応用・発展性 15. 疾病治療への応用・発展性 16. 疾患別食事療法:循環器系 (16. 疾患別食事療法:循環器系～ 30. まとめ:今本) 17. 疾患別食事療法:消化器系 18. 疾患別食事療法:内分泌系 19. 疾患別食事療法:腎臓系 20. 病院治療食教育の計画 21. 病院治療食教育の教材 22. 病院治療食教育の調査 23. 病院治療食教育の実際 24. 病院治療食教育の評価 25. 家庭治療食教育の計画 26. 家庭治療食教育の教材 27. 家庭治療食教育の調査 28. 家庭治療食教育の実際 29. 家庭治療食教育の評価 30. まとめ				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学		
授業コード	M6300	授 業 科 目	臨床医学特論		
担 当 者	山下 美保	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>本授業は、症例を学ぶことで、臨床現場における問診、診察、検査、診断、治療までの流れを理解し、鑑別診断を考える力を修得することを目的とする。授業では教員が症例を提示し、学生は経過や検査結果に対して意見を述べる機会をもつ。そして本授業は結果から総合して考えられる鑑別診断について、グループでディスカッションを行い導き出していく問題解決型学習(PBL: Problem based learning)である。ディスカッションを通して各自で理解が不十分な疾患や病態の機序等について課題(LI: Learning issue)を決め、自主学習を行い、まとめたものをグループ内でプレゼンテーションしてもらう。</p>				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例を通じて、診察所見について判断ができるようになる。 2. 検査結果を説明することができる。 3. 問診・診察・検査の結果から、鑑別診断を挙げられるようになる。 4. LIについて自主学習を行い、それをレジュメにまとめ、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 				
成 績 評 価 基 準	<p>ディスカッションへの参加態度 50% LI, プレゼンテーションの内容 50%</p>				
留 意 事 項	オフィスアワー：火曜日7－8限（通年）				
教 材	<p>テキストは使用しない。 症例提示の回では、書き込み用のワークシートを配布する。</p>				
授 業 予 定	<p>第1回 PBLについての説明、診察方法・身体所見について 第2回 症例#1（消化器疾患） 第3回 症例#1についてのLIの発表、質疑応答 第4回 症例#2（内分泌疾患） 第5回 症例#2についてのLIの発表、質疑応答 第6回 症例#3（膠原病・アレルギー疾患） 第7回 症例#3についてのLIの発表、質疑応答 第8回 症例#4（感染性疾患） 第9回 症例#4についてのLIの発表、質疑応答 第10回 症例#5（悪性疾患） 第11回 症例#5についてのLIの発表、質疑応答 第12回 症例#6（脳神経系疾患） 第13回 症例#6についてのLIの発表、質疑応答 第14回 症例#7（心身症・精神疾患） 第15回 症例#7についてのLIの発表、質疑応答 ※症例内容は適宜変更する。 ※症例内容には変更を加えているが、守秘に留意すること。 ※1期2期共に同様の授業予定で行う。</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学				
授業コード	M6310	授 業 科 目	栄養教育学特論				
担 当 者	若本 ゆかり	授 業 形 態	講義				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II		
授 業 概 要	生涯を通じた心身の健康管理には、望ましい食生活習慣確立の基盤となる自己管理能力の育成が不可欠であり、食を通じた学習指導はその要といえる。この教育活動の円滑な推進のために必要な知識と技術の習得を目指す。						
到 達 目 標	各対象者のライフステージやライフスタイルの現状を科学的に判断し、行動変容のための効果的な教育プログラムを立案できる能力を養う。						
成 績 評 価 基 準	レポート (50%)、授業での応答 (50%)						
留 意 事 項	栄養教育に取り入れるべき要素として、栄養・健康・食生活に関する法令や通知内容を理解し活用すること。						
教 材	必要に応じて紹介・配布する。						
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1回:ガイダンス 第2回:栄養教育の概念(1)(定義と目的) 第3回:栄養教育の概念(2)(歴史的変遷) 第4回:栄養教育の概念(3)(現状と課題) 第5回:食行動変容と栄養教育 第6回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(1)(オペラント学習理論) 第7回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(2)(ヘルスピリーフモデル) 第8回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(3)(トランスセオレティカルモデル) 第9回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(4)(計画的行動理論) 第10回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(5)(社会的認知理論) 第11回:栄養カウンセリングの基本理論 第12回:栄養カウンセリングの実際 第13回:食環境づくりと栄養教育(1)(食物へのアクセス) 第14回:食環境づくりと栄養教育(2)(情報へのアクセス) 第15回:栄養教育における組織づくり・ネットワークづくり </td> <td style="vertical-align: top;"> 第16回:栄養教育マネジメント 第17回:栄養教育計画(1)(栄養教育プログラムの基本) 第18回:栄養教育計画(2)(目標設定) 第19回:栄養教育計画(3)(教育方法と学習形態) 第20回:栄養教育計画(4)(栄養教育教材) 第21回:栄養教育計画の実施 第22回:栄養教育計画の評価(1)(評価の種類) 第23回:栄養教育計画の評価(2)(信頼性と妥当性) 第24回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(1)(妊娠・授乳期) 第25回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(2)(乳幼児期) 第26回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(3)(学童期) 第27回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(4)(思春期) 第28回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(5)(成人期) 第29回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(6)(高齢期) 第30回:まとめ </td> </tr> </table>					第1回:ガイダンス 第2回:栄養教育の概念(1)(定義と目的) 第3回:栄養教育の概念(2)(歴史的変遷) 第4回:栄養教育の概念(3)(現状と課題) 第5回:食行動変容と栄養教育 第6回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(1)(オペラント学習理論) 第7回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(2)(ヘルスピリーフモデル) 第8回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(3)(トランスセオレティカルモデル) 第9回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(4)(計画的行動理論) 第10回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(5)(社会的認知理論) 第11回:栄養カウンセリングの基本理論 第12回:栄養カウンセリングの実際 第13回:食環境づくりと栄養教育(1)(食物へのアクセス) 第14回:食環境づくりと栄養教育(2)(情報へのアクセス) 第15回:栄養教育における組織づくり・ネットワークづくり	第16回:栄養教育マネジメント 第17回:栄養教育計画(1)(栄養教育プログラムの基本) 第18回:栄養教育計画(2)(目標設定) 第19回:栄養教育計画(3)(教育方法と学習形態) 第20回:栄養教育計画(4)(栄養教育教材) 第21回:栄養教育計画の実施 第22回:栄養教育計画の評価(1)(評価の種類) 第23回:栄養教育計画の評価(2)(信頼性と妥当性) 第24回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(1)(妊娠・授乳期) 第25回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(2)(乳幼児期) 第26回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(3)(学童期) 第27回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(4)(思春期) 第28回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(5)(成人期) 第29回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(6)(高齢期) 第30回:まとめ
第1回:ガイダンス 第2回:栄養教育の概念(1)(定義と目的) 第3回:栄養教育の概念(2)(歴史的変遷) 第4回:栄養教育の概念(3)(現状と課題) 第5回:食行動変容と栄養教育 第6回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(1)(オペラント学習理論) 第7回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(2)(ヘルスピリーフモデル) 第8回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(3)(トランスセオレティカルモデル) 第9回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(4)(計画的行動理論) 第10回:行動科学理論およびモデルと栄養教育(5)(社会的認知理論) 第11回:栄養カウンセリングの基本理論 第12回:栄養カウンセリングの実際 第13回:食環境づくりと栄養教育(1)(食物へのアクセス) 第14回:食環境づくりと栄養教育(2)(情報へのアクセス) 第15回:栄養教育における組織づくり・ネットワークづくり	第16回:栄養教育マネジメント 第17回:栄養教育計画(1)(栄養教育プログラムの基本) 第18回:栄養教育計画(2)(目標設定) 第19回:栄養教育計画(3)(教育方法と学習形態) 第20回:栄養教育計画(4)(栄養教育教材) 第21回:栄養教育計画の実施 第22回:栄養教育計画の評価(1)(評価の種類) 第23回:栄養教育計画の評価(2)(信頼性と妥当性) 第24回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(1)(妊娠・授乳期) 第25回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(2)(乳幼児期) 第26回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(3)(学童期) 第27回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(4)(思春期) 第28回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(5)(成人期) 第29回:ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育(6)(高齢期) 第30回:まとめ						

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学		
授業コード	M6320	授業科目	栄養学演習		
担当者	小林 謙一	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	アミノ酸の代謝異常と生活習慣病との関連についての研究課題を設定し、それに基づいた学術文献の抄読、実験計画の立案、実験の実施、そして結果の解析および考察を行う。さらに、生活習慣病を予防・改善する食品成分について考究する。				
到達目標	学術論文を正確に読み解く能力を身につけた上で、実験の設計、実験の実施、結果の判断と考察、そして論文作成までを、主体的に行う基礎的能力を習得できる。				
成績評価基準	研究態度、課題発表、学会発表、および論文作成・投稿などを総合的に評価する				
留意事項	学会発表および論文投稿を目指す。				
教材	国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。				
授業予定	<p>授業予定</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：研究課題の設定のための学術論文の検索（1）</p> <p>第3回：研究課題の設定のための学術論文の検索（2）</p> <p>第4回：学術論文の抄読と討論（1）</p> <p>第5回：学術論文の抄読と討論（2）</p> <p>第6回：研究課題設定のための討論</p> <p>第7回：研究課題の設定</p> <p>第8回：研究計画の立案</p> <p>第9回：試薬の調製</p> <p>第10回：機器・装置類の操作法（1）</p> <p>第11回：機器・装置類の操作法（2）</p> <p>第12回：実験動物の扱い方</p> <p>第13回：飼料の調製</p> <p>第14回：動物飼育法</p> <p>第15回：細胞培養法</p> <p>第16回：生化学的実験法の習得</p> <p>第17回：生化学的実験法の収集（1）</p> <p>第18回：生化学的データの収集（2）</p> <p>第19回：生化学的データの解析</p> <p>第20回：分子生物学的実験法の習得</p> <p>第21回：分子生物学的実験法の収集（1）</p> <p>第22回：分子生物学的データの収集（2）</p> <p>第23回：分子生物学的データの解析</p> <p>第24回：組織化学的実験法の習得</p> <p>第25回：組織化学的実験法の収集</p> <p>第26回：組織化学的データの解析</p> <p>第27回：プレゼンテーション法</p> <p>第28回：プレゼンテーションの実施</p> <p>第29回：論文作成（1）</p> <p>第30回：論文作成（2）</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学		
授業コード	M6330	授 業 科 目	栄養学演習		
担 当 者	若本 ゆかり	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	生活習慣および食習慣と健康障害との関連について、学術論文の抄読により、栄養疫学的知見から評価・考察できるようにする。あわせて質の高い研究デザインを行うための基礎的能力を養う。				
到 達 目 標	研究目的に応じた実施可能な評価指標が設定できること。さらに評価を組み込んだ健康教育プログラムがデザインできることを目標とする。				
成 績 評 価 基 準	研究レポート (50%)、授業での応答 (50%)				
留 意 事 項	統計結果だけでなく、データ全体を客観的に評価する視点を持つようつとめること。				
教 材	配付あるいは紹介する資料に加え、自ら論文を収集する。				
授 業 予 定	第1回：演習概要説明 (オリエンテーション) 第2回：学術論文検索および収集 (1) (国内研究) 第3回：学術論文検索および収集 (2) (国外研究) 第4回：学術論文抄読 (1) (研究デザインについて) 第5回：学術論文抄読 (2) (評価指標について) 第6回：学術論文抄読 (3) (統計手法について) 第7回：評価デザイン 第8回：評価指標 第9回：データ収集法 (1) (データの種類) 第10回：データ収集法 (2) (調査方法) 第11回：データ解析法 (1) (バイアス制御) 第12回：データ解析法 (2) (統計手法) 第13回：研究課題設定 第14回：研究指導 研究デザイン 第15回：研究指導 評価指標設定 第16回：研究指導 データ収集 (1) (質的データ) 第17回：研究指導 データ収集 (2) (量的データ) 第18回：研究指導 データ収集 (3) (実測法) 第19回：研究指導 データ収集 (4) (面接法) 第20回：研究指導 データ収集 (5) (質問紙法) 第21回：研究指導 データ解析 (1) (差の検定) 第22回：研究指導 データ解析 (2) (相関と回帰) 第23回：研究指導 データ解析 (3) (重回帰分析) 第24回：研究指導 データ解析 (4) (主成分分析) 第25回：研究指導 データ解析 (5) (クラスター分析) 第26回：研究指導 プレゼンテーション (1) (プレゼンテーションスキル) 第27回：研究指導 プレゼンテーション (2) (プレゼンテーションツール) 第28回：研究論文の作成 (1) (研究デザインの確認および考察) 第29回：研究論文の作成 (2) (介入プログラムの確認および考察) 第30回：研究論文の作成 (3) (評価指標の確認および考察)				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	食品学		
授業コード	M6400	授 業 科 目	食品学特論		
担 当 者	吉金 優	授 業 形 態	座学		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	健康の維持・増進を目的とした付加価値の高い食品が数多く販売されている。本講義では、これら機能性食品の社会的ニーズ、種類および研究開発事例等について、具体例を挙げながら紹介する。				
到 達 目 標	機能性食品の種類や研究開発事例について理解するとともに、「食」のスペシャリストとして機能性食品を科学的根拠に基づいて論ずることができる。				
成 績 評 価 基 準	授業態度、発表内容、およびレポート内容から総合的に評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	適宜資料を配布する。				
授 業 予 定	第1回：授業概論 第2回：食品の一次機能 (1) タンパク質 第3回：食品の一次機能 (2) 脂質 第4回：食品の一次機能 (3) 炭水化物 第5回：食品の二次機能 第6回：食品の三次機能 (生体調節機能) 第7回：機能性食品の社会的ニーズ 第8回：食品の機能性マーケティング 第9回：保健機能食品の分類 第10回：関与成分 (1) 素材 第11回：関与成分 (2) 微生物 第12回：機能性食品の事例 (1) 事例1 第13回：機能性食品の事例 (2) 事例2 第14回：機能性食品の事例 (3) 研究開発事例1 第15回：機能性食品の事例 (4) 研究開発事例2 第16回：機能性食品の事例 (5) 研究開発事例3 第17回：機能性食品の事例 (6) 調査 第18回：機能性食品の事例 (7) プレゼンテーション 第19回：食品の製造・加工 (1) 原理 第20回：食品の製造・加工 (2) 単位操作 第21回：食品の製造・加工 (3) 食品の安全性確保 第22回：加工食品の事例 (1) 事例 第23回：加工食品の事例 (2) 地域産品の開発事例1 第24回：加工食品の事例 (3) 地域産品の開発事例2 第25回：機能性食品の企画・提案 (1) 企画 第26回：機能性食品の企画・提案 (2) 討論 第27回：機能性食品の企画・提案 (3) 調査 第28回：機能性食品の企画・提案 (4) プレゼンテーション 第29回：機能性食品の未来 第30回：総括				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	食品学		
授業コード	M6410	授業科目	調理学特論		
担当者	今田 節子	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	各地に伝承される伝統食および日本料理の技術や心得について発達・形成過程を辿り、調理科学的視点より特徴を明確にすると共に、それらの有用性について論述する。また、これらの知識を反映させた食の教育のあり方についても講述する。				
到達目標	伝統食や調理技術の発達、変容には、各地域の自然環境や各時代の社会環境が大きく反映することを理解し、学際領域から調理学をとらえる能力を養う。				
成績評価基準	受講への積極性および課題レポートなどにより総合的に評価する。				
留意事項	気候風土、歴史、日本文化に関心を深め、調理を科学する習慣を身につけること。				
教材	授業時に必要に応じて資料を配付、または参考文献などを紹介				
授業予定	I. 調理学とは、II. 食生活の成立と展開、III. 日本料理の発達と工夫、IV. 伝統食の特徴と地域性、V. 現代の食生活における伝統食の役割、の5項目からなる。III、IVでは近世料理書の研究および伝統食の聴き取り調査結果をもとに講義を進める。				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	栄養学		
授業コード	M6420	授 業 科 目	食文化特論		
担 当 者	北島 直文	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I, II
授 業 概 要	狩猟採集時代から農耕栽培の時代に入り、「食」の内容や形態が大きく変化した。同時に、様々な加工・調理が発達し、地域・民族に固有の「食文化」が形成された。古今東西の食べ物を対象として、個々の「食文化」の背景や形成の経緯、さらに固有の「食文化」が生活様式や思考・社会行動に与えた影響について考究したい。				
到 達 目 標	様々な文献・書物を渉猟し、各「食文化」の比較検討、各「食文化」間の相互作用や発展のメカニズムを調査・論考し、講究することを目標とする。				
成 績 評 価 基 準	各授業内容について担当を決めて、報告を課し、それをもって成績評価とする。基準は、各検討課題に対する背景、先行研究の調査内容、論点の明瞭性・新規性・論理性に主眼を置き、評価する。				
留 意 事 項	考証学的文化論に固執せず、食品科学、栄養学、調理科学、生化学、生理学、微生物学等の学問領域からの考察も随時行い、個々の食文化成立、存続、変遷の必然性について考察する。				
教 材	講義において適宜紹介する。				
授 業 予 定	<ul style="list-style-type: none"> ①食文化論概要と食の機能と分類 ②狩猟採集時代の食と食文化 ③農耕・牧畜・漁労の発生とその意義 ④日本の食 1) 米食のもつ意味と歴史的役割 ⑤日本の食 2) 酒と餅の文化 ⑥日本の食 3) 米と魚と大豆にまつわる古代から中世の食と食文化 ⑦日本の食 4) 近代、現代に至る食の変遷と食環境変化 ⑧西欧の食 1) 古代地中海沿岸域の食べ物と食文化 ⑨西欧の食 2) 旧約聖書にみる食 ⑩西欧の食 3) 新約聖書にみる食 ⑪西欧の食 4) 歴史的変遷と地域的変容 ⑫アフリカの食 1) 農耕民の食 ⑬アフリカの食 2) 狩猟採集民の食 ⑭アフリカの食 3) 酒とその関連飲料 ⑮アフリカの食 4) 呪いと占い、呪術の世界における食の位置づけ 				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	食品学		
授業コード	M6475	授業科目	衛生微生物学特論		
担当者	長濱 統彦	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	環境中に存在する微生物のうち、感染症に関わるものはごくわずかである。地球に存在する微生物の進化と多様性を学び、そのなかでの人との関わり、特に食水媒介感染症に関わる微生物の位置付けと特異性について理解する				
到達目標	微生物の進化について理解し、その多様性を自ら解析する能力を身に付ける				
成績評価基準	授業態度、研究レポートなどを総合的に評価する				
留意事項					
教材	講義の内容に関連する学術論文の講読を行う				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：微生物研究の歴史（1） 微生物の発見</p> <p>第3回：微生物研究の歴史（2） 病原性と衛生</p> <p>第4回：微生物の進化と多様性（1） 生命の起源</p> <p>第5回：微生物の進化と多様性（2） 原核生物の真核生物の多様性</p> <p>第6回：微生物の進化と多様性（3） 微生物学における分子情報の取得</p> <p>第7回：微生物の進化と多様性（4） 微生物学における分子情報の活用と応用</p> <p>第8回：細菌の種と分類（1） グラム陰性細菌とグラム陽性細菌</p> <p>第9回：細菌の種と分類（2） 細菌の分子生物学的手法</p> <p>第10回：細菌の種と分類（3） 細菌遺伝子に基づく分類と同定</p> <p>第11回：真菌の種と分類（1） 子囊菌類と担子菌類</p> <p>第12回：真菌の種と分類（2） 真菌における分子生物学的手法</p> <p>第13回：真菌の種と分類（3） 真菌における遺伝情報の活用</p> <p>第14回：原生生物の種と分類（1） 病原性原虫類</p> <p>第15回：原生生物の種と分類（2） その他の原虫</p> <p>第16回：ウイルスの種と分類（1） 感染性ウイルス</p> <p>第17回：ウイルスの種と分類（2） その他のウイルス</p> <p>第18回：微生物の栄養（1）独立栄養</p> <p>第19回：微生物の栄養（2）従属栄養</p> <p>第20回：微生物の生態（1）微生物の役割</p> <p>第21回：微生物の生態（2） 微生物生態学的手法と応用</p> <p>第22回：共生（1）細胞の成り立ち</p> <p>第23回：共生（2）共生の仕組み</p> <p>第24回：細菌の病原性（1） 食水媒介感染症</p> <p>第25回：細菌の病原性（2） その他の感染症</p> <p>第26回：真菌・原生生物の病原性（1） 真菌</p> <p>第27回：真菌・原生生物の病原性（2） 原生生物</p> <p>第28回：ウイルスの病原性（1） RNAウイルス</p> <p>第29回：ウイルスの病原性（2） DNAウイルス</p> <p>第30回：まとめ</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	食品学		
授業コード	M6495	授業科目	食品学演習		
担当者	長濱 統彦	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	食中毒を中心とした食に関わる微生物の多様性を理解し、その遺伝的多様性を解析する手法を学ぶ。学術論文を理解し、自ら執筆するための能力を培う。				
到達目標	食品に関わる微生物の多様性解析手法を理解し実践できるようになる				
成績評価基準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する				
留意事項					
教材	関連する学術論文を使用する				
授業予定	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学術論文とは</p> <p>第3回：学術論文の構成</p> <p>第4回：学術論文の英語</p> <p>第5回：学術論文の評価</p> <p>第6回：論文検索と収集・管理</p> <p>第7回：論文講読と発表（1）日本語論文</p> <p>第8回：論文講読と発表（2）日本語論文 その他</p> <p>第9回：論文講読と発表（3）原著論文</p> <p>第10回：論文講読と発表（4）原著論文 その他</p> <p>第11回：論文講読と発表（5）総説</p> <p>第12回：論文講読と発表（6）総説その他</p> <p>第13回：研究課題の検討（1）研究分野の 背景</p> <p>第14回：研究課題の検討（2）研究課題の 新規性</p> <p>第15回：食品微生物の多様性解析手法と 実験（1）サンプリングプラン</p> <p>第16回：食品微生物の多様性解析手法と 実験（2）サンプリング手法</p> <p>第17回：食品微生物の多様性解析手法と 実験（3）サンプル処理の手法</p> <p>第18回：食品微生物の多様性解析手法と 実験（4）サンプルの保存</p> <p>第19回：食品微生物の多様性解析手法と 実験（5）サンプルからの核酸 抽出</p> <p>第20回：食品微生物の多様性解析と考察 （1）核酸抽出法</p> <p>第21回：食品微生物の多様性解析と考察 （2）塩基配列決定法</p> <p>第22回：食品微生物の多様性解析と考察 （3）遺伝子の解析法（サンガー 法およびNGS）</p> <p>第23回：食品微生物の多様性解析と考察 （4）相同性解析</p> <p>第24回：食品微生物の多様性解析と考察 （5）系統解析</p> <p>第25回：食品微生物の多様性解析と考察 （6）解析のまとめ</p> <p>第26回：研究論文作成（1）方法</p> <p>第27回：研究論文作成（2）結果</p> <p>第28回：研究論文作成（3）考察</p> <p>第29回：研究論文作成（4）要約</p> <p>第30回：研究論文作成（5）発表</p>				

人間生活学研究科 食品栄養学専攻 修士課程		研究分野／領域	食品学		
授業コード	M6480	授 業 科 目	食品学演習		
担 当 者	吉金 優	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	食品の有する特性および機能性に関する研究課題を設定し、文献検索・抄読を行い、研究背景および研究手法を理解する。そして、研究計画立案、実験、データ解析、および考察を行い、研究論文の作成および発表を行う。				
到 達 目 標	学術論文や学術情報の収集および読解能力を養い、研究を計画、実施、考察することを通じて課題設定および課題解決できる。				
成 績 評 価 基 準	研究態度、実験、および研究論文内容から総合的に評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	国内外の学術論文を使用する。その他、関連資料を配布する。				
授 業 予 定	第 1 回：演習概論 第 2 回：学術論文の検索法 (1) 国内論文 第 3 回：学術論文の検索法 (2) 国外論文 第 4 回：学術論文の読解 (1) 国内論文 第 5 回：学術論文の読解 (2) 国外論文 第 6 回：文献発表と討論 (1) 国内論文 第 7 回：文献発表と討論 (2) 国外論文 第 8 回：研究課題設定にむけた討論 第 9 回：研究課題設定 第 10 回：研究計画の設定 第 11 回：研究方法の設定 第 12 回：統計手法の解析 (1) 統計解析、グラフの作成 第 12 回：統計手法の解析 (2) 検定 第 14 回：基礎科学的実験法の習得 (1) サンプリング、試料調製 第 15 回：基礎科学的実験法の習得 (2) 分光学的方法による定量分析 第 16 回：基礎科学的実験法の習得 (3) HPLC による定量分析 第 17 回：基礎科学的実験法の習得 (4) 食品機能分析 第 18 回：基礎科学的実験法の習得 (5) テクスチャー分析 第 19 回：基礎科学的実験法の習得 (6) 細胞、微生物培養法 第 20 回：食品科学実験法の習得 第 21 回：食品科学的データの収集 第 22 回：食品科学的データの解析 第 23 回：生化学的実験法の習得 第 24 回：生化学的データの収集 第 25 回：生化学的データの解析 第 26 回：研究論文の作成 (1) 方法 第 27 回：研究論文の作成 (2) 結果 第 28 回：研究論文の作成 (3) 考察 第 29 回：プレゼンテーション技法 第 30 回：プレゼンテーション				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	人間社会論		
授業コード	M7010	授 業 科 目	人間学特論		
担 当 者	崎川 修	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その人間論的、社会哲学的基盤を探求する。また、ケアが向かう社会的課題としての様々な暴力について考察し、その構造と論理を見つめながら、それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。				
到 達 目 標	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解した上で、人間社会における実践上の困難としての暴力に向き合う臨床哲学的視座を獲得すること。				
成 績 評 価 基 準	授業時の発表、レポートの内容及び授業態度などを総合して評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	参加者と相談の上決定する。				
授 業 予 定	<p>授業計画</p> <p>第1回：ケアの思想の問題領域について</p> <p>第2回：ケアの概念について</p> <p>第3回：現象としてのケア</p> <p>第4回：知覚と欲求</p> <p>第5回：意志と行為</p> <p>第6回：経験の構造</p> <p>第7回：参加者の発表と討論（ケアの本質）</p> <p>第8回：受苦の人間学</p> <p>第9回：ケアと宗教性</p> <p>第10回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）</p> <p>第11回：ケアと自己実現（メイヤロフ）</p> <p>第12回：ライフサイクルとケア（エリクソン）</p> <p>第13回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）</p> <p>第14回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）</p> <p>第15回：中間総括</p> <p>第16回：ケアの社会哲学的考察</p> <p>第17回：暴力の発生論</p> <p>第18回：親密圏における暴力</p> <p>第19回：公共圏における暴力</p> <p>第20回：構造としての暴力</p> <p>第21回：日常性と非日常性</p> <p>第22回：参加者の発表と討論（暴力の本質）</p> <p>第23回：排除と抑圧</p> <p>第24回：ホロコーストの論理</p> <p>第25回：トラウマの人間学</p> <p>第26回：脳科学とトラウマ</p> <p>第27回：身体から語りへ</p> <p>第28回：グリーフケアとナラティブ共同体</p> <p>第29回：参加者の発表と討論（ケアとナラティブ）</p> <p>第30回：総括</p>				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	人間社会論		
授業コード	M7030	授 業 科 目	女性学特論		
担 当 者	高木 孝子	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	欧米における女性学の研究成果を踏まえながら、現代社会における女性のキャリア形成や家族の変容等についてライフステージに沿って考察していきたい。				
到 達 目 標	女性学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究していきたい。				
成 績 評 価 基 準	授業の参加、発表態度等を総合的に判断する。				
留 意 事 項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。				
教 材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欧米における女性学の研究成果について 2. 女性のキャリア形成について 3. 家族の変容等ライフステージについて 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	人間社会論		
授業コード	M7100	授 業 科 目	社会福祉学特論 I		
担 当 者	杉山 博昭	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、近年の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係などを考察していく。				
到 達 目 標	日本社会福祉史における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を解明する。社会福祉の思想の持つ意味を理解する。社会福祉の構造を歴史的に把握する。				
成 績 評 価 基 準	期末レポート (50%)。授業態度・討論への参加状況 (50%)。				
留 意 事 項	事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおき、講義は討論を中心に行う。				
教 材	日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1 キリスト教社会事業史研究の意義 2 キリスト教と社会福祉の歴史的構造 3 キリシタンと慈善事業 4 近代初期のカトリック慈善 5 プロテスタント慈善事業の展開 6 初期キリスト教慈善事業の思想 7 キリスト教施設の展開 8 日清戦争後のキリスト教慈善事業 9 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教 10 植民地におけるキリスト教社会事業 11 大正デモクラシーとキリスト教社会事業 12 世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向 13 キリスト教の社会事業教育 14 戦時下のキリスト教社会事業 15 戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論 16 第二次大戦後のキリスト教社会事業 17 人権問題とキリスト教 18 高度成長期のキリスト教社会福祉 19 カトリック社会福祉の動向 20 社会活動・医療活動の動き 21 福祉改革期のキリスト教社会福祉 22 阪神・淡路大震災とキリスト教 23 各教派の歩みと福祉実践 (1) カトリック 24 各教派の歩みと福祉実践 (2) 長老派・組合派 25 各教派の歩みと福祉実践 (3) 聖公会・メソジスト 26 各教派の歩みと福祉実践 (4) バプテスト・その他 27 キリスト教団体と社会福祉 28 キリスト教社会福祉の養成教育 29 キリスト教社会福祉の課題と展望 30 まとめー少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	人間社会論		
授業コード	M7120	授業科目	社会福祉学特論Ⅱ		
担当者	八重樫 牧子	授業形態	講義		
期間	集中	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	少子化の進行、共働き家庭の一般化、家庭や地域社会の養育機能の低下など子どもを取り巻く環境の変化による子ども・家庭・地域の福祉問題を明らかにし、これらの問題を解決するために展開されている子育て・子育て支援の現状と課題について検討する。				
到達目標	わが国の子育て・子育て支援の現状と課題について理解する。				
成績評価基準	レポートにより評価する。				
留意事項	児童や子育て家庭に関わる問題（児童虐待、子育て不安など）に関する書籍や雑誌論文を収集し、文献研究を行うこと。				
教材	授業中に提示する。				
授業予定	1. 子どもや家庭を取り巻く環境の変化 2. 子ども・家庭・地域の福祉問題 3. 児童家庭福祉の理念 4. 児童家庭福祉の制度 5. 児童家庭福祉の実践 6. 児童家庭福祉の今後の課題 7. 児童家庭福祉の研究手法				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	人間社会論		
授業コード	M7160	授業科目	人間社会論演習		
担当者	杉山 博昭	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。格差・貧困、介護労働、ジェンダー、福祉国家、地域福祉など、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく。				
到達目標	文献を読みこなし、社会福祉をめぐる課題についての理解を深める。政策や実践について、主体的に議論していく。				
成績評価基準	発表態度・発表内容の総合的判断（50%）、年3回のレポート（50%）				
留意事項	発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなし、主体的に参加すること。				
教材	大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版 その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉原理論研究の意義と課題 2 格差・貧困問題と社会福祉 3 生存権と社会福祉 4 社会福祉の歴史認識 5 社会福祉史の具体的課題 6 社会福祉のソーシャルワーク 7 ソーシャルワーク論の変遷 8 ソーシャルワークの国際動向 9 社会福祉の政策・理論研究 10 戦後の社会福祉理論（1）岡村理論 11 戦後の社会福祉理論（2）孝橋理論 12 戦後の社会福祉理論（3）一番ヶ瀬・真田・高島理論 13 戦後の社会福祉理論（4）三浦理論 14 社会福祉の歴史研究 吉田久一の研究をめぐって 15 社会福祉の法体系 16 社会福祉と社会保障 17 福祉国家をめぐって 18 社会福祉実践の歴史的系譜 19 戦前における専門職性の到達点 20 戦後の社会福祉専門教育 21 国家資格化の意義と限界 22 社会福祉における介護労働 23 社会福祉とジェンダー 24 政策動向と社会福祉 25 新自由主義路線の社会福祉への影響 26 社会福祉経営 27 コミュニティと社会福祉 28 地域における福祉の創造 29 地域包括ケアシステム 30 少子高齢化のなかでの社会福祉の展望 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7270	授業科目	日本民俗学特論		
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と遍歴の交渉に注目し、遍歴宗教者と、定住民の一時的遍歴としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。				
到達目標	日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の立脚点を理解し、あわせて日本の伝統的社会のしくみとその宗教・知識のあり方に対する理解を深める。				
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する。 (授業中の発表の評価を加味する)				
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。				
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授業予定	1. 民俗および民俗宗教という概念 2. 遍歴者と定住社会 3. 遍歴宗教者の組織と活動 4. 巡礼という宗教 5. 伝承・俗信——民俗社会の知識				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7280	授業科目	比較文化特論		
担当者	紺谷 亮一	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	主に西アジアの文化について、その特異性と普遍性について解き明かす。異文化理解の方向性について考える。題材としては現代を含めた歴史性の中で取り上げていく。				
到達目標	比較文明論について、ある程度説明できるようにする。				
成績評価基準	口頭発表、レポート等で評価する。				
留意事項					
教材	テキスト、ビデオ等				
授業予定	1. 西アジアの風土 2. 西アジアの宗教 3. 西アジアの民族 4. 西アジアの食生活 5. 西アジアの今 以上を柱に授業を遂行する。				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7290	授 業 科 目	家族・社会構造特論		
担 当 者	山下 美紀	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	本講義では、まず家族研究の基礎となる理論、分析方法、学説史などの基本を学ぶ。つぎに、古典的な家族論から家族社会学分野の最新の研究成果を取り上げ、輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族研究の基礎知識を身に付ける ・ 家族にかかわる諸現象を社会構造の変動と関連付けて、体系的・歴史的な枠組みに沿って理解できる ・ 社会学的なものの見方、課題発見能力、社会学的想像力を身に付ける 				
成 績 評 価 基 準	上記に掲げた目標の到達度について、平常点（出席・発表・発言）と、期末に求めるレポートにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	適宜、文献・論文をを紹介し、プリント・資料を配布する				
授 業 予 定	<p>1. イントロダクション（家族研究への招待）</p> <p>2～10. 家族研究の基礎知識</p> <p>家族の歴史</p> <p>家族の構造と機能</p> <p>婚姻の成立</p> <p>家族・同族・親族</p> <p>家族問題</p> <p>家族観の系譜</p> <p>11～20. 家族史と古典的家族論</p> <p>パーソンズ・・家族 - 核家族と子どもの社会化</p> <p>アリエス・・子供の誕生 - アンシャンレジーム期の子供と家族生活</p> <p>マリノウスキー・・性・家族・社会</p> <p>ラドクリフ＝ブラウン・・未開社会における構造と機能</p> <p>マードック・・社会構造 - 核家族の社会人類学</p> <p>戸田貞三・・家族構成</p> <p>有賀喜左衛門・・家</p> <p>21～30. 近年の家族研究</p> <p>カンター&レアー・・家族の内側 - 家族システム理論入門</p> <p>ドンズロ・・家族に介入する社会</p> <p>渡邊秀樹他編・・現代家族の構造と変容</p> <p>日本家政学会編・・現代家族を読み解く 12 章</p> <p>『家族社会学』掲載論文などを使用</p>				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7300	授 業 科 目	食生活文化論特論		
担 当 者	清水 純一	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>第1期（第1回～第15回）は、主として石毛直道によって確立された食文化研究の方法論に依拠し、「食」のモノとしての消費からココロ（＝人間）の豊かさを求める消費への移行に伴い成立した「食文化」の多様な側面に焦点を当て、比較食文化論の立場から考察する。</p> <p>第2期（第16回～第30回）は、主として日本の高度経済成長以後を対象にし、社会・経済構造の変化による食料消費の変化が、食生活に与えた影響を経済学の立場から分析する。</p>				
到 達 目 標	人文科学、社会科学の両面から食生活・食文化を分析する学際的アプローチを可能にする、思考能力、方法論を獲得する。				
成 績 評 価 基 準	授業の理解度と応用能力を発表および期末レポートによって評価する。				
留 意 事 項	与えられた課題を報告する一部演習形式も取り入れる。また、フィールドワークを実施する場合もある。				
教 材	参考文献は授業中に指示する。また、適宜プリントを配布する。				
授 業 予 定	<p>第1回：比較食文化論の領域</p> <p>第2回：15世紀以前の世界の様々な食類型（主食・牧畜・調味料）</p> <p>第3回：新大陸「発見」が人類の食類型に及ぼした変容</p> <p>第4回：柳田國男の民俗学と食文化（ハレとケの食事と年中行事）</p> <p>第5回：世界の3大食法の変遷</p> <p>第6回：食の思想の違い（中国・西欧・日本）</p> <p>第7回：世界の供給食の違い（中国料理と西洋料理）</p> <p>第8回：日本の供給食の形態の変化（大饗料理から会席料理まで）</p> <p>第9回：台所空間の変化と食生活</p> <p>第10回：異文化の食べ物の理解（「食の忌避」に関する飽戸弘の研究）</p> <p>第11回：宗教と食べ物（食のタブー）</p> <p>第12回：日本人とコメ</p> <p>第13回：肉食の思想（西欧と日本）</p> <p>第14回：日本人と牛乳・乳製品</p> <p>第15回：ケース・スタディー（多民族国家ブラジルにみる食文化の有り様）</p> <p>第16回：マルサスの飢餓の検証（人口増加と食料生産・分配）</p> <p>第17回：エンゲル法則の国際比較</p> <p>第18回：フードシステムの全体像</p> <p>第19回：経済成長と食料消費の成熟過程の概念図（成長曲線のアナロジー）</p> <p>第20回：人口・世帯構成の変化と食料消費</p> <p>第21回：女性の社会進出と食生活の変化（M字カーブの変化と食の簡便化）</p> <p>第22回：情報機器の発達と食文化の伝承（レシピの伝承形態）</p> <p>第23回：生活時間の変化と食生活</p> <p>第24回：食品工業の現状</p> <p>第25回：食料消費の変化が食品工業に及ぼした変化</p> <p>第26回：ライフスタイルの変化と食品小売業（コンビニエンスストアを中心に）</p> <p>第27回：テクノロジーの変化と食生活（冷凍食品・コールドチェーン・電子レンジ）</p> <p>第28回：フードシステムと環境問題（食品廃棄物・食の安全）</p> <p>第29回：食料自給率と食料自給力</p> <p>第30回：買物難民問題にみる食を巡る問題</p>				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活経営論		
授業コード	M7400	授 業 科 目	生活経営学特論		
担 当 者	豊田 尚吾	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>生活者がウェルビーイング（よい生活）を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践や基礎となる経済学を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。</p> <p>さらに人間生活を経営・経済の観点から見る新しい試みとして消費者行動論、行動経済学を取り上げ、生活経営の広がりについても学習する。</p>				
到 達 目 標	<p>上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>授業への取り組み姿勢・発表・報告（40％）と、課題レポート（60％）により、判断する。</p>				
留 意 事 項	<p>履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。</p>				
教 材	<p>テーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。</p>				
授 業 予 定	<p>第 1 回 生活経営とは（講義概要を含む） 第 2 回 生活を取り巻く環境変化（少子高齢社会、環境問題など） 第 3 回 ライフプランニング（生活設計） 第 4 回 生活経営と企業経営（類似と相違） 第 5 回 経営戦略論 第 6 回 マーケティング戦略論（1）STP 第 7 回 マーケティング戦略論（2）4P 第 8 回 ブランド戦略 第 9 回 ケーススタディ 第 10 回 生活に生かす企業経営 第 11 回 生活資産のマネジメント 第 12 回 各種制度と地域社会へのかかわり 第 13 回 消費者問題と消費者市民社会 第 14 回 ソーシャルデザインと倫理的消費 第 15 回 ミクロ経済学とマクロ経済学 第 16 回 家計消費の構造分析 第 17 回 市場メカニズムの機能と理論 第 18 回 雇用、賃金とキャリア論 第 19 回 政府・企業・NPO の活動と役割 第 20 回 財政・金融政策 第 21 回 グローバル経済と地域経済 第 22 回 サステイナブルな社会とは 第 23 回 生活経済学を生活経営に生かす 第 24 回 ウェルビーイングと主観的幸福感 第 25 回 消費者行動の基本モデル 第 26 回 生活者のアノマリー 第 27 回 行動経済学で生活経営を考える 第 28 回 進化心理学とウェルビーイングの実現 第 29 回 未来を創る地域づくり 第 30 回 まとめ・総括 ※「試験」は含みません</p>				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活経営論		
授業コード	M7440	授 業 科 目	家族関係学特論		
担 当 者	加藤 正春	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	人間生活の基本単位としての家族について、家族関係学、社会学、民俗学、文化人類学等の視角から検討する。講義では、家族関係学および家族研究の学説史を説くとともに、家族の多様性とその歴史の変容について具体的に論ずる。日本社会の変容と家族関係のあり方について考究する。				
到 達 目 標	家族内の人間関係の構造的特質について理解すること、そのような特質が社会構造の変化によってどのように変容してきたかについて理解することを目標とする。				
成 績 評 価 基 準	レポート (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)				
留 意 事 項	一部、演習形式も取り入れる。				
教 材	講義のなかで指示する。必要な資料を配布する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族関係学の基礎概念 2. ライフサイクルと家族 3. 現代と家族関係の変容 4. 核家族論の基礎概念 5. 核家族のライフサイクル 6. 直系家族論の基礎概念 7. 直系家族の多様性 8. 現代の直系家族 9. 合同家族論 10. 婚姻と家族 11. 離婚と再婚 12. シングル家族論 13. 複雑家族論 14. 家族の変容 15. まとめ 16. 中間テスト 17. 日本の家族関係学 18. 家族研究と家族関係学 19. 家族研究と社会学 20. 家族研究と文化人類学 21. 家族研究と日本民俗学 22. 戦後核家族論の展開 23. 戦後核家族の実際 24. 妊娠と出産の現代的変容 25. 出産と父親 26. 団塊の世代の家族論 27. 団塊の世代の家族観 28. 戦後家族と墓 29. 墓制の多様性 30. 無縁と祭祀継承 31. まとめ 32. 期末テスト 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活経営論				
授業コード	M7460	授 業 科 目	消費経済学特論				
担 当 者	葉口 英子	授 業 形 態	講義				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II		
授 業 概 要	<p>私たちは、ありとあらゆる財・サービスに囲まれて生活をしています。そんな中で、私たち消費者はどのように財やサービスを選択しているのでしょうか。消費者とは何か、消費者の最適な消費行動など、経済理論の基礎知識からより身近な問題までを取り上げ解説します。行動経済学の視点から、消費者行動について考えを深めます。</p>						
到 達 目 標	<p>経済とは何か。人々はどのようにして、消費、貯蓄、投資といった経済行動の意思決定を行うのかを理論的、実践的な学びを目標とします。</p>						
成 績 評 価 基 準	<p>試験とレポートの両方で評価します。 具体的には、レポート（50%）、期末試験（50%）の総合評価とします。</p>						
留 意 事 項	<p>予習・復習ともに1時間以上行うことが望ましいです。</p>						
教 材	<p>嶋村紘輝、酒井徹（著）「経済と消費者（入門 消費経済学1）」慶應義塾大学出版会 2009年 青木幸弘、新倉貴志、佐々木壮太郎、松下光司（著）「消費者行動論」有斐閣 2012年 多田洋介（著）「行動経済学入門」日経文庫 2014年 田中洋（著）「消費者行動論」中央経済社 2015年</p>						
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>[前期] 基礎経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会と消費者の活動 2. 市場経済体制 3. 需要と供給の法則 4. 消費者の利益 5. 消費者とは何か 6. 消費者の予算制約 7. 消費者の選好と無差別曲線 8. 最適な消費決定 9. 市場価格と消費 10. 代替効果と所得効果 11. 消費者の需要曲線 12. 需要の価格弾力性 13. 需要の交差弾力性 14. 所得と消費 15. ライフサイクル仮説と恒常所得仮説 </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>[後期] 行動経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動経済学とは何か 2. 人間はどこまで合理的か？ 3. 意思決定と時間割引率の関係 4. 消費行動と購買行動 5. コモディティ商品に対する消費者心理 6. 高商品における消費者心理 7. 消費者心理に対する総称ブランドの活用 8. 消費者行動とマーケティング 9. 消費者行動の分析フレーム 10. 購買意思決定の分析 11. 情報と消費者の活動 12. 完全競争市場と不完全情報の市場 13. 逆選択とその解決策 14. モラルハザードとその解決策 15. 情報化時代の消費者行動 </td> </tr> </table>					<p>[前期] 基礎経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会と消費者の活動 2. 市場経済体制 3. 需要と供給の法則 4. 消費者の利益 5. 消費者とは何か 6. 消費者の予算制約 7. 消費者の選好と無差別曲線 8. 最適な消費決定 9. 市場価格と消費 10. 代替効果と所得効果 11. 消費者の需要曲線 12. 需要の価格弾力性 13. 需要の交差弾力性 14. 所得と消費 15. ライフサイクル仮説と恒常所得仮説 	<p>[後期] 行動経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動経済学とは何か 2. 人間はどこまで合理的か？ 3. 意思決定と時間割引率の関係 4. 消費行動と購買行動 5. コモディティ商品に対する消費者心理 6. 高商品における消費者心理 7. 消費者心理に対する総称ブランドの活用 8. 消費者行動とマーケティング 9. 消費者行動の分析フレーム 10. 購買意思決定の分析 11. 情報と消費者の活動 12. 完全競争市場と不完全情報の市場 13. 逆選択とその解決策 14. モラルハザードとその解決策 15. 情報化時代の消費者行動
<p>[前期] 基礎経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会と消費者の活動 2. 市場経済体制 3. 需要と供給の法則 4. 消費者の利益 5. 消費者とは何か 6. 消費者の予算制約 7. 消費者の選好と無差別曲線 8. 最適な消費決定 9. 市場価格と消費 10. 代替効果と所得効果 11. 消費者の需要曲線 12. 需要の価格弾力性 13. 需要の交差弾力性 14. 所得と消費 15. ライフサイクル仮説と恒常所得仮説 	<p>[後期] 行動経済学視点から考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動経済学とは何か 2. 人間はどこまで合理的か？ 3. 意思決定と時間割引率の関係 4. 消費行動と購買行動 5. コモディティ商品に対する消費者心理 6. 高商品における消費者心理 7. 消費者心理に対する総称ブランドの活用 8. 消費者行動とマーケティング 9. 消費者行動の分析フレーム 10. 購買意思決定の分析 11. 情報と消費者の活動 12. 完全競争市場と不完全情報の市場 13. 逆選択とその解決策 14. モラルハザードとその解決策 15. 情報化時代の消費者行動 						

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活経営論		
授業コード	M7470	授業科目	生活情報処理特論		
担当者	水野 博	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	収集した統計データの解析とその解釈について、統計解析の基礎的事項から実際までを学修する。また、蓄積された大量の各種データをどのように整理し、活用するかというデータベースの利用方法についても述べる。				
到達目標	統計解析の様々な手法の原理を理解し、統計ソフトでどのように実行するかを修得すること。				
成績評価基準	毎回の課題と最終のレポートで理解状況を見る。				
留意事項	統計ソフトは SPSS を使う。統計解析の原理を理解することが大切である。				
教材	毎回印刷物を配付する。これは「社会統計学」（ボーンシュテット・ノーキ著、ハーベスト社）に基づいている。				
授業予定	原則として、毎回1つの解析法について述べていく予定である。				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活経営論		
授業コード	M7490	授 業 科 目	生活経営論演習		
担 当 者	豊田 尚吾	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会および人間生活を観察し、社会課題を取りあげたうえで、それを調査、分析、提案（発表を含む）する力を養う。				
到 達 目 標	経済学、経営学的方法論の習得と、関連知識の獲得。データの解析にも取り組み、本分野に求められる研究能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	授業中の発表内容・姿勢（50%）、中間レポート（25%）、期末レポート（25%）				
留 意 事 項	自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。				
教 材	検索資料、文献など。 （参考書）『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社） 『マクロ経済学』齊藤 誠 他（有斐閣）				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活経営論（概論） 2. ミクロ経済学 3. マクロ経済学 4. 金融論 5. 財政学・経済政策論 6. 研究課題報告（1）RQの明確化 7. 研究課題報告（2）factの確認 8. 研究課題報告（3）既存研究のレビュー 9. 研究課題報告（4）データの解析 10. 労働経済学 11. 消費者行動論 12. 行動経済学 13. 課題研究（1）論文構造の確定 14. 課題研究（2）独自性の明確化 15. 課題研究（3）中間報告 16. 研究の方向性再確認 17. 発展研究（1）改善策 18. 発展研究（2）取り組みの方向性明確化 19. 経営学の基本 20. マーケティング論 21. 新しいマーケティング論 22. 消費者行動論 23. 発展課題研究（1）論文構造の確定 24. 発展課題研究（2）データ分析（基礎統計） 25. 発展課題研究（3）データ分析その（多変量解析） 26. 幸福の経済学 27. 新時代の経済を考える 28. 新時代の人間生活を考える 29. 最終報告（プレゼンテーション） 30. 総括 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活環境論		
授業コード	M7600	授業科目	生活環境学特論		
担当者	小川 賢一	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	地球環境と地域環境の視点から自然（動植物等）や文化、ライフスタイルを見直し、新しいまちづくり、および生活環境づくりを考察する。				
到達目標	既存の概念にとらわれず、基礎知識をもとに広い視野とバランスのとれた考えを身につけること。				
成績評価基準	受講姿勢および課題（レポート等）から総合的に評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	参考文献・資料を適宜紹介ないし配布する。				
授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・自然とのつきあい ・地域と地域環境 ・地域と文化 ・鎮守の森、信仰樹 ・緑化 ・地域と景観 ・新しいまちづくり ・地域とエネルギー ・新エネルギー利用 ・地産地消 ・衣、食、住、水、ごみとのつきあい方 				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活環境論		
授業コード	M7640	授業科目	住環境特論		
担当者	上田 恭嗣	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	人が生活する上で大切な住環境・都市環境について講述する。都市化・高機能化・超高齢化・少子化・景観・まちづくり等のキーワードをもとに、これからの日本に求められる住環境を探求する。				
到達目標	21世紀の住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。				
成績評価基準	講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。				
留意事項	テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。				
教材	テーマごとに適宜、紹介・推薦する。				
授業予定	日本における住環境形成史・都市史・近代以降の住まい方論・日本の都市計画・都市環境形成のあり方・都市の形成・まちづくりの歴史・歴史的町並み形成・住環境形成の展望				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活環境論		
授業コード	M7660	授業科目	食環境特論		
担当者	小林 謙一	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	食環境の変容とメタボリックシンドロームとの関連性について論ずるとともに、「食」によるメタボリックシンドロームの予防・改善が可能かどうかについて考察する。				
到達目標	生活習慣に起因する疾患の予防・改善に関する方策を、食生活の観点から提言できる能力を身につける。				
成績評価基準	受講態度、論文読解、課題発表、課題レポートを総合的に評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	国内外の学術論文を教材とする。				
授業予定	1～5 メタボリックシンドロームと食生活 6～10 肥満と食生活 11～15 糖尿病と食生活 16～20 ガンと食生活 21～25 慢性腎臓病と食生活 26～30 疾患予防・改善のための食生活				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活環境論		
授業コード	M7670	授業科目	生活環境論演習		
担当者	小川 賢一	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	自然・生き物との共生共存を基盤とした生活環境を構築するための研究を行う。				
到達目標	生活環境をよりよいものにするため、積極的に問題に取り組める能力の形成				
成績評価基準	受講姿勢、研究論文等から総合的に評価				
留意事項	特になし。				
教材	適宜指導するが、自ら著書・原著論文等の文献・資料を収集する。				
授業予定	・研究テーマの選定 ・研究内容の企画 ・文献調査、情報収集、実態調査等 ・論文構成の企画と実施 ・考察				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活環境論		
授業コード	M7680	授業科目	生活環境論演習		
担当者	上田 恭嗣	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	人と住まいの生活環境，そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として，快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。また，日本の伝統的な住環境・住まい方等について，歴史・風土・建築技術等の面からも考究する。				
到達目標	これからの生活環境の在り方について，持論を展開できる能力を身につける。				
成績評価基準	演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。				
留意事項	各自のテーマについて十分な考察を行い，その結果をとりまとめ発表する。				
教材	テーマ毎に適宜，作成したものを配布する。 テーマ毎に適宜，紹介・推薦する。				
授業予定	第1回：研究テーマの設定 第2回：研究方法の検討－I 第3回：研究方法の検討－II 第4回：文献報告 第5回：文献報告 第6回：関連資料等の報告 第7回：関連資料等の報告 第8回：生活環境に関する考察－I 第9回：生活環境に関する考察－II 第10回：都市環境に関する考察－I 第11回：都市環境に関する考察－II 第12回：文献報告 第13回：他研究内容の比較検討報告－I 第14回：他研究内容の比較検討報告－II 第15回：研究テーマの展開方法の検討 第16回：伝統的住まいに関する考察 第17回：伝統的住まいに関する評価 第18回：建築技術等に関する考察 第19回：伝統的住環境づくりに関する考察 第20回：伝統的生活環境に関する検討報告－I 第21回：伝統的生活環境に関する検討報告－II 第22回：生活環境に関する検討報告－I 第23回：生活環境に関する検討報告－II 第24回：論のとりまとめ・報告－I 第25回：論のとりまとめ・報告－II 第26回：住環境に関する提案検討－I 第27回：住環境に関する提案検討－II 第28回：住環境づくりのとりまとめ・報告I 第29回：住環境づくりのとりまとめ・報告II 第30回：総括 定期試験				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論																																		
授業コード	H2000	授 業 科 目	環境行動心理論																																		
担 当 者	石原 金由	授 業 形 態	講義（演習を含む）																																		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III																																
授 業 概 要	生活を取り巻く時間的，物理的，社会的環境は，ヒトの行動や心理状態を規定する大きな要因である．これらの因果関係を解明するために，清心生理学・生理心理学の観点から降級する．とくに本授業では，子どもの睡眠と健康について考えていく．子どもを対象とした文献講読を中心に進める．																																				
到 達 目 標	子どもの睡眠発達と環境（社会，家庭，光）との関連を追究する．																																				
成 績 評 価 基 準	レポート																																				
留 意 事 項	なし																																				
教 材	なし																																				
授 業 予 定	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 睡眠の基礎 1</td> <td style="width: 50%;">第2回 睡眠の基礎 2</td> </tr> <tr> <td>第3回 子どもの睡眠発達 1</td> <td>第4回 子どもの睡眠発達 2</td> </tr> <tr> <td>第5回 文献講読 1</td> <td>第6回 文献講読 2</td> </tr> <tr> <td>第7回 文献講読 3</td> <td>第8回 文献講読 4</td> </tr> <tr> <td>第9回 文献講読 5</td> <td>第10回 文献講読 6</td> </tr> <tr> <td>第11回 文献講読 7</td> <td>第12回 文献講読 8</td> </tr> <tr> <td>第13回 文献講読 9</td> <td>第14回 文献講読 10</td> </tr> <tr> <td>第15回 文献講読 11</td> <td>第16回 文献講読 12</td> </tr> <tr> <td>第17回 文献講読 13</td> <td>第18回 文献講読 14</td> </tr> <tr> <td>第19回 文献講読 15</td> <td>第20回 文献講読 16</td> </tr> <tr> <td>第21回 まとめと課題 1</td> <td>第22回 まとめと課題 2</td> </tr> <tr> <td>第23回 文献講読 17</td> <td>第24回 文献講読 18</td> </tr> <tr> <td>第25回 文献講読 19</td> <td>第26回 文献講読 20</td> </tr> <tr> <td>第27回 文献講読 21</td> <td>第28回 文献講読 22</td> </tr> <tr> <td>第29回 文献講読 23</td> <td>第30回 模擬研究計画立案 1</td> </tr> <tr> <td>第31回 模擬研究計画立案 2</td> <td>第32回 レポート</td> </tr> </table>					第1回 睡眠の基礎 1	第2回 睡眠の基礎 2	第3回 子どもの睡眠発達 1	第4回 子どもの睡眠発達 2	第5回 文献講読 1	第6回 文献講読 2	第7回 文献講読 3	第8回 文献講読 4	第9回 文献講読 5	第10回 文献講読 6	第11回 文献講読 7	第12回 文献講読 8	第13回 文献講読 9	第14回 文献講読 10	第15回 文献講読 11	第16回 文献講読 12	第17回 文献講読 13	第18回 文献講読 14	第19回 文献講読 15	第20回 文献講読 16	第21回 まとめと課題 1	第22回 まとめと課題 2	第23回 文献講読 17	第24回 文献講読 18	第25回 文献講読 19	第26回 文献講読 20	第27回 文献講読 21	第28回 文献講読 22	第29回 文献講読 23	第30回 模擬研究計画立案 1	第31回 模擬研究計画立案 2	第32回 レポート
第1回 睡眠の基礎 1	第2回 睡眠の基礎 2																																				
第3回 子どもの睡眠発達 1	第4回 子どもの睡眠発達 2																																				
第5回 文献講読 1	第6回 文献講読 2																																				
第7回 文献講読 3	第8回 文献講読 4																																				
第9回 文献講読 5	第10回 文献講読 6																																				
第11回 文献講読 7	第12回 文献講読 8																																				
第13回 文献講読 9	第14回 文献講読 10																																				
第15回 文献講読 11	第16回 文献講読 12																																				
第17回 文献講読 13	第18回 文献講読 14																																				
第19回 文献講読 15	第20回 文献講読 16																																				
第21回 まとめと課題 1	第22回 まとめと課題 2																																				
第23回 文献講読 17	第24回 文献講読 18																																				
第25回 文献講読 19	第26回 文献講読 20																																				
第27回 文献講読 21	第28回 文献講読 22																																				
第29回 文献講読 23	第30回 模擬研究計画立案 1																																				
第31回 模擬研究計画立案 2	第32回 レポート																																				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論		
授業コード	H2011	授 業 科 目	発達心理論		
担 当 者	湯澤 美紀	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	人間の生涯発達のプロセスを、人類の歴史・発生のメカニズムを踏まえた上で、認知・自己理解・社会性・情動の観点から明らかにするとともに、人間が生涯にわたって成長し続ける存在であることのアリティを物語とナラティブをベースに紐解いていく。また、発達心理学の限界を知り、今後の研究の発展について考察を深める。				
到 達 目 標	人間の生涯発達のプロセスを多面的にとらえ、自らの言葉で説明できる。				
成 績 評 価 基 準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断して評価する。 レポート70% 発表内容30%				
留 意 事 項	特になし				
教 材	随時指示をする				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の進化のプロセスをたどる① 2. 人類の進化のプロセスをたどる② 3. 人間の発生のメカニズムを学ぶ① 4. 人間の発生のメカニズムを学ぶ② 5. 生涯発達理論を学ぶ－諸発達理論を中心に① 6. 生涯発達理論を学ぶ－諸発達理論を中心に② 7. 生涯発達理論を学ぶ－「発達」と「育ち」の議論を中心に③ 8. 生涯発達理論を学ぶ－「発達」と「育ち」の議論を中心に④ 9. 認知発達の基盤－胎児期と新生児期 10. 認知発達の基盤－乳児期 11. 認知発達の基盤－児童期 12. 認知発達の基盤－中年期 13. 認知発達の基盤－高齢期 14. 自己の発見と自己理解－乳児期 15. 自己の発見と自己理解－幼児期 16. 自己の発見と自己理解－児童期 17. 自己の発見と自己理解－青年期 18. 自己の発見と自己理解－中年期 19. 自己の発見と自己理解－高齢期 20. 関係性の発達－親子 21. 関係性の発達－親密な他者 22. 関係性の発達－社会的ネットワーク 23. 物語から学ぶ－心の発見のプロセス 24. 物語から学ぶ－自己の生成のプロセス 25. 物語から学ぶ－他者の発見のプロセス 26. 物語から学ぶ－自己の再生のプロセス 27. 物語から学ぶ－自己の受容のプロセス 28. 自己を語る－ライフストーリー 29. わたしたちを語る－ナラティブ 30. 授業のまとめ－発達心理学の限界と今後の可能性 				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論				
授業コード	H2020	授 業 科 目	心理学研究法論				
担 当 者	日下 紀子	授 業 形 態	講義（演習を含む）				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III		
授 業 概 要	人間の営みや行動は総じて心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法について考究する。						
到 達 目 標	人間行動や社会現象の中に潜む心理的要因を心理学的概念に着床させ、論理的にとらえることができる力の養成を目指す。						
成 績 評 価 基 準	<ul style="list-style-type: none"> ・文献購読における理解度 ・問題意識を調査・研究方法として具現化する力 以上により評価する。						
留 意 事 項	特になし						
教 材	選ばれるテーマに関する書籍・文献・データその他を随時検索し読みこなしていく						
授 業 予 定	<p>学生との勤務時間などを勘案し相談の上、個別もしくは複数でおこなう。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 研究テーマの探索 第2回 研究テーマの発見 第3回 関連する文献検索 第4回 関連する文献詳読 第5回 問題提起 第6回 調査・研究法の探索 第7回 調査・研究法の計画 第8回 調査・研究法の試行 第9回 調査・研究法の結果 第10回 調査・研究法の結果検討 第11回 調査・研究法の考察 第12回 調査・研究の中間発表 第13回 調査・研究の検討 第14回 調査・研究の推敲 第15回 調査・研究のまとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第16回 研究テーマのさらなる追究 第17回 関連する文献検索 第18回 関連する文献詳読 第19回 文献レビュー 第20回 問題の再提起 第21回 調査・研究の探索 第22回 調査・研究の計画 第23回 調査・研究の施行 第24回 調査・研究の結果 第25回 調査・研究の結果検討 第26回 調査・研究の考察 第27回 調査・研究の総合考察 第28回 調査・研究の現時点の限界 第29回 調査・研究の今後の展望 第30回 調査・研究の発表 試験 </td> </tr> </table>					第1回 研究テーマの探索 第2回 研究テーマの発見 第3回 関連する文献検索 第4回 関連する文献詳読 第5回 問題提起 第6回 調査・研究法の探索 第7回 調査・研究法の計画 第8回 調査・研究法の試行 第9回 調査・研究法の結果 第10回 調査・研究法の結果検討 第11回 調査・研究法の考察 第12回 調査・研究の中間発表 第13回 調査・研究の検討 第14回 調査・研究の推敲 第15回 調査・研究のまとめ	第16回 研究テーマのさらなる追究 第17回 関連する文献検索 第18回 関連する文献詳読 第19回 文献レビュー 第20回 問題の再提起 第21回 調査・研究の探索 第22回 調査・研究の計画 第23回 調査・研究の施行 第24回 調査・研究の結果 第25回 調査・研究の結果検討 第26回 調査・研究の考察 第27回 調査・研究の総合考察 第28回 調査・研究の現時点の限界 第29回 調査・研究の今後の展望 第30回 調査・研究の発表 試験
第1回 研究テーマの探索 第2回 研究テーマの発見 第3回 関連する文献検索 第4回 関連する文献詳読 第5回 問題提起 第6回 調査・研究法の探索 第7回 調査・研究法の計画 第8回 調査・研究法の試行 第9回 調査・研究法の結果 第10回 調査・研究法の結果検討 第11回 調査・研究法の考察 第12回 調査・研究の中間発表 第13回 調査・研究の検討 第14回 調査・研究の推敲 第15回 調査・研究のまとめ	第16回 研究テーマのさらなる追究 第17回 関連する文献検索 第18回 関連する文献詳読 第19回 文献レビュー 第20回 問題の再提起 第21回 調査・研究の探索 第22回 調査・研究の計画 第23回 調査・研究の施行 第24回 調査・研究の結果 第25回 調査・研究の結果検討 第26回 調査・研究の考察 第27回 調査・研究の総合考察 第28回 調査・研究の現時点の限界 第29回 調査・研究の今後の展望 第30回 調査・研究の発表 試験						

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論																																		
授業コード	H2030	授業科目	臨床心理論																																		
担当者	平松 清志	授業形態	講義																																		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III																																
授業概要	現代社会は、自然科学の発展によって、かつてないほどの進歩を遂げている。しかし、その反面、人間的な触れ合いの機会が少なくなり、人間関係の疎外も言われている。この現状をどのように理解し、どのように対応したらよいのか、臨床心理学の観点から考える。																																				
到達目標	科学の知と臨床の知の対比によって、臨床心理学の視点を理解する。																																				
成績評価基準	複数のレポートによって、総合的に評価する。																																				
留意事項	受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。																																				
教材	必要に応じて、指示する。																																				
授業予定	<table border="0"> <tr> <td>第1回：臨床心理学とは</td> <td>第16回：心のモデル（意識と無意識）</td> </tr> <tr> <td>第2回：臨床心理学の歴史</td> <td>第17回：自我防衛機制</td> </tr> <tr> <td>第3回：科学の知と臨床の知（中村）</td> <td>第18回：自我強度と防衛</td> </tr> <tr> <td>第4回：人間の科学（河合）</td> <td>第19回：精神病圏の理解</td> </tr> <tr> <td>第5回：人間の心理的变化</td> <td>第20回：神経症圏の理解</td> </tr> <tr> <td>第6回：人間の心理的成長</td> <td>第21回：心身症圏の理解</td> </tr> <tr> <td>第7回：発達課題と不適応行動</td> <td>第22回：情緒的（心理的）混乱の理解</td> </tr> <tr> <td>第8回：分離个体化過程</td> <td>第23回：来談者中心療法</td> </tr> <tr> <td>第9回：対象関係論的発達観</td> <td>第24回：精神分析的な心理療法</td> </tr> <tr> <td>第10回：行動科学的人間観</td> <td>第25回：ユング分析心理学</td> </tr> <tr> <td>第11回：ロジャーズの人間観</td> <td>第26回：行動療法・認知行動療法</td> </tr> <tr> <td>第12回：フロイト的人間観</td> <td>第27回：母性社会日本の病理（河合）</td> </tr> <tr> <td>第13回：ユングの自己実現の過程</td> <td>第28回：日本社会の中空構造論（河合）</td> </tr> <tr> <td>第14回：問題行動の意味</td> <td>第29回：個の倫理と場の倫理（河合）</td> </tr> <tr> <td>第15回：創造の病</td> <td>第30回：ノーマルとは何か</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第31回：定期試験（レポート）</td> </tr> </table>					第1回：臨床心理学とは	第16回：心のモデル（意識と無意識）	第2回：臨床心理学の歴史	第17回：自我防衛機制	第3回：科学の知と臨床の知（中村）	第18回：自我強度と防衛	第4回：人間の科学（河合）	第19回：精神病圏の理解	第5回：人間の心理的变化	第20回：神経症圏の理解	第6回：人間の心理的成長	第21回：心身症圏の理解	第7回：発達課題と不適応行動	第22回：情緒的（心理的）混乱の理解	第8回：分離个体化過程	第23回：来談者中心療法	第9回：対象関係論的発達観	第24回：精神分析的な心理療法	第10回：行動科学的人間観	第25回：ユング分析心理学	第11回：ロジャーズの人間観	第26回：行動療法・認知行動療法	第12回：フロイト的人間観	第27回：母性社会日本の病理（河合）	第13回：ユングの自己実現の過程	第28回：日本社会の中空構造論（河合）	第14回：問題行動の意味	第29回：個の倫理と場の倫理（河合）	第15回：創造の病	第30回：ノーマルとは何か		第31回：定期試験（レポート）
第1回：臨床心理学とは	第16回：心のモデル（意識と無意識）																																				
第2回：臨床心理学の歴史	第17回：自我防衛機制																																				
第3回：科学の知と臨床の知（中村）	第18回：自我強度と防衛																																				
第4回：人間の科学（河合）	第19回：精神病圏の理解																																				
第5回：人間の心理的变化	第20回：神経症圏の理解																																				
第6回：人間の心理的成長	第21回：心身症圏の理解																																				
第7回：発達課題と不適応行動	第22回：情緒的（心理的）混乱の理解																																				
第8回：分離个体化過程	第23回：来談者中心療法																																				
第9回：対象関係論的発達観	第24回：精神分析的な心理療法																																				
第10回：行動科学的人間観	第25回：ユング分析心理学																																				
第11回：ロジャーズの人間観	第26回：行動療法・認知行動療法																																				
第12回：フロイト的人間観	第27回：母性社会日本の病理（河合）																																				
第13回：ユングの自己実現の過程	第28回：日本社会の中空構造論（河合）																																				
第14回：問題行動の意味	第29回：個の倫理と場の倫理（河合）																																				
第15回：創造の病	第30回：ノーマルとは何か																																				
	第31回：定期試験（レポート）																																				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論		
授業コード	H2040	授 業 科 目	西欧思想論		
担 当 者	高木 孝子	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	19世紀の西欧社会は多くの優れた女性思想家を輩出した。そこで本講義では、西欧諸国における女性思想家たちの議論の展開をたどり、キリスト教思想と女性問題について考察していきたい。				
到 達 目 標	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究していきたい。				
成 績 評 価 基 準	授業の参加、発表態度等を総合的に判断する。				
留 意 事 項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。				
教 材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀の西欧社会について 2. 西欧諸国における女性思想家たちの議論の展開について 3. キリスト教思想と女性問題について 				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	精神機能論		
授業コード	H2070	授 業 科 目	人間性教育論		
担 当 者	小林 修典	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	人間性の陶冶は一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用と考え、「青少年が家庭、教育機関、社会とどのように関わり合いながら人間形成を行っていくか」というテーマを追求する。				
到 達 目 標	少子高齢化とグローバリズムの時代の日本の社会での人間性の教育のあり方について提言できる力を涵養する。				
成 績 評 価 基 準	出席、授業参加、課題（レポート等）を総合的に評価する。				
留 意 事 項	使用するテキストは、翻訳のない英語論文がほとんどである。				
教 材	そのつど指示する。				
授 業 予 定	「人間発達と教育に関する現代日本社会の価値観は、青少年をとりまく環境をどのように形成しているのか」という問題に関連する研究を紹介していく。学生は、紹介された欧米の研究文献について分析、発表を行う。				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2100	授 業 科 目	発達保健論		
担 当 者	小田 慈	授 業 形 態	講義		
期 間	集中	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	<p>少子・高齢化社会における小児保健・福祉、成育医療のあり方について、最新の状況をもとに、様々な視点からとりあげ検討し、あるべき姿について知見を深める。</p>				
到 達 目 標	<p>当該分野における博士号を有する研究者として恥ずかしくない知識と教養を身につける。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>取り組み姿勢、レポートなど総合的な評価。</p>				
留 意 事 項	<p>文献を教材とする。文献検索方法についての理解が必要。</p>				
教 材	<p>当該分野における最新情報を含め適宜紹介。</p>				
授 業 予 定	<p>1. 我が国における小児医療の現状と問題点 2. 小児の成長と発達 3. 小児保健指標 4. 発達障がいとその対応 5. 成育医療 6. 疾患の予防と成育環境</p>				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2110	授 業 科 目	予防栄養論		
担 当 者	木本 眞順美	授 業 形 態	講義		
期 間	集中	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	<p>生命現象あるいはその障害の理解には代謝学の学びが必須となり、その知識は我々が目標とする病気の予防に効果的に働く。本講義においては、代謝学のコア部分を体系的かつ専門的に論述する。同時に、研究史上トピックスとなった研究事例を通して、解説・討論する。</p>				
到 達 目 標	<p>生命現象を分子の構造から遺伝子の調節系に至るまで、あらゆる代謝系の統合として理解し、追究できる能力の修得</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>期末レポート（70%）、毎授業での討論内容（30%）などを総合して評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>生命科学の多分野に興味をもち、積極的に討論に参加する。</p>				
教 材	<p>授業中、適宜指示する。</p>				
授 業 予 定	<p>1. 一酸化窒素（NO）の発見からその代謝機構、生理的役割 2. NOの病態生理学的役割：生活習慣病の発症と予防 3. 時間栄養学研究の現状 4. メチル化アミノ酸代謝とエピジェネティクス</p>				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2120	授 業 科 目	栄養環境論		
担 当 者	戸田 雅裕	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	環境問題は地域レベルから地球規模に至るまで多岐に渡っているが、便利で豊かな現代生活の代償でもあることからその解決は容易ではなく、また各人の立場により捉え方が異なることも問題をより複雑にしている。本講義では日々深刻化する環境問題について認識を深めるとともに、その解決に向け管理栄養士として果たすべき役割を考究する。				
到 達 目 標	種々の環境問題についての理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。				
成 績 評 価 基 準	出席状況、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。				
留 意 事 項	身近なところから環境問題を意識するよう心がけてほしい。				
教 材	資料を適宜配布する。				
授 業 予 定	週1回、上記内容についての講義を実施する。				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2130	授 業 科 目	環境生態栄養論		
担 当 者	佐藤 眞一	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	集中	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	県ないし県下各市町村の各種健康指標、栄養摂取関連指標を、全国ないし他都道府県・市町村との比較の中で把握し、栄養施策立案につなげるための方法を学ぶ。学生の興味により、より深い栄養疫学研究手法への展開や、ヘルスプロモーションへの展開について具体的な方法を学ぶ。				
到 達 目 標	既存の調査資料の解釈をでき、PDCAサイクルを回す計画立案ができること。				
成 績 評 価 基 準	授業中の反応とレポートの内容から総合的に評価する。				
留 意 事 項	課題探索型の積極的姿勢での受講を望む。				
教 材	一般に入手可能な公的統計資料等。				
授 業 予 定	1. 食事調査法毎のバイアスと利活用 2. 国民健康栄養調査の活用 3. 特定健診・保健指導成績の活用 4. ヘルシーボランティア効果 5. 平均値への回帰 6. 実験デザインと必要サンプル数 7. ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ 8. 行政アプローチとその標価				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2135	授 業 科 目	環境微生物論		
担 当 者	長濱 統彦	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	自然環境に生息する真菌を中心とした微生物の生態を学び、環境と食品衛生との接点を考察する。微生物が生産する二次代謝産物の分子進化学的解析法を学ぶ。微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に適用していく。				
到 達 目 標	微生物生態学の多様性解析手法を理解し、食と衛生に関わる微生物に対して実践できるようになる。				
成 績 評 価 基 準	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する				
留 意 事 項	コンピュータプログラムを用いた解析を随時行う				
教 材	関連する学術論文を使用する				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の進化と系統 2. 遺伝子を用いた生物系統の推定法 3. 微生物群集の解析法 4. 真菌の進化と生態 5. 真菌の二次代謝産物と多様性 6. かび毒の生合成系と検出法 				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論		
授業コード	H2140	授 業 科 目	生体機能調節論		
担 当 者	林 泰資	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	脳の機能は、受容体やイオンチャンネルなどを介した神経細胞相互の情報伝達とその精密な調節により発揮されており、生体の恒常性維持から学習、記憶、情動などの高次神経機能まで担っている。本講義では、人体を総合的に調節する脳機能のうち、特に高次神経機能に焦点をあてて、神経生理学および神経薬理学的観点から考究する。さらに、食品成分の機能や新しい医薬品の可能性について考える。				
到 達 目 標	人間理解のために、脳機能の生理学的理解は不可欠である。本講義では高次神経機能の考究を通じて、人々の健康の保持・増進に寄与できる人材育成を目指す。				
成 績 評 価 基 準	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	毎回、プリント等を配付する。				
授 業 予 定	高次神経機能に関する講義を行い、その後、最新の文献を解説する。				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論			
授業コード	H2160	授業科目	食品栄養論			
担当者	小林 謙一	授業形態	講義			
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III	
授業概要	アミノ酸栄養状態の不良およびアミノ酸代謝の異常が、各種疾患の病態とどのような関連性をもっているのかについて、最新の知見をもとに論じるとともに、それらの疾患を予防するための栄養改善の可能性について考究する。					
到達目標	アミノ酸栄養・代謝に関する断片的な科学情報を統合的に理解する能力を身につけ、栄養と病態にまつわる今日的課題を解決できる「考え方」と「行動力」を身につける。					
成績評価基準	受講態度、論文読解、課題発表、課題レポートを総合的に評価する					
留意事項	特になし。					
教材	国内外の学術論文を教材とする。					
授業予定	1～5 アミノ酸栄養・代謝と糖尿病 6～10 アミノ酸栄養・代謝と高血圧 11～15 アミノ酸栄養・代謝と脂質異常症 16～20 アミノ酸栄養・代謝とガン 21～25 アミノ酸栄養・代謝と慢性腎臓病 26～30 病態予防のための食品因子および栄養改善					

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	保健栄養論			
授業コード	H2170	授業科目	調理文化論			
担当者	今田 節子	授業形態	講義			
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III	
授業概要	伝統食（海藻、魚介類、大豆類）の特徴を自然・人文・社会科学の学際領域からとらえ、日本の調理文化の特徴を明確にし、その変容と背景および実態を総合的に論述する。さらに今日の健康食としての伝統食の意義についても考察を進める。					
到達目標	調理は文化であるという視点を具体的に理解し、アジア文化圏との関わり、歴史的関わり、社会環境との関わりの中で日本の調理文化を把握できる能力を養う。					
成績評価基準	受講への積極性、授業内容に関する思考・発表能力、課題レポートなどにより総合的に評価する。					
留意事項	世界の、またアジア文化圏のなかの日本の食文化に広い視野から関心を持つこと。					
教材	伝統食の現地調査結果、文献調査結果を資料とする。授業時に必要に応じて資料を配付、または参考文献を紹介する。					
授業予定	これまでの調査研究結果に基づき論述する。1. 新しい調理学体系と調理文化の位置づけ 2. 調理文化の研究手法 3. アジア文化圏のなかの日本の調理文化 4. 調理文化の歴史的変容と背景 5. 調理文化の現状と伝承への取り組み 6. 健康食としての再評価					

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	H 2 3 2 0	授 業 科 目	社会福祉論		
担 当 者	杉山 博昭	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	国際的・国内的な社会状況において、社会福祉学研究が直面している課題について、思想・歴史・政治・経済政策、実践・専門職の観点から検討し、国際的な社会の変容のなかでの、社会福祉の役割と限界を検討する。				
到 達 目 標	貧困、介護など現代社会の諸問題への解決の方策について、主体的に議論する能力を獲得する。				
成 績 評 価 基 準	発表態度・発表内容の総合的判断（50%）、年3回のレポート（50%）				
留 意 事 項	指定した文献を読みこなしただうえで、主体的に参加すること。				
教 材	講読する文献を随時指示する。文献は主に、近年発刊された社会福祉の学術文献のうち、思想・理論・歴史など、総論的なものとする。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉思想研究の意義 2 社会福祉思想研究の動向 3 政策・実践と思想 4 社会福祉の存在意義としての「生」 5 なぜ社会福祉がなくてはならないのか 6 生命倫理と社会福祉 7 社会福祉研究における歴史研究の意義 8 日本についての歴史研究の到達点と課題 9 外国についての歴史研究の到達点と課題 10 社会福祉と連帯・協同 11 コミュニティと福祉 12 社会福祉運動の歴史と意義 13 社会福祉政策の動向 14 社会福祉研究と政策 15 これからの社会福祉政策 16 社会福祉と経済 17 新自由主義と社会福祉 18 経済発展は社会福祉の必須の条件か 19 福祉サービスの企業化をどう捉えるか 20 社会福祉と財政 21 社会福祉実践の専門性 22 社会福祉国家資格の意義と限界 23 専門職養成の目標と現実 24 少子高齢化における社会福祉の課題 25 介護問題の広がりやをどう考えるか 26 地域包括ケアシステム 27 社会福祉と医療との連携の課題 28 社会福祉の国際動向 29 グローバル化のなかでの社会福祉 30 まとめ－社会福祉研究において、何にどう取り組むか 				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	H 2 3 6 0	授 業 科 目	住環境論		
担 当 者	上田 恭嗣	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	<p>二十世紀の科学技術の進展によって、日本の住環境のあり方は大きく変容してきた。また、現在もその流れの中に依然としてあり、日本の住まいのありようも一変してきている。巨大に都市化した都市住環境のあり方と、地方都市、地方の市町村における住環境とは、自ずと異なったものである。機能と利便性を第一とした住環境指向ではなく、人の生活を考え住む地域に相応しい住環境施策が改めて求められる時代である。講義では、このような内容について深く検証し、地域に根ざした住環境のあり方について講述する。</p>				
到 達 目 標	21世紀における住環境のあり方について、論じることのできる能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	発表内容・レポート内容・試験等を総合して評価する。				
留 意 事 項	各テーマ毎にレポートを課す。				
教 材	必要に応じて指示する。				
授 業 予 定	今日の住まいの形成に至る住環境の歴史的変遷（1）～（8）、20世紀における住環境形成の評価と考察（9）～（15）、現在における住環境問題の考察（16）～（20）、都市環境における住環境の変容と考察（21）～（24）、今後の住環境への対応と考察（25）～（30）、試験（31）				

人間生活学研究科 人間複合科学専攻 博士後期課程		研究分野／領域			
授業コード	H 2 5 6 0～	授 業 科 目	課題研究		
担 当 者	各研究指導担当教員	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年（3年）	単 位 数	4	対 象 年 次	I ～ III
授 業 概 要	それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。				
到 達 目 標	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。				
成 績 評 価 基 準					
留 意 事 項	自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。				
教 材					
授 業 予 定	学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。				